福島県文化財調査報告書　第494集

福島県内遺跡分布調査報告20

２０１３年１１月

福 島 県 教 育 委 員 会

福島県内遺跡分布調査報告20

序　　文

福島県教育委員会は，大規模開発等から埋蔵文化財包蔵地を保護するため，開発事業が行われる以前に詳細な分布調査を実施し，関係機関と保存協議を行い，埋蔵文化財の保存に努めております。

平成24年度は，３市４町の区域内で計画された５事業について試掘調査と表面調査を財団法人福島県文化振興財団に委託して実施しました。

浜通り・中通り地方では，相馬市及び相馬郡新地町において常磐自動車道建設事業に関連した８箇所の試掘調査，相馬市・伊達市において一般国道115号相馬福島道路建設事業に関連した270ha の表面調査と５箇所の試掘調査を実施しました。岩瀬郡鏡石町では，一般国道118号バイパス建設事業に関連した２箇所の試掘調査を実施しています。

会津地方では，会津若松市において会津縦貫北道路建設事業に関連した２ha の表面調査及び６箇所の試掘調査，南会津郡下郷町においては会津縦貫南道路建設事業に関連した１箇所の試掘調査を実施しています。

試掘調査と表面調査の結果，存在が知られていた遺跡の範囲や内容が明らかになるとともに，これまで知られていなかった遺跡を発見することもできました。特に会津縦貫南道路建設事業関連の試掘調査では縄文時代中期の大規模集落遺跡が発見され，この地域の重要性を改めて認識することができました。

本報告書が，埋蔵文化財の保護や地域の歴史を解明するための基礎資料となり，さらには生涯学習の資料として広く県民の皆様に御活用いただければ幸いです。

最後に，この調査に御協力いただいた当該市町村教育委員会や財団法人福島県文化振興財団をはじめ関係機関並びに関係各位に対し深く感謝の意を表します。

平成25年11月

福島県教育委員会
教育長　杉　昭　重

緒　　言

1．本書は，平成24年度に実施した常磐自動車道，一般国道115号相馬福島道路，一般国道118号バイパス，地域高規格道路（会津縦貫北道路・会津縦貫南道路）の各建設予定地内に所在する遺跡及び遺跡推定地（試掘調査により遺跡の存否を確認する地点）の試掘調査，一般国道115号相馬福島道路，会津縦貫北道路の表面調査の報告書である。

2．この調査は，国庫補助を受け福島県教育委員会が実施した。

3．福島県教育委員会は，調査を財団法人福島県文化振興事業団（平成24年10月１日より財団法人福島県文化振興財団に改称）に委託した。

4．財団法人福島県文化振興財団は，下記の職員を配置して調査を実施した。

文化財主査　今野　徹　　文化財主査　門脇　秀典

嘱　　託　鈴木　侑加子

5．本書は，財団法人福島県文化振興財団（遺跡調査部県内遺跡分布調査担当）の職員が執筆した。

6．調査にあたっては，地元地権者･地権者会･行政区長をはじめ下記の機関に多くの協力をいただいた。

新地町教育委員会　相馬市教育委員会　伊達市教育委員会　鏡石町教育委員会

須賀川市教育委員会　会津若松市教育委員会　下郷町教育委員会

福島県土木部（県中建設事務所）

国土交通省東北地方整備局（福島河川国道事務所・郡山国道事務所・磐城国道事務所）

東日本高速道路株式会社東北支社（相馬工事事務所）

7．本書に掲載した自然科学分析は，次の機関に委託した。

火山灰分析　パリノ・サーヴェイ株式会社

8．事業名称が長いものについては，一部省略した表現を用いている。

9．本書に使用した遺跡の調査記録及び出土資料は，福島県教育委員会が保管している。

用　　例

1．本書における用例は次のとおりである。

(1)　遺跡及び遺跡推定地の位置図は，国土交通省国土地理院発行縮尺1/25,000の地形図(新地・相馬中村･霊山･萩平･須賀川西部･会津広田･湯野上･甲子山)を，一般国道115号相馬福島道路位置図は，同じく縮尺1/200,000の地形図(福島)を複製したものを使用している。

(2)　トレンチ配置図は，各事業主体作製の縮尺1/1,000・1/2,000・1/2,500地形図を基とした。

2．本書第２章における遺跡・遺跡推定地及びトレンチ配置図の用例は次のとおりである。

(1)　保存：現状保存範囲

(2)　未試掘：未試掘範囲

(3)　慎工：工事などの実施にあたっては慎重工事の措置をとる必要がある範囲

(4)　除外：遺跡推定地で遺構・遺物が確認されず，遺跡として取り扱わないと判断された範囲

(5)　：遺構・遺物が確認できたトレンチ

(6)　：遺構・遺物が確認できなかったトレンチ

(7)　————：工事予定範囲

(8)　——·——：表面調査による遺跡推定範囲

3．遺跡推定地の名称は便宜上アルファベットの「Ｂ」と算用数字を組合せて表記するが，試掘調査によって遺跡であることが確定すれば所在地の字名や地名をとり，新たに遺跡名称を付している。

4．各遺跡の呼び方は，『日本地名大辞典７福島県』(角川書店)収録の「小字一覧」にならったが，通称が定着しているときは，それに従った。

5．遺構図の用例は次のとおりである。

(1)　平面図の縮尺は，基本的に各挿図版の右下(スケール右側)に記した。

(2)　検出した遺構は，網点で表示した。

(3)　土色の判定に際しては，『新版標準土色帖』(日本色研事業株式会社)を用いた。

6．遺物図の用例は次のとおりである。

(1)　縮尺は各挿図版の下(スケール右側)に記した。

(2)　土器・石器の法量・計測値は，各実測図下に推定値は(　)，遺存値は[　]で表記した。

7．本書で使用した略号は，次のとおりである。

Ｔ：トレンチ	Ｌ：遺構外堆積土	ℓ：遺構内堆積土	ＳＡ：柱列跡
ＳＤ：溝　跡	ＳＩ：住居跡	ＳＫ：土　坑	Ｐ：小　穴
ＡＷ：会津若松市	ＫＩ：鏡石町	ＤＴ：伊達市	ＳＭ：相馬市
ＳＴ：新地町	ＣＧ：下郷町	ＵＫ：湯川村	

目　　次

第１章　遺跡分布調査の概要 …… 1

第２章　試　掘　調　査 …… 3

第１節　常磐自動車道建設予定地 …… 3

（1）相馬市の遺跡

払川遺跡（3）

（2）新地町の遺跡

ＳＴ－Ｂ⑯（4）　南狼沢Ａ遺跡（6）　ＳＴ－Ｂ⑪［南狼沢Ａ遺跡］（8）

鈴山遺跡［ＳＴ－Ｂ⑨］（9）　赤柴遺跡（10）　赤柴前遺跡（11）

ＳＴ－Ｂ⑮［赤柴前遺跡］（13）

第２節　一般国道115号相馬福島道路建設予定地 …… 15

宝直館跡（17）　宝直遺跡（19）　熊屋敷Ｂ遺跡（20）

ＤＴ－Ｂ９［行合道Ｂ遺跡］（22）　ＤＴ－Ｂ14［川向遺跡］（22）

第３節　一般国道118号バイパス建設予定地 …… 25

江泉館跡（25）　ＫＩ－Ｂ１（27）

第４節　地域高規格道路（会津縦貫北道路）建設予定地 …… 28

ＡＷ－Ｂ１［西木流Ｃ遺跡］（29）　西木流Ｄ遺跡（30）　ＡＷ－Ｂ３［鶴沼Ｂ遺跡］（30）

ＡＷ－Ｂ２［鶴沼Ｂ・Ｃ遺跡］（33）　ＡＷ－Ｂ４（35）　ＡＷ－Ｂ５［西坂才遺跡］（35）

第５節　地域高規格道路（会津縦貫南道路）建設予定地 …… 37

栗林遺跡（39）

第６節　西坂才・栗林遺跡の火山灰分析 …… 49

西坂才遺跡［ＡＷ－Ｂ５］（49）　栗林遺跡（53）

第３章　表　面　調　査 …… 56

第１節　一般国道115号相馬福島道路建設予定地 …… 56

第２節　地域高規格道路（会津縦貫北道路）建設予定地 …… 57

第４章　総　　括 …… 58

挿図・表・写真目次

［挿　図］

第１章

図１　県内遺跡分布調査位置図 …… 1

第２章

図２　相馬市の遺跡 …… 3
図３　払川遺跡トレンチ配置図 …… 4
図４　新地町の遺跡 …… 5
図５　ＳＴ－Ｂ⑯トレンチ配置図 …… 6
図６　南狼沢Ａ遺跡・ＳＴ－Ｂ⑪トレンチ配置図・検出遺構・土層柱状図・出土遺物 …… 7
図７　鈴山遺跡［ＳＴ－Ｂ⑨］トレンチ配置図 …… 9
図８　赤柴遺跡トレンチ配置図・検出遺構・土層柱状図 …… 10
図９　赤柴前遺跡・ＳＴ－Ｂ⑮トレンチ配置図 …… 12
図10　赤柴前遺跡検出遺構・土層柱状図 …… 13
図11　ＳＴ－Ｂ⑮検出遺構・土層柱状図・出土遺物 …… 14
図12　一般国道115号相馬福島道路位置図 …… 15
図13　伊達市の遺跡（１）…… 16
図14　伊達市の遺跡（２）…… 17
図15　宝直館跡・宝直遺跡トレンチ配置図 …… 18
図16　宝直館跡検出遺構・土層柱状図・出土遺物 …… 19
図17　宝直遺跡検出遺構・土層柱状図・出土遺物 …… 20
図18　熊屋敷Ｂ遺跡トレンチ配置図・土層柱状図・出土遺物 …… 21
図19　ＤＴ－Ｂ９トレンチ配置図・土層柱状図・出土遺物 …… 23
図20　ＤＴ－Ｂ14トレンチ配置図・土層柱状図・出土遺物 …… 24
図21　鏡石町・須賀川市の遺跡 …… 25
図22　江泉館跡トレンチ配置図 …… 26
図23　ＫＩ－Ｂ１トレンチ配置図 …… 27
図24　会津若松市の遺跡 …… 28
図25　ＡＷ－Ｂ１トレンチ配置図・土層柱状図・出土遺物 …… 29
図26　西木流Ｄ遺跡トレンチ配置図・検出遺構・土層柱状図・出土遺物 …… 31
図27　ＡＷ－Ｂ３トレンチ配置図・検出遺構・土層柱状図 …… 32
図28　ＡＷ－Ｂ２トレンチ配置図・検出遺構・土層柱状図・出土遺物 …… 34
図29　ＡＷ－Ｂ５トレンチ配置図・土層柱状図・出土遺物 …… 36
図30　ＡＷ－Ｂ５検出遺構 …… 37
図31　下郷町の遺跡（１）…… 38
図32　下郷町の遺跡（２）…… 39
図33　栗林遺跡トレンチ配置図 …… 41
図34　栗林遺跡検出遺構・土層柱状図 …… 42
図35　栗林遺跡出土遺物（１）…… 43
図36　栗林遺跡出土遺物（２）…… 44
図37　栗林遺跡出土遺物（３）…… 45
図38　栗林遺跡出土遺物（４）…… 46
図39　栗林遺跡出土遺物（５）…… 47
図40　栗林遺跡出土遺物（６）…… 48
図41　火山灰分析結果 …… 51

第３章

図42　相馬福島道路(阿武隈東ＩＣ～阿武隈ＩＣ間)予定路線と遺跡推定地 …… 56
図43　会津縦貫北道路予定路線と遺跡推定地 …… 57

［ 表 ］

第１章

表１　常磐自動車道試掘調査遺跡一覧 …… 2
表２　相馬福島道路試掘調査遺跡一覧 …… 2
表３　一般国道118号バイパス試掘調査遺跡一覧 …… 2
表４　地域高規格道路（会津縦貫北道路）試掘調査遺跡一覧 …… 2
表５　地域高規格道路（会津縦貫南道路）試掘調査遺跡一覧 …… 2

第２章

表６　相馬市所在遺跡試掘調査成果一覧 …… 3
表７　新地町所在遺跡試掘調査成果一覧 …… 4
表８　南狼沢Ａ遺跡トレンチ一覧 …… 6
表９　ＳＴ－Ｂ⑪トレンチ一覧 …… 8
表10　赤柴遺跡トレンチ一覧 …… 10
表11　赤柴前遺跡トレンチ一覧 …… 11
表12　ＳＴ－Ｂ⑮トレンチ一覧 …… 15
表13　伊達市所在遺跡試掘調査成果一覧 …… 16
表14　宝直館跡トレンチ一覧 …… 17
表15　宝直遺跡トレンチ一覧 …… 19
表16　熊屋敷Ｂ遺跡トレンチ一覧 …… 20
表17　ＤＴ－Ｂ９トレンチ一覧 …… 22
表18　ＤＴ－Ｂ14トレンチ一覧 …… 22
表19　鏡石町所在遺跡試掘調査成果一覧 …… 25
表20　会津若松市所在遺跡試掘調査成果一覧 …… 28
表21　ＡＷ－Ｂ１トレンチ一覧 …… 29
表22　西木流Ｄ遺跡トレンチ一覧 …… 30
表23　ＡＷ－Ｂ３トレンチ一覧 …… 32
表24　ＡＷ－Ｂ２トレンチ一覧 …… 33
表25　ＡＷ－Ｂ５トレンチ一覧 …… 35
表26　下郷町の遺跡 …… 39
表27　栗林遺跡トレンチ一覧 …… 40
表28　西坂才遺跡採取土壌のテフラ検出結果 …… 50
表29　西坂才遺跡採取土壌の火山ガラス比分析結果 …… 50
表30　西坂才遺跡採取土壌の重軽鉱物分析結果 …… 51
表31　栗林遺跡採取土壌のテフラ検出結果 …… 54
表32　栗林遺跡採取土壌の火山ガラス比分析結果 …… 54
表33　栗林遺跡採取土壌の重軽鉱物分析結果 …… 55

第３章

表34　相馬福島道路（阿武隈東～阿武隈間）関連遺跡一覧 …… 56
表35　会津縦貫北道路関連遺跡一覧 …… 57

第４章

表36　常磐自動車道関連試掘調査対象遺跡成果一覧 …… 59
表37　相馬福島道路（阿武隈東ＩＣ～阿武隈ＩＣ間）試掘調査対象遺跡成果一覧 …… 60
表38　相馬福島道路（霊山道路）試掘調査対象遺跡成果一覧 …… 60
表39　一般国道118号バイパス関連試掘調査対象遺跡成果一覧 …… 61
表40　会津縦貫北道路関連試掘調査対象遺跡成果一覧 …… 61
表41　会津縦貫北道路関連試掘調査対象遺跡成果一覧 …… 62
表42　会津縦貫南道路関連試掘調査対象遺跡成果一覧 …… 62

［写　真］

第１章

1　常磐自動車道建設予定地の遺跡遠景（南から）…… 1
2　会津縦貫北道路建設予定地の遺跡遠景（北から）…… 1

第２章

3　調査風景（南から）…… 6
4　調査前風景（南から）…… 8
5　60号トレンチ遺構検出状況（北から）…… 10
6　調査前風景（東から）…… 11
7　２号トレンチ土坑断面（西から）…… 13
8　遺跡遠景（北から）…… 17
9　８号トレンチ遺構検出状況（北から）…… 19
10　調査風景（北西から）…… 20
11　調査前遠景（南西から）…… 22
12　５号トレンチ全景（東から）…… 22
13　調査前風景（南から）…… 29
14　８号トレンチ遺物出土状況（南から）…… 30
15　作業風景（東から）…… 30
16　21号トレンチ遺構検出状況（西から）…… 33
17　17号トレンチ遺構検出状況（西から）…… 35
18　調査前風景（東から）…… 39
19　９号トレンチ土層断面（南から）…… 40
20　９号トレンチ遺構検出状況（南東から）…… 40
21　８号トレンチ埋設土器出土状況（北から）…… 40
22　試料写真 …… 52

第１章　遺跡分布調査の概要

平成24年度は，５事業３市４町についての試掘調査111,200㎡，及び２事業３市の表面調査を財団法人福島県文化振興財団に委託して実施した。

［常磐自動車道］

相馬市・新地町，宮城県山元町における計画路線内の遺跡・遺跡推定地である払川遺跡・ＳＴ－Ｂ⑯・南狼沢Ａ遺跡・ＳＴ－Ｂ⑪・鈴山遺跡・赤柴遺跡・赤柴前遺跡・ＳＴ－Ｂ⑮の８箇所計34,900㎡を対象に試掘調査を実施した。なお，南狼沢Ａ遺跡・赤柴遺跡・赤柴前遺跡・ＳＴ－Ｂ⑮については，試掘終了後，本発掘調査を行っている。

1　常磐自動車道建設予定地の遺跡遠景（南から）

［一般国道115号相馬福島道路］

伊達市霊山町における計画路線内の遺跡・遺跡推定地である宝直館跡・宝直遺跡・熊屋敷Ｂ遺跡・ＤＴ－Ｂ９・ＤＴ－Ｂ14の５箇所計25,950㎡を対象に試掘調査を実施した。

［一般国道118号バイパス］

岩瀬郡鏡石町における計画路線内の遺跡・遺跡推定地である江泉館跡・ＫＩ－Ｂ１の２箇所8,550㎡を対象に試掘調査を実施した。

2　会津縦貫北道路建設予定地の遺跡遠景（北から）

［地域高規格道路（会津縦貫北道路）］

会津若松市における計画路線内の遺跡・遺跡推定地である西木流Ｄ遺跡・ＡＷ－Ｂ１・ＡＷ－Ｂ２・ＡＷ－Ｂ３・ＡＷ－Ｂ４・ＡＷ－Ｂ５の６箇所33,300㎡を対象に試掘調査を実施した。

［地域高規格道路（会津縦貫南道路）］

南会津郡下郷町における計画路線内の栗林遺跡8,200㎡を対象に試掘調査を実施した。

［表　面　調　査］

平成24年度における表面調査は，相馬市・伊達市の一般国道115号相馬福島

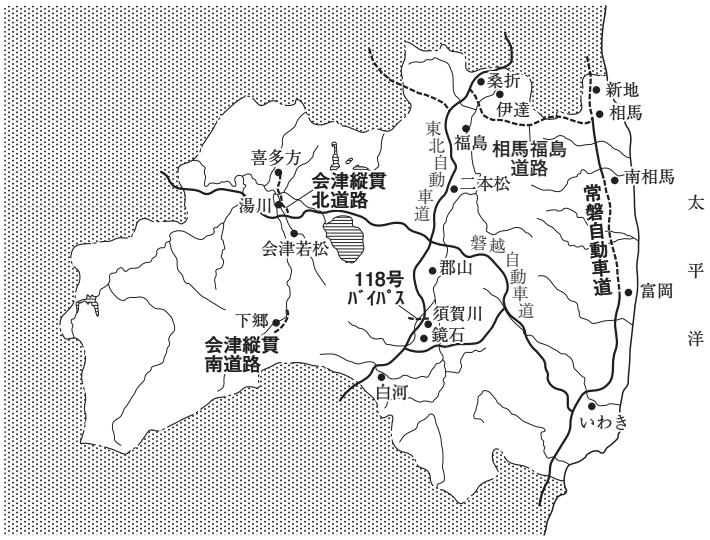


図１　県内遺跡分布調査位置図

道路(阿武隈東～阿武隈)建設に伴う計画路線内270haについて実施した。また，会津若松市の地域高規格道路(会津縦貫北道路)における計画路線内２haの表面調査を実施した。

表１　常磐自動車道試掘調査遺跡一覧

名　称	所　在　地	立　地	調　査　期　間	トレンチ	備　考
払川遺跡	相馬市初野字払川	丘陵	11/2	１本　6.5%	
ＳＴ－Ｂ⑯	宮城県亘理郡山元町坂元	段丘面	4/11	２本　5.0%	
南狼沢Ａ遺跡	新地町谷地小屋字南狼沢	段丘面	4/16～4/20，2/12～2/14	17本　13.0%	
ＳＴ－Ｂ⑪	谷地小屋字南狼沢	段丘面～沖積地	2/12～2/14	４本　2.2%	「南狼沢Ａ遺跡」に含める
鈴山遺跡	杉目字鈴山・五郎四郎	丘陵～沖積地	7/19	２本　4.1%	
赤柴遺跡	駒ヶ嶺字赤柴	段丘面	4/17	１本　11.7%	
赤柴前遺跡	駒ヶ嶺字赤柴前	段丘面	5/7～6/13，10/29～11/ 1	46本　14.3%	
ＳＴ－Ｂ⑮	駒ヶ嶺字赤柴前	段丘面	5/7～6/13	20本　18.2%	「赤柴前遺跡」に含める

表２　相馬福島道路試掘調査遺跡一覧

名　称	所　在　地	立　地	調　査　期　間	トレンチ	備　考
宝直館跡	伊達市月舘町布川字宝直・大舘	丘陵	11/6～11/30	57本　5.4%	
宝直遺跡	月舘町字布川字宝直・大舘	丘陵	12/3～12/14	10本　5.0%	
熊屋敷Ｂ遺跡	霊山町石田字熊屋敷	丘陵	9/25～10/3	６本　6.2%	
ＤＴ－Ｂ９	霊山町石田字行合道・川向	丘陵	7/10～7/25	25本　7.9%	「行合道Ｂ遺跡」に名称変更
ＤＴ－Ｂ14	霊山町石田字川向・庚申向	段丘面	12/13～12/19	６本　9.1%	「川向遺跡」に名称変更

表３　一般国道118号バイパス試掘調査遺跡一覧

名　称	所　在　地	立　地	調　査　期　間	トレンチ	備　考
江泉館跡	鏡石町深内町	丘陵～沖積地	6/19～6/20，10/22～10/25	17本　5.8%	
ＫＩ－Ｂ１	蒲之沢町	段丘面	10/26	３本　3.5%	

表４　地域高規格道路(会津縦貫北道路）試掘調査遺跡一覧

名　称	所　在　地	立　地	調　査　期　間	トレンチ	備　考
ＡＷ－Ｂ１	会津若松市高野町木流字木流	沖積地	11/20	３本　3.9%	「西木流Ｃ遺跡」に含める
西木流Ｄ遺跡	高野町木流字木流・橋本	沖積地	7/31 ～ 8/10	18本　5.6%	
ＡＷ－Ｂ３	高野町木流字橋本，中沼字鶴沼	沖積地	8/29 ～ 9/16	10本　8.6%	「鶴沼Ｂ遺跡」に名称変更
ＡＷ－Ｂ２	高野町木流字橋本，中沼字鶴沼	沖積地	8/21 ～ 8/31	24本　6.4%	「鶴沼Ｂ・Ｃ遺跡」に名称変更
ＡＷ－Ｂ４	高野町中沼字沼木	沖積地	12/3 ～ 12/12	７本　6.0%	
ＡＷ－Ｂ５	高野町中沼字西坂才	沖積地	11/21 ～ 11/30	26本　9.8%	「西坂才遺跡」に名称変更

表５　地域高規格道路(会津縦貫南道路）試掘調査遺跡一覧

名　称	所　在　地	立　地	調　査　期　間	トレンチ	備　考
栗林遺跡	下郷町中妻字横向・栗林・和田前	段丘面	11/5 ～ 11/16	27本　5.0%	

［註］：表中のトレンチ内の％は，今年度試掘調査対象面積に対するトレンチ面積の割合を示す。

第２章　試 掘 調 査

第１節　常磐自動車道建設予定地

常磐自動車道は，埼玉県三郷市の三郷インターチェンジ(以下，ＩＣと略す)を起点として，千葉県，茨城県，福島県を通り，宮城県亘理郡亘理町の亘理ＩＣを終点とする高速道路である。現在，東日本高速道路株式会社東北支社が事業を進めており，三郷ＩＣから広野ＩＣ，南相馬ＩＣから相馬ＩＣ，山元ＩＣから亘理ＩＣ間は供用している。福島県内における試掘調査は浜通り地方南端のいわき市から開始され，平成21年度までに相馬市以南の試掘調査が一旦終了している。

平成24年度は，工区が一部変更されたため相馬市の遺跡１箇所の試掘調査を実施した。また，新地町では遺跡４箇所，遺跡推定地２箇所の試掘調査を，宮城県亘理郡山元町では遺跡推定地１箇所(新地町新田遺跡隣接地)の試掘調査を実施した。

（１）相馬市の遺跡

１．払川（はらいがわ）遺 跡（第２次調査）

所　在　地　相馬市初野字払川

調査対象面積　300㎡　　**トレンチ数**　１本　　**保 存 面 積**　0㎡

調 査 期 間　平成24年11月２日　　**検 出 遺 構**　なし　　**出 土 遺 物**　なし

表６　相馬市所在遺跡試掘調査成果一覧

No.	遺　跡　名	遺跡工区内面　　積	平成 24 年度調査		未試掘面積	平成 24 年度検出遺構・出土遺物	
			調査対象面積	保 存 面 積		検 出 遺 構	出 土 遺 物
1	払川遺跡	13,000㎡	300㎡	0㎡	0㎡		
	相馬市　計	13,000㎡	300㎡	0㎡	0㎡		

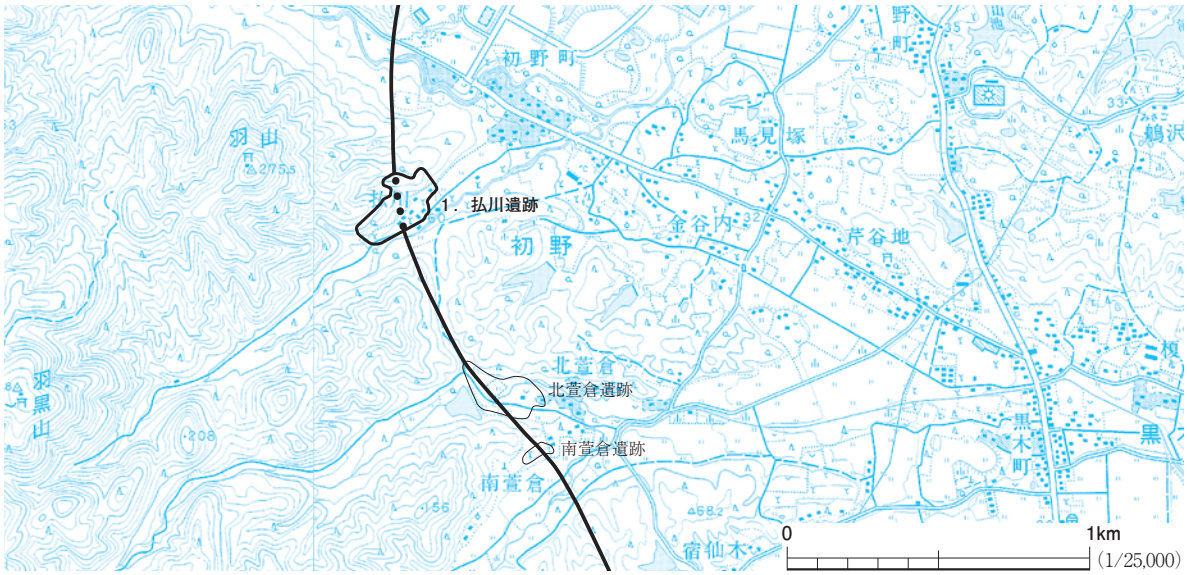


図２　相馬市の遺跡

［概　　要］　払川遺跡は周知の遺跡で，平成10年度の表面調査において縄文土器が採集されている(『福島県内遺跡分布調査報告５』)。また，平成22年度の本発掘調査においては，平安時代から鎌倉時代にかけての木炭焼成土坑が確認された(『常磐自動車道遺跡調査報告67』)。本遺跡は，阿武隈高地から張り出す丘陵の南向き斜面に立地し，遺跡の南側を払川が東流している。現況は，宅地である。今回の試掘調査は，工事計画の変更により新たに工区となった300㎡を対象に，トレンチ１本を設定して行った。堆積土を観察すると，厚さ90cmの盛土直下に砂質土が厚く堆積している。基盤層とみられる褐色砂礫層は，地表面から240cmの深さで確認された。このことから，調査区は谷地が自然埋没し，さらに宅地として造成されたものと判断された。

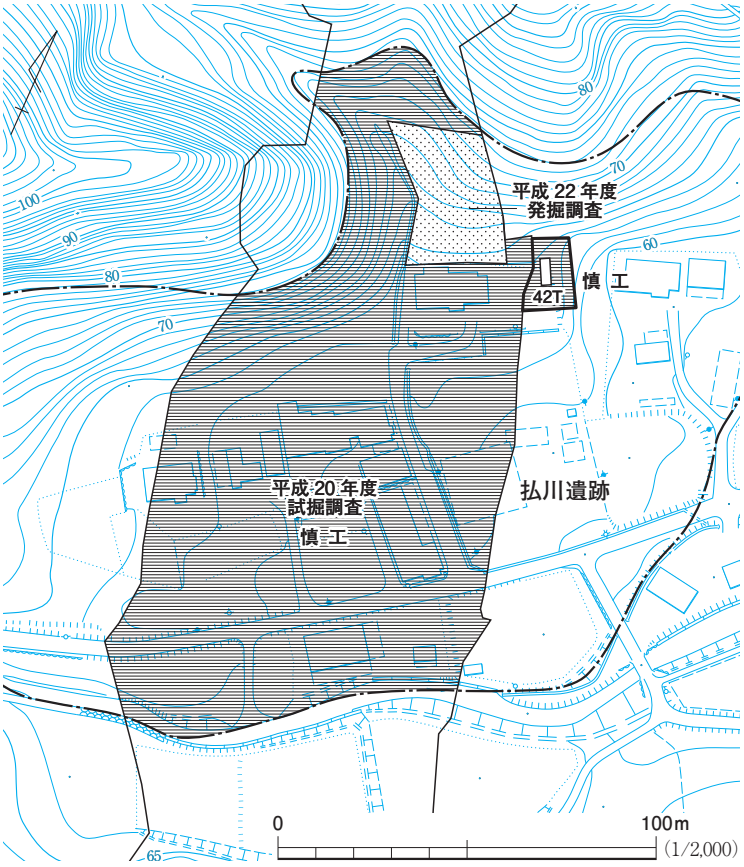


図３　払川遺跡トレンチ配置図

［ま　と　め］　試掘調査の結果，遺構・遺物は確認できなかった。このことから，今回の工区内調査範囲については，保存の必要はないが，工事等の実施にあたっては慎重に行う必要がある。

（２）新地町の遺跡

１．ＳＴ－Ｂ⑯

所　在　地　宮城県亘理郡山元町坂元

調査対象面積　1,300㎡　　**トレンチ数**　２本　　**保 存 面 積**　0㎡

調 査 期 間　平成24年４月11日　　**検 出 遺 構**　なし　　**出 土 遺 物**　なし

表７　新地町所在遺跡試掘調査成果一覧

No.	遺　跡　名	遺跡工区内面　　積	平成 24 年度調査		未試掘面積	平成 24 年度検出遺構・出土遺物	
			調査対象面積	保 存 面 積		検 出 遺 構	出 土 遺 物
1	ＳＴ－Ｂ⑯	1,300㎡	1,300㎡	0㎡	0㎡		
2	南狼沢Ａ遺跡	6,700㎡	5,100㎡	4,400㎡	1,600㎡	土坑，溝跡	縄文土器，土師器，鉄滓
3	ＳＴ－Ｂ⑪	2,300㎡	1,400㎡	1,400㎡	900㎡		鉄滓，木質遺物
4	鈴山遺跡	8,200㎡	600㎡	0㎡	0㎡		
5	赤柴遺跡	32,900㎡	900㎡	700㎡	0㎡	土坑	
6	赤柴前遺跡	65,800㎡	15,800㎡	800㎡	0㎡	土坑，焼土遺構	石器，土師器
7	ＳＴ－Ｂ⑮	9,800㎡	9,800㎡	5,800㎡	0㎡	土坑，溝跡	縄文土器，土師器
	新地町　計	127,000㎡	34,900㎡	13,100㎡	2,500㎡		

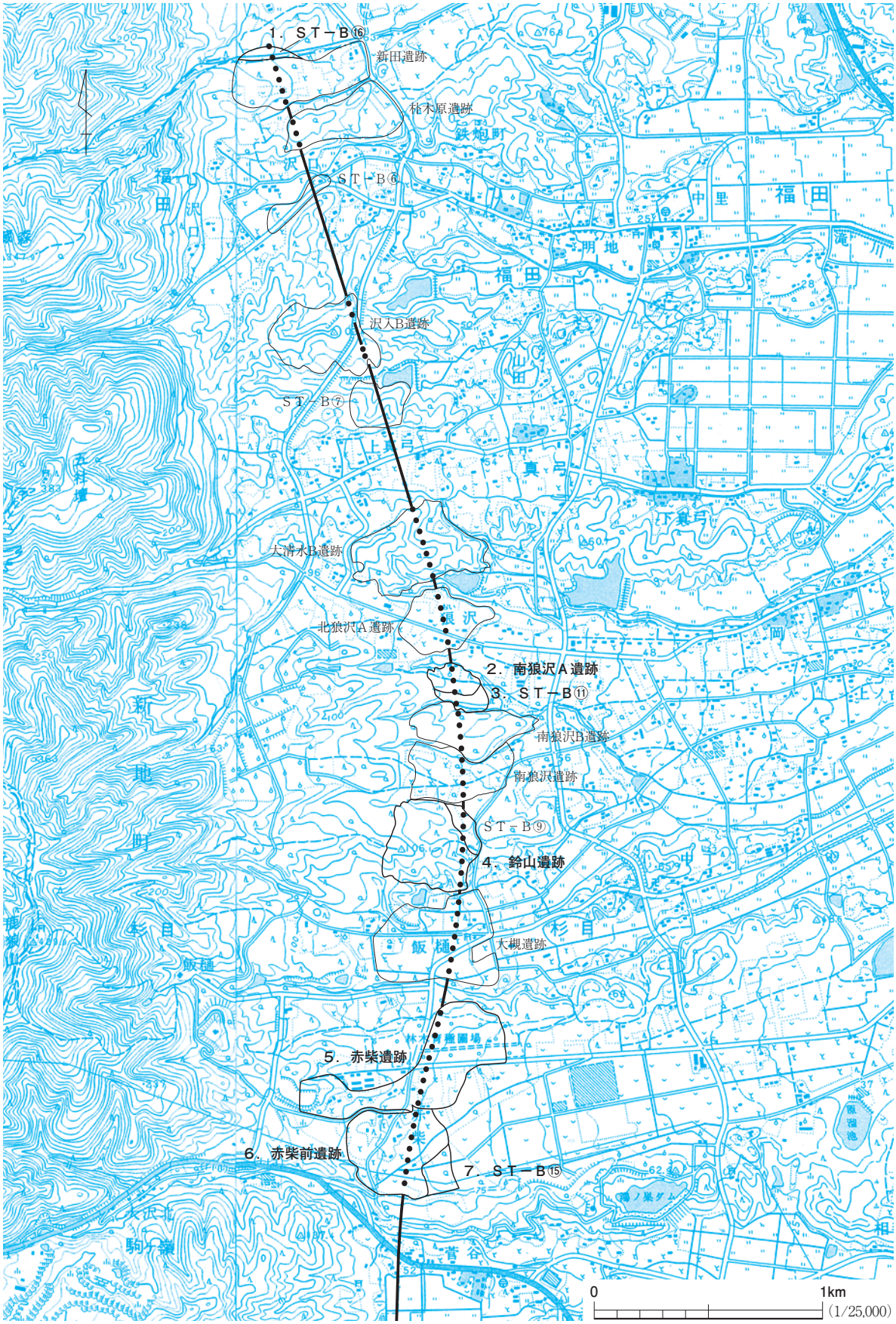

1．ＳＴ－Ｂ⑯
新田遺跡
桂木原遺跡
ＳＴ－Ｂ⑥
沢入Ｂ遺跡
ＳＴ－Ｂ⑦
大清水Ｂ遺跡
北狼沢Ａ遺跡
2．南狼沢Ａ遺跡
3．ＳＴ－Ｂ⑪
南狼沢Ｂ遺跡
南狼沢遺跡
ＳＴ－Ｂ⑨
4．鈴山遺跡
大槻遺跡
5．赤柴遺跡
6．赤柴前遺跡
7．ＳＴ－Ｂ⑮
福田
中里
福田
明地
大山田
上真弓
真弓
下真弓
狼沢
新地町
杉目
飯樋
菅谷
0
1km
(1/25,000)

図４　新地町の遺跡

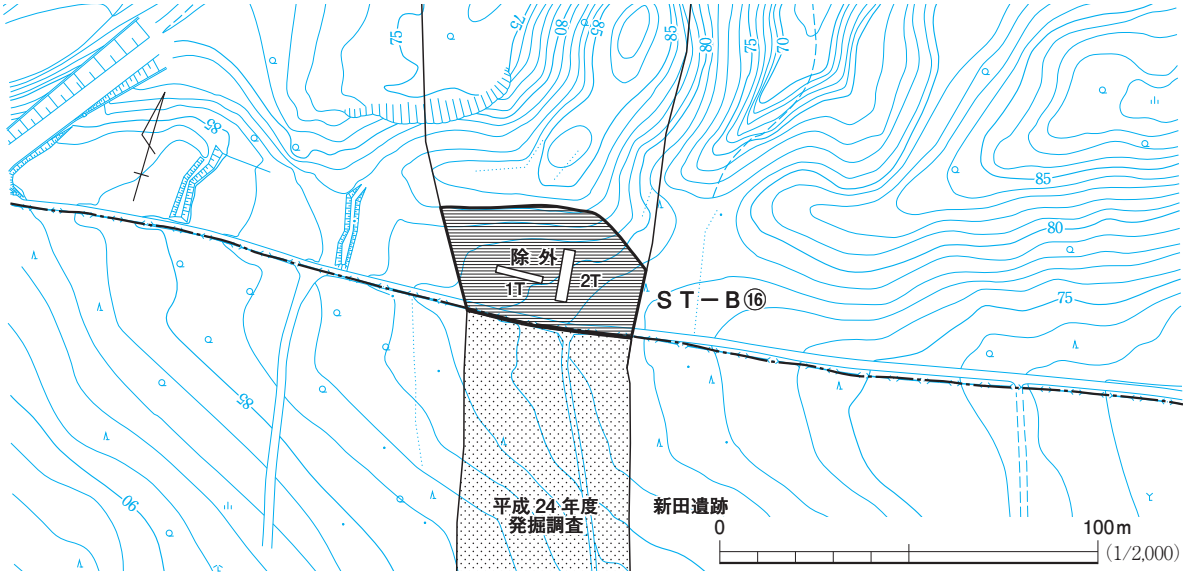


図５　ＳＴ－Ｂ⑯トレンチ配置図

［概　　要］　ＳＴ－Ｂ⑯は，平成23年度に実施した新田遺跡の試掘調査において，同遺跡に連続する南向きの緩斜面であることから，新たに追加した遺跡推定地である。福島・宮城県境に接する標高79～85ｍの段丘上に立地する。現況は山林である。今回の試掘調査は，1,300㎡を対象に２本のトレンチを設定して行った。堆積土を観察すると，地表から約60～80cmの深さで基盤層となる黄褐色土（Ⅳ層）が確認できる。その上層には黒褐色土（Ⅲ層），褐色土（Ⅱ層）及び表土が堆積していた。

［ま　と　め］　調査の結果，遺構・遺物は確認されなかった。このことから，今回の工区内調査範囲については，遺跡として扱わない。

２．南狼沢（みなみおいさわ）Ａ遺跡（第１・２次調査）

所　在　地　新地町谷地小屋字南狼沢

調 査 期 間　平成24年４月16日～20日
　　平成25年２月12日～14日

調査対象面積　5,100㎡　　**トレンチ数**　17本

保 存 面 積　4,400㎡

検 出 遺 構　土坑，溝跡

出 土 遺 物　縄文土器，土師器，鉄滓

３　調査風景（南から）

表８　南狼沢Ａ遺跡トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構 種類（時代）	確認面までの深さ	遺構内掘込み	出土遺物
１Ｔ	土坑（古代）	50cm	○	土師器
２Ｔ	土坑（古代）	40cm	○	土師器
３Ｔ	溝跡（古代）	50cm		土師器，鉄滓
４Ｔ	土坑（古代）	45cm	○	土師器
５Ｔ	溝跡	50cm		土師器
６Ｔ	土坑，溝跡	40cm	○	土師器
７Ｔ	土坑，溝跡	50cm	○	土師器
８Ｔ	溝跡	40cm		土師器
９Ｔ	土坑	60cm	○	
10Ｔ	溝跡	50cm		縄文土器，土師器
11Ｔ	土坑	60cm	○	縄文土器
12Ｔ	溝跡	60cm		土師器
13Ｔ				土師器
15Ｔ				土師器
17Ｔ	土坑			縄文土器

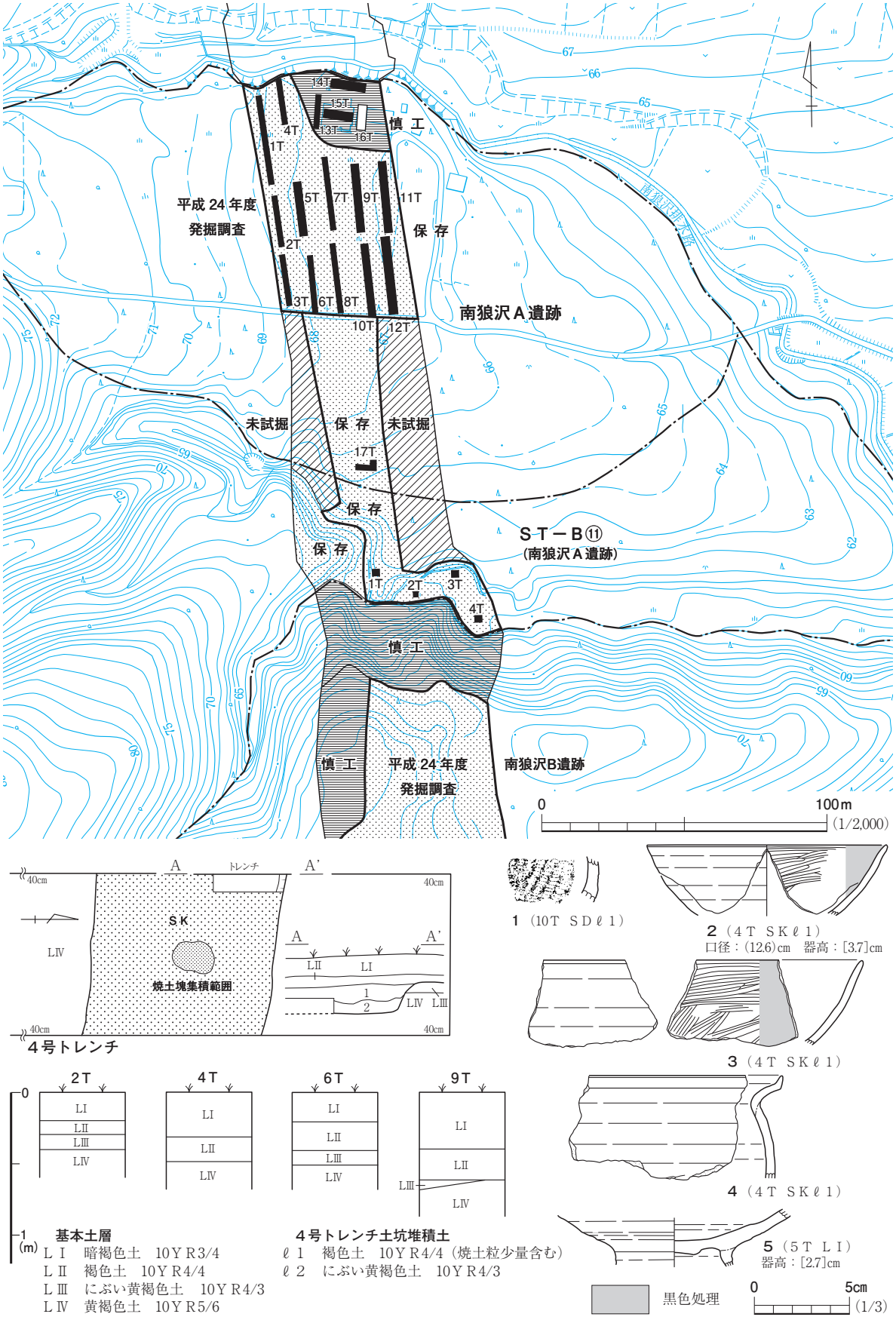


図６　南狼沢Ａ遺跡・ＳＴ－Ｂ⑪トレンチ配置図・検出遺構・土層柱状図・出土遺物

［概　　要］　南狼沢Ａ遺跡は，平成10年度の表面調査で，土師器を採集したことにより埋蔵文化財包蔵地台帳に登載した遺跡である。標高65～68ｍの段丘面上に立地し，北側には沢を挟んで平成22・23年度に本発掘調査を実施した北狼沢Ａ遺跡が位置し，南側には平成24年度に本発掘調査を実施した南狼沢Ｂ遺跡が所在する。現況は宅地・荒地・山林である。平成24年度の試掘調査は，工区内の側道部分を除く5,100㎡を対象に，トレンチ17本を設定し行った。堆積土を観察すると，地表面から20～70cm の深さで基盤層である黄褐色土(Ⅳ層)が確認できる。その上層には褐色土(Ⅱ層)，にぶい黄褐色土(Ⅲ層)が堆積している。

［遺構・遺物］　調査区北端の４Ｔで方形と推定される土坑を確認し，９世紀代の土師器が出土した。また，６・７・９・17Ｔなどでは土坑を確認した。遺構検出面はⅣ層上面である。これらの遺構内や遺構の周辺からは土師器や鉄滓，縄文土器が出土する。遺物は調査区のほぼ全面に堆積しているⅡ・Ⅲ層から出土した。

［ま　と　め］　調査の結果，調査区北東隅の宅地周辺に設定した13～16Ｔを除き遺構および相当量の遺物が確認できたことから，4,400㎡については保存する必要がある。これ以外は保存対象外とするが，工事などの実施にあたっては慎重に行う必要がある。

３．ＳＴ－Ｂ⑪［南狼沢（みなみおいさわ）Ａ遺跡］

所　在　地　新地町谷地小屋字南狼沢

調 査 期 間　平成25年２月12日～14日

調査対象面積　1,400㎡　　**トレンチ数**　４本

保 存 面 積　1,400㎡

検 出 遺 構　なし

出 土 遺 物　土師器，鉄滓，木質遺物

４　調査前風景（南から）

表９　ＳＴ－Ｂ⑪トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構			出土遺物
	種類（時代）	確認面までの深さ	遺構内掘込み	
１Ｔ	鉄滓集積範囲（古代）	70cm		木炭，木質遺物
２Ｔ		140cm		鉄滓
３Ｔ		150cm		土師器
４Ｔ		140cm		木質遺物

［概　　要］　ＳＴ－Ｂ⑪は，平成23年度の表面調査で製鉄炉の炉壁が採取されたことから，新たに遺跡推定地とした地点である。南狼沢Ａ遺跡と南狼沢Ｂ遺跡の間に位置し，推定地の北側は南狼沢Ａ遺跡から連続する段丘面，南端は幅の狭い沢地となっている。現況は段丘面がコナラ・クヌギなどの雑木林，沢地は放棄された水田とみられる荒地である。今回の試掘調査では，1,400㎡を対象に４本のトレンチを設定した。堆積土を観察すると，沢地には青灰色の砂礫と黒色・黒褐色・黄色等の粘質土が互層を成し，厚く堆積している。

［遺構・遺物］　１Ｔの地表面から70～140cm下がった沢地の黒色粘質土からは，多量の木炭とともに加工痕がある木質遺物が出土した。２Ｔの 地表面から140cm下がった黒色粘質土 からは，多量の鉄滓が出土している。３Ｔからは９世紀代の土師器，４Ｔからも木質遺物がそれぞれ出土している。

［ま　と　め］　調査の結果，１Ｔから多量の木炭が，２Ｔからは鉄滓が出土した。近隣に製鉄関連遺構の存在が想定されることから，今回調査した1,400㎡については保存の必要がある。また，平成23年度の試掘調査において十分な調査ができなかったため未確定としていたＳＴ－Ｂ⑩の北斜面(15・23・24Ｔ付近)については，今回の試掘結果を受け24Ｔ付近の500㎡を保存とし，南狼沢Ａ遺跡に含める。これ以外は保存対象外とするが，工事などの実施にあたっては慎重に行う必要がある。

４．鈴山（すずやま）遺跡［ＳＴ－Ｂ⑨］

所　在　地　新地町杉目字鈴山・字五郎四郎

調査期間　平成24年７月19日

調査対象面積　600㎡

トレンチ数　２本

保存面積　０㎡

検出遺構　なし

出土遺物　なし

［概　　要］　鈴山遺跡は，平成10年度の表面調査で，鉄滓を採集したことから，埋蔵文化財包蔵地台帳に登載した遺跡である。また，平成23年度に隣接するＳＴ－Ｂ⑨の試掘調査が行われ，保存を必要とする範囲が確認された。このことから，ＳＴ－Ｂ⑨は鈴山遺跡に含めて登録されることとなった(『福島県内遺跡分布調査報告19』)。北半は猿田川の支流によって形成された沖積地，南半は標高65～80ｍの丘陵上に立地する。現況は杉林である。

今回の試掘調査では，600㎡を対象に，２本のトレンチ(26・27Ｔ)を設定した。堆積土を観察すると，表土が40～50㎝の厚さで堆積している。その下位には，厚さ40㎝の黄褐色砂礫層(Ⅳ層)があり，さらに基盤層とみられるにぶい黄褐色の砂礫層(Ⅴ層)が表れる。

［ま　と　め］　調査の結果，26・27Ｔともに遺構および遺物は確認できなかった。このことから今回の工区内調査範囲は保存の必要はないが，工事などの実施にあたっては慎重に行う必要がある。

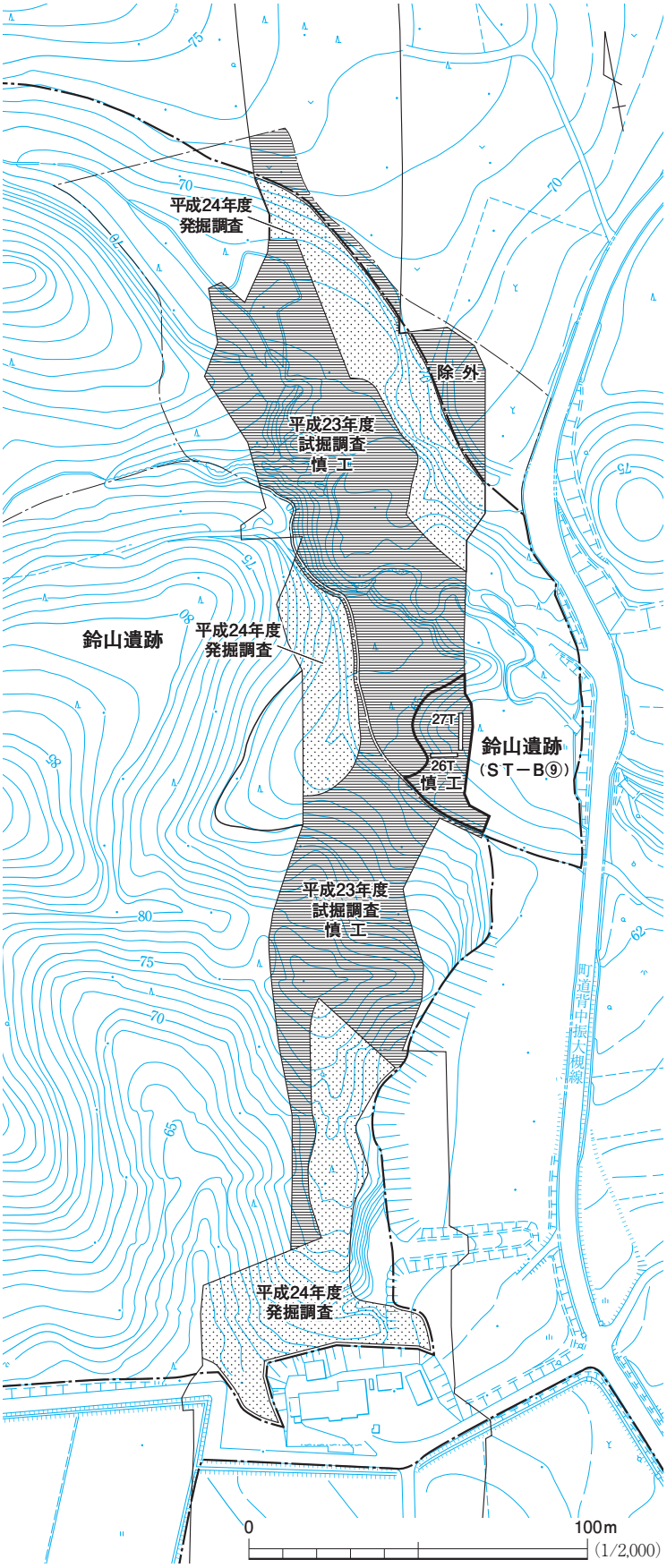


図７　鈴山遺跡［ＳＴ－Ｂ⑨］トレンチ配置図

５．赤柴（あかしば）遺跡（第５次調査）

所　在　地　新地町駒ヶ嶺字赤柴

調査対象面積　900㎡　　**トレンチ数**　１本

保 存 面 積　700㎡

調 査 期 間　平成24年４月17日

検 出 遺 構　土坑

出 土 遺 物　なし

［概　　要］　赤柴遺跡は，平成10年度の表面調査で，羽口・鉄滓などを採取したことにより埋蔵文化財包蔵地台帳に登録した遺跡である。標高69～78ｍの平坦な段丘面に立地する。南側に赤

５　60号トレンチ遺構検出状況（北から）

表10　赤柴遺跡トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構			出土遺物
	種類（時代）	確認面までの深さ	遺構内掘込み	
60Ｔ	土坑	25cm		

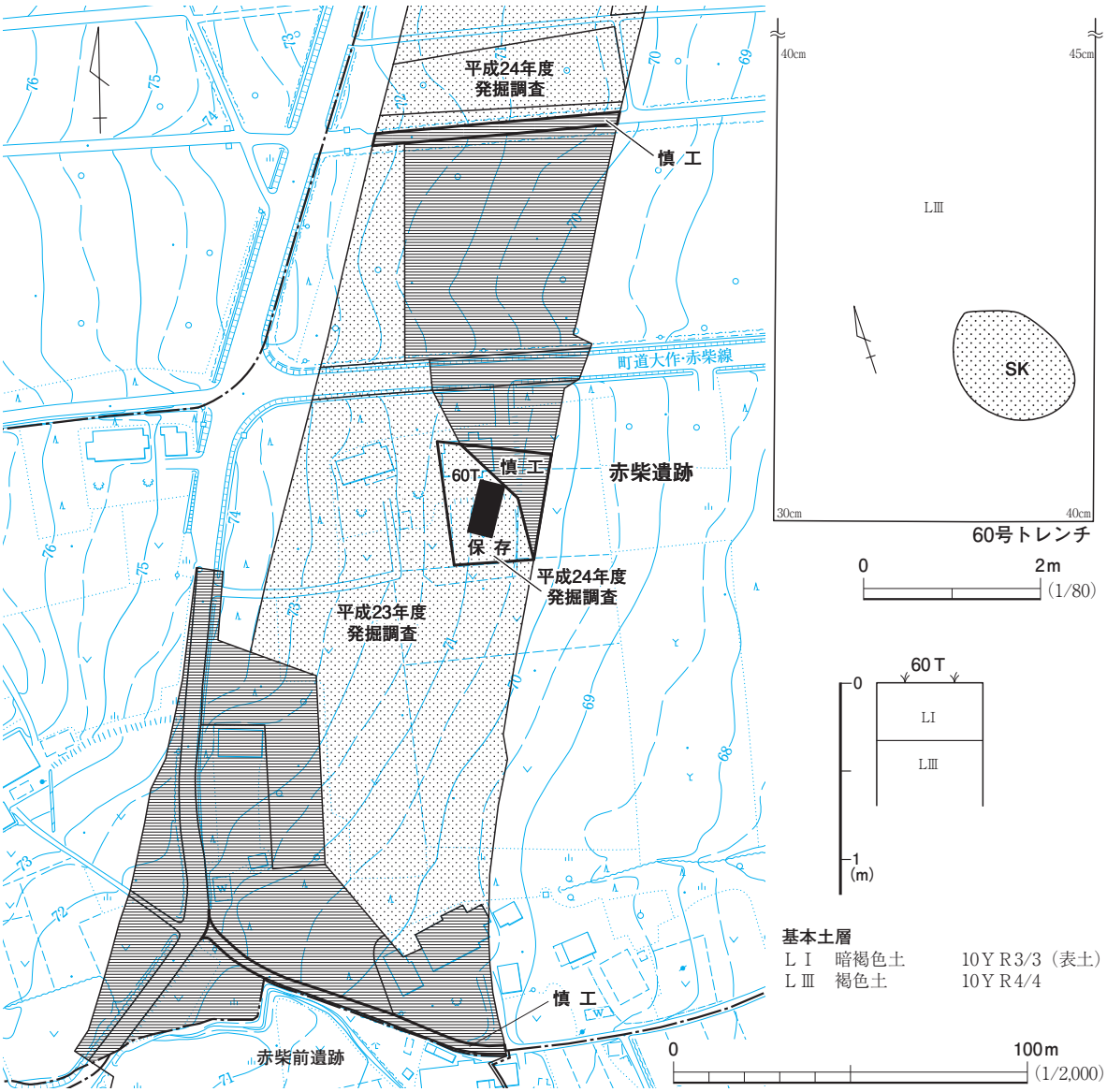


図８　赤柴遺跡トレンチ配置図・検出遺構・土層柱状図

柴前遺跡が接している。現況は，畑・山林・宅地などである。これまで，平成21～23年度内に４度に渡り試掘調査を実施した結果，合計19,400㎡を保存範囲とした(『福島県内遺跡分布調査17・18・19』)。また，平成23年度に8,700㎡の本発掘調査を実施している。今回の試掘調査は，900㎡を対象に，トレンチ１本(60Ｔ)を設定した。堆積土を観察すると，表土を25～40㎝下げたところで，基盤層である褐色粘質土(Ⅲ層)が確認できる。

[遺構・遺物]　60Ｔから，楕円形の土坑を１基確認した。平面形や規模から縄文時代の落し穴である可能性が高い。遺物は出土していない。

[ま　と　め]　試掘調査の結果，遺構を確認した60Ｔ周辺の700㎡については保存の必要がある。これ以外は保存対象外とするが，工事などの実施にあたっては慎重に行う必要がある。また，未試掘であった平成23年度の本発掘調査区北端に接する道路部分400㎡と，本遺跡南端の道路部分300㎡については，平成23・24年度に実施した本発掘調査及び赤柴前遺跡の試掘結果を受け，保存対象外とした。以上のことから，赤柴遺跡の保存面積は，合計20,100㎡となる。

６．赤柴前遺跡（第６・７次調査）

所　在　地　新地町駒ヶ嶺字赤柴前
調査対象面積　15,800㎡　**トレンチ数**　46本
保存面積　800㎡
調査期間　平成24年５月７日～６月13日
　　平成24年10月29日～11月１日
検出遺構　土坑，焼土遺構
出土遺物　石器，土師器

６　調査前風景（東から）

表11　赤柴前遺跡トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構			出土遺物
	種類（時代）	確認面までの深さ	遺構内掘込み	
84Ｔ	焼土遺構	60㎝		
85Ｔ				石器
86Ｔ	土坑	60㎝	○	
96Ｔ	土坑	60㎝		
101Ｔ	土坑	60㎝	○	
103Ｔ	土坑	40㎝		
105Ｔ	土坑	50㎝		
108Ｔ				土師器

[概　　要]　赤柴前遺跡は，平成10年度の表面調査で，縄文土器・土師器などを採集したことにより埋蔵文化財包蔵地台帳に登載した遺跡である。遺跡は立田川北岸の標高67～73ｍの段丘平坦地に立地する。現況は，山林，荒地，畑である。平成20年度の試掘調査結果を受けて，地形が連続するＳＴ－Ｂ①を包括した。平成19～23年度の第１～５次試掘調査では，点在する土坑が複数確認されたことから11,800㎡の保存範囲が確定している。保存面積のうち，平成21～23年度までに9,300㎡の本発掘調査を実施した。

平成24年度の試掘調査では，遺跡の南西及び北東側の宅地と南東端の山林15,800㎡を対象に，トレンチ46本(77～122Ｔ)を設定した。堆積土を観察すると，表土を30～80㎝下げると，基盤層である黄褐色砂質土(Ⅳ層)が確認でき，暗褐色土(Ⅲ層)からⅣ層上面で遺構が確認された。

[遺構・遺物]　84Ｔから焼土遺構，86Ｔ・96Ｔ・101Ｔ・103Ｔ・105Ｔから隅丸長方形の小規模な土坑を確認した。96Ｔ・103Ｔで検出された土坑は壁面が赤く被熱していた。炭化物も認められることから木炭焼成土坑と考えられる。

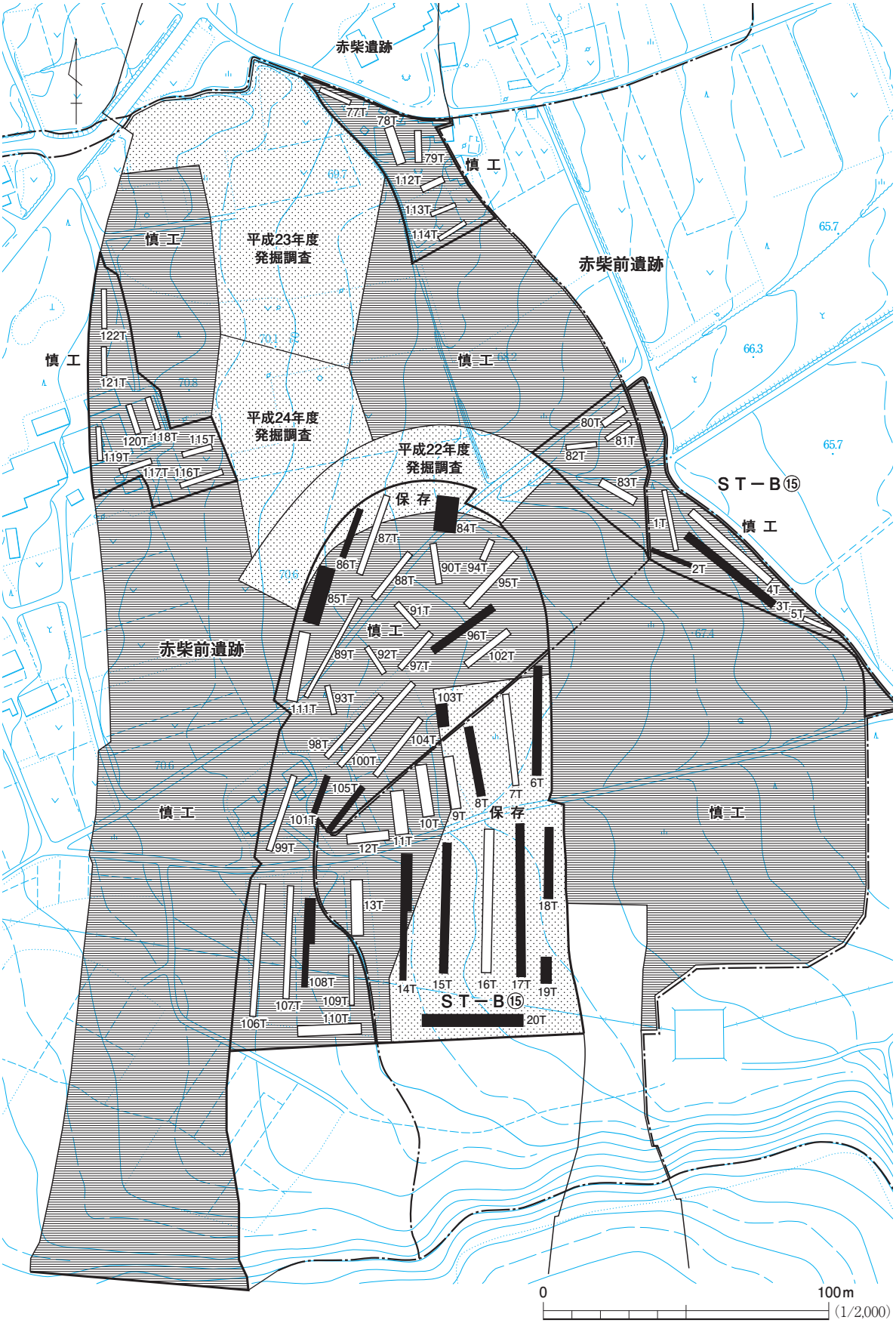


図９　赤柴前遺跡・ＳＴ－Ｂ⑮トレンチ配置図

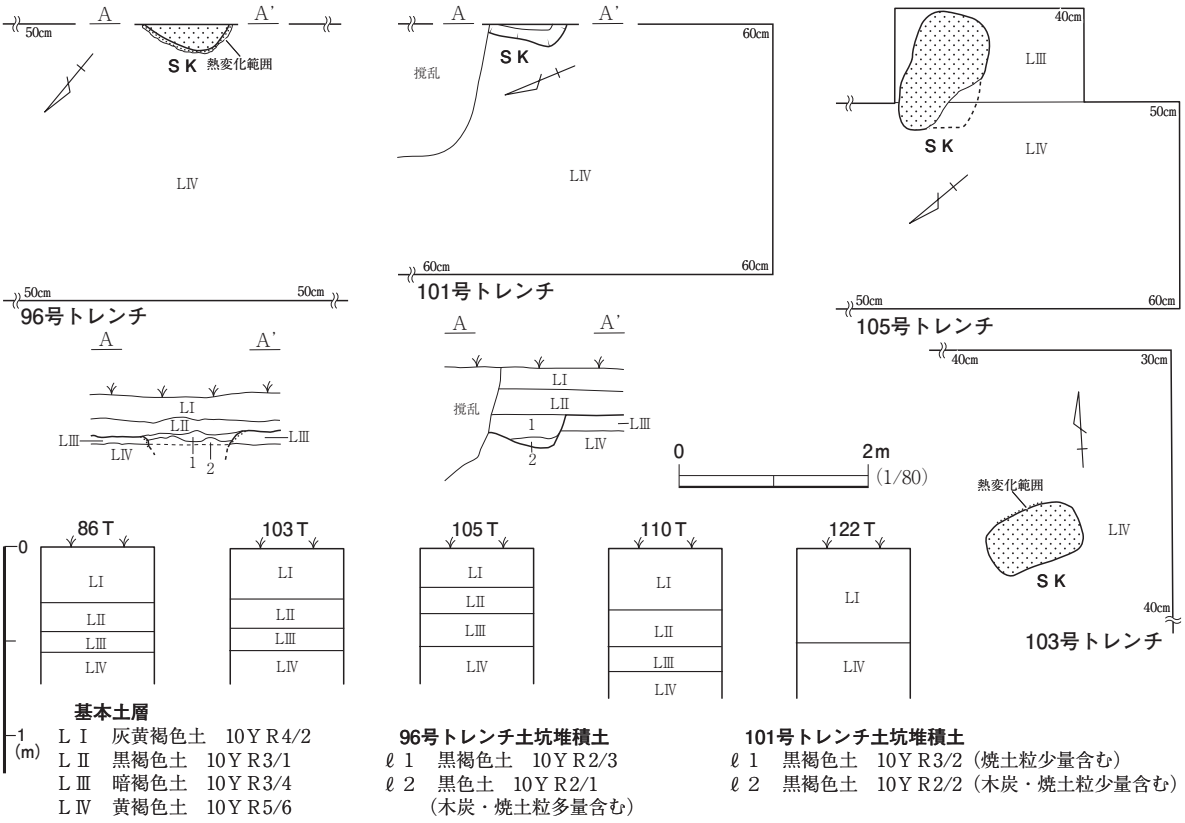


図10　赤柴前遺跡検出遺構・土層柱状図

［ま　と　め］　試掘調査の結果，遺構を確認した84Ｔ・86Ｔ・103Ｔの周辺800㎡については保存の必要がある。96Ｔ・101Ｔ・105Ｔの周辺については，近隣のトレンチから遺構・遺物が確認されなかったことから，検出された遺構のみを調査し，保存範囲には含めていない。今回の試掘結果を受け，平成21年度に試掘調査を実施した35～40Ｔ・47Ｔ周辺の1,100㎡についても，保存の必要はないが，工事の実施にあたっては慎重に行う必要がある。以上のことから，赤柴前遺跡の保存面積は，合計12,600㎡となる。なお，平成24年度に今回の保存範囲を含め3,300㎡の本発掘調査が実施され，保存範囲全ての調査が終了している。

７．ＳＴ－Ｂ⑮［赤柴前遺跡］

所　在　地　新地町駒ヶ嶺字赤柴前

調査対象面積　9,800㎡　　**トレンチ数**　20本

保存面積　5,800㎡

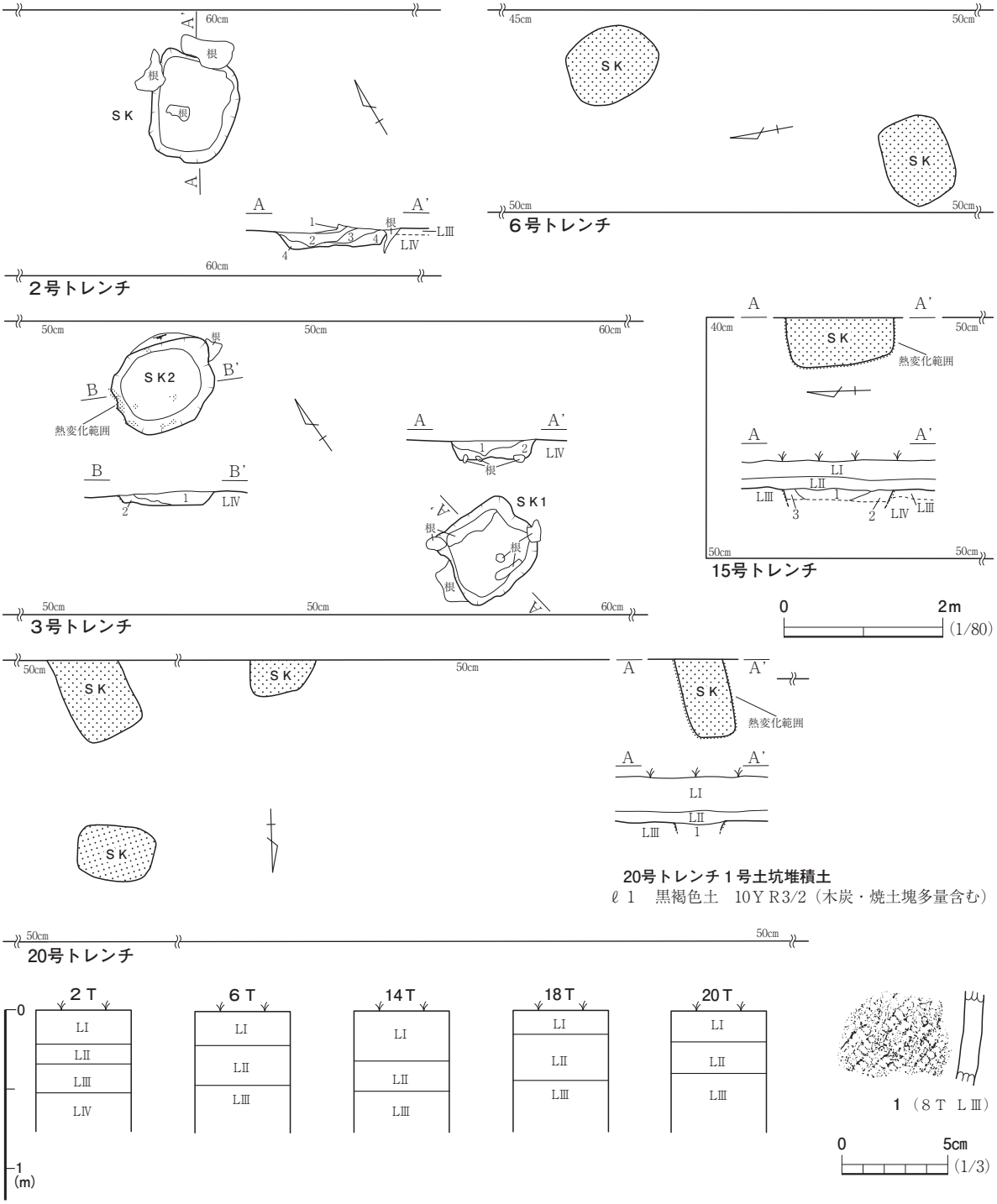
調査期間　平成24年５月７日～６月13日

検出遺構　土坑，溝跡

出土遺物　縄文土器，土師器，石器

７　２号トレンチ土坑断面（西から）

［概　　要］　ＳＴ－Ｂ⑮は赤柴前遺跡と連続する地形であることから，平成23年度新たに加えられた遺跡推定地である。立田川北岸の標高65～75ｍの段丘平坦地に立地する。現況は，山林・荒地・畑である。平成24年度の試掘調査では，遺跡推定地全域の9,800㎡を対象に，トレンチ20本を設定した。堆積土を観察すると，表土を40～70cm下げると，基盤層である黄褐色砂質土（Ⅳ層）が確認でき，Ⅲ層からⅣ層上面で遺構が確認される。



基本土層
ＬⅠ　灰黄褐色土　10ＹＲ4/2
ＬⅡ　黒褐色土　10ＹＲ3/1
ＬⅢ　暗褐色土　10ＹＲ3/4（小礫含む）
ＬⅣ　黄褐色土　10ＹＲ5/6（小礫含む）

２号トレンチ土坑堆積土
ℓ１　暗赤褐色土 5ＹＲ3/4 と
　　暗褐色土 10ＹＲ3/4の混土（焼土粒多量含む）
ℓ２　暗褐色土　10ＹＲ3/4（木炭少量含む）
ℓ３　褐色土　10ＹＲ4/6（木炭少量含む）
ℓ４　黄褐色土　10ＹＲ5/8（ＬⅣ塊多量含む）

３号トレンチ１号土坑堆積土
ℓ１　褐色土　10ＹＲ4/6（ＬⅣ塊・焼土塊少量含む）
ℓ２　暗褐色土　10ＹＲ3/4（ＬⅣ塊・木炭少量含む）

３号トレンチ２号土坑堆積土
ℓ１　暗褐色土　10ＹＲ3/4（木炭少量含む）
ℓ２　黒色土　10ＹＲ2/1（粒炭層）

15号トレンチ１号土坑堆積土
ℓ１　黒褐色土　10ＹＲ3/2（木炭少量含む）
ℓ２　黒褐色土　10ＹＲ3/1（木炭多量含む・焼土粒少量含む）
ℓ３　暗褐色土　10ＹＲ3/4（焼土粒多量含む）

図11　ＳＴ－Ｂ⑮検出遺構・土層柱状図・出土遺物

表12　ＳＴ－Ｂ⑮トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構 種類（時代）	検出遺構 確認面までの深さ	検出遺構 遺構内掘込み	出土遺物
２Ｔ	土坑	60cm	○	石器，土師器
３Ｔ	土坑	50cm	○	
６Ｔ	土坑	50cm		
８Ｔ	土坑	60cm		縄文土器
14Ｔ	土坑	65cm		
15Ｔ	土坑	50cm		
17Ｔ	土坑	60cm		
18Ｔ	土坑，溝跡	50cm		
19Ｔ	土坑	40cm		
20Ｔ	土坑	50cm		

［遺構・遺物］　調査区北東隅の２・３Ｔと，南東寄りに設定した17～20Ｔ周辺から土坑および溝跡を確認した。土坑はいずれも木炭が堆積し，壁面が焼けているものも認められることから，木炭焼成土坑の可能性が高い。また，８Ｔからは縄文土器１点が出土した。

［ま　と　め］　試掘調査の結果から，遺構が集中的に確認された調査区南東寄りの15～20Ｔ周辺5,800㎡は保存の必要がある。２・３Ｔ周辺は遺構の密度が希薄なことから，検出された遺構のみを調査し，保存範囲には含めていない。これ以外の調査区も保存対象外とするが，工事などの実施にあたっては慎重に行う必要がある。また，本遺跡推定地は隣接する赤柴前遺跡に含めて登録する。

第２節　一般国道115号相馬福島道路建設予定地

一般国道115号相馬福島道路は，常磐自動車道と東北縦貫自動車道を結ぶ約45kmの高規格幹線道路（自動車専用道路）として計画され，東日本大震災からの早期復興を図る復興支援道路として緊急に整備されることとなった。現在，相馬ＩＣ～相馬西ＩＣ（仮称）間及び阿武隈東道路の２区間を国土交通省東北地方整備局磐城国道事務所が，阿武隈東ＩＣ（仮称）～阿武隈ＩＣ（仮称）間，霊山道路及び霊山～福島間の３区間を国土交通省東北地方整備局福島河川国道事務所が事業を進めている。

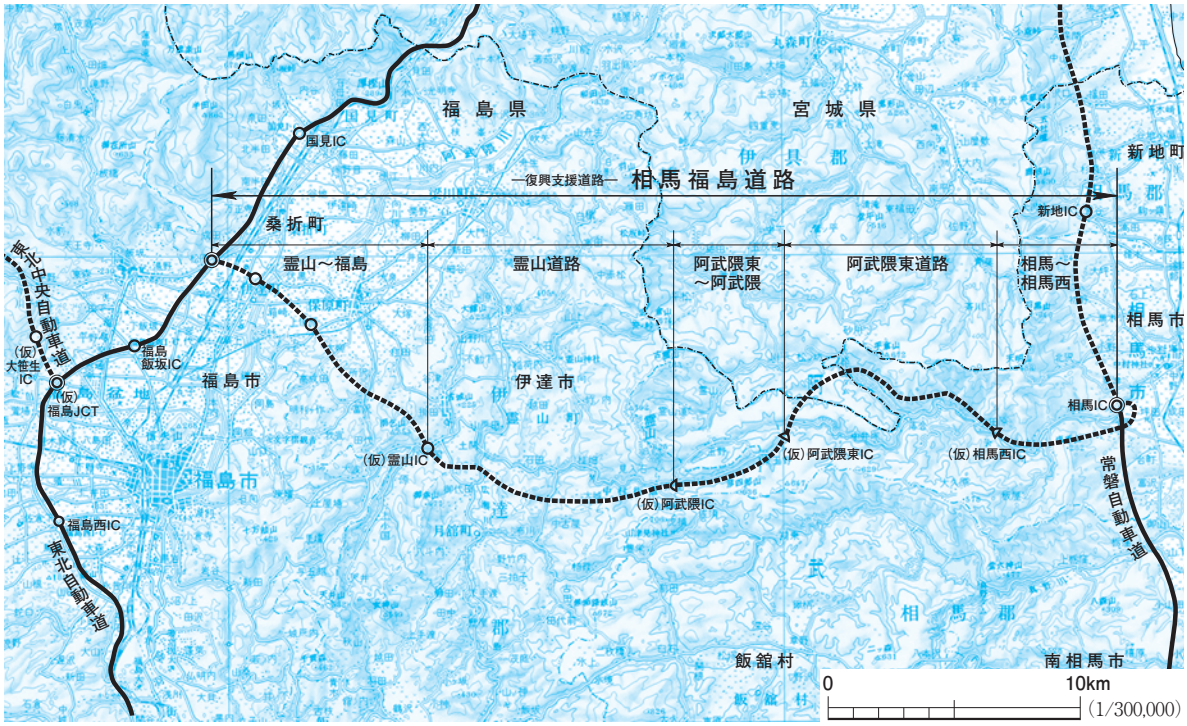


図12　一般国道115号相馬福島道路位置図

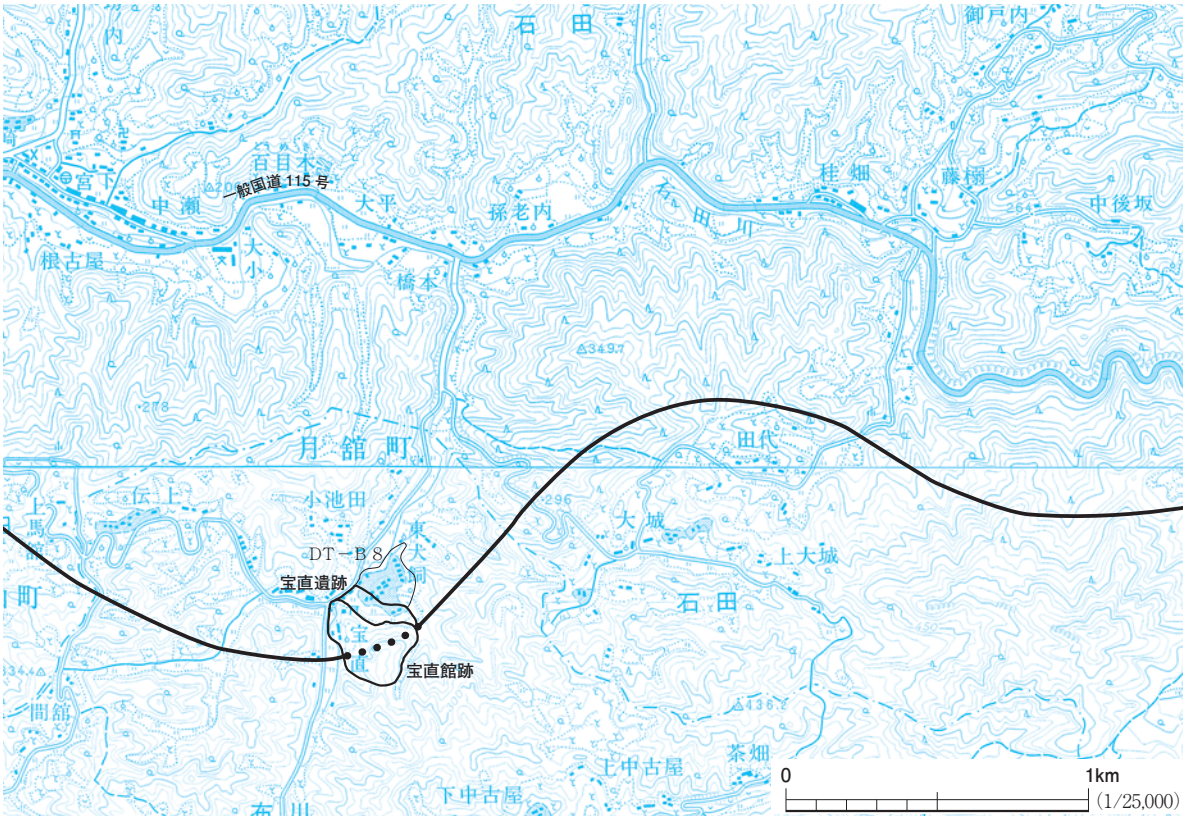


図13　伊達市の遺跡（１）

表13　伊達市所在遺跡試掘調査成果一覧

No.	遺　跡　名	遺跡工区内面　　積	平成24年度調査		未試掘面積	平成24年度検出遺構・出土遺物	
			調査対象面積	保 存 面 積		検 出 遺 構	出 土 遺 物
1	宝直館跡	16,000㎡	16,000㎡	2,800㎡	0㎡	塚，土坑，焼土遺構	縄文土器，石器，土師器，鉄製品，古銭
2	宝直遺跡	3,000㎡	3,000㎡	2,000㎡	0㎡	竪穴状遺構，集石遺構，小穴	縄文土器，石器，陶器，鉄製品，古銭
3	熊屋敷Ｂ遺跡	1,600㎡	1,600㎡	1,100㎡	0㎡		縄文土器，石器
4	ＤＴ－Ｂ９	4,500㎡	4,500㎡	1,200㎡	0㎡		縄文土器，土師器
5	ＤＴ－Ｂ14	9,200㎡	850㎡	500㎡	8,350㎡		縄文土器
	伊達市　計	34,300㎡	25,950㎡	7,600㎡	8,350㎡		

福島県教育委員会では平成14年度より阿武隈東道路の表面調査を開始し，平成18・19年度には同区間の試掘調査を実施した。阿武隈東道路では平成19～21年度に３遺跡の本発掘調査を実施した。また，平成18・21年度には霊山道路の表面調査を実施し，周知の遺跡10箇所と新たに発見した遺跡６箇所の遺跡，及び15箇所の遺跡推定地を確認した。

平成23年度には相馬ＩＣ～相馬西ＩＣ(仮称)間の表面調査を，平成24年度には阿武隈東ＩＣ(仮称)～阿武隈ＩＣ(仮称)間の表面調査をそれぞれ実施した(詳細第３章)。

平成24年度の試掘調査は，霊山道路の３箇所の遺跡及び１箇所の遺跡推定地，阿武隈東ＩＣ(仮称)～阿武隈ＩＣ(仮称)間の１箇所の遺跡推定地で実施した。

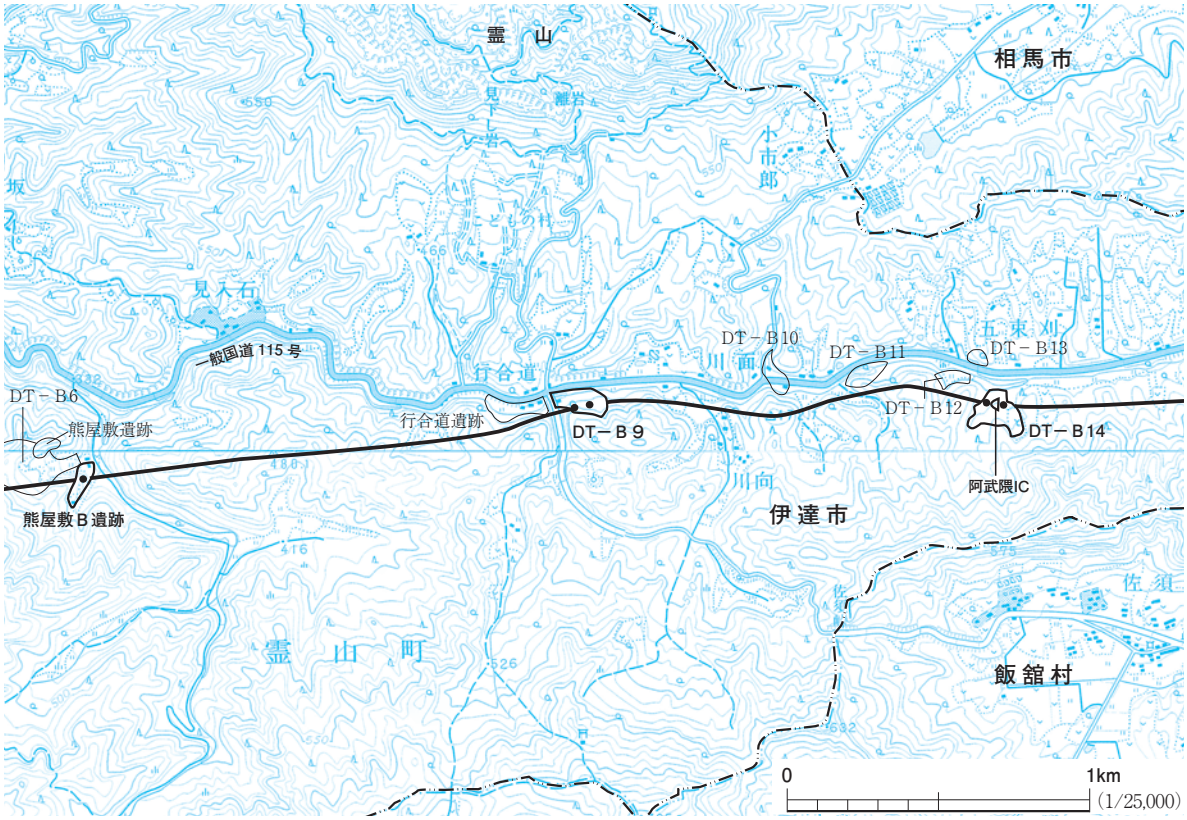


図14　伊達市の遺跡（２）

１．宝直（ほうじき）館跡

所　在　地　伊達市月舘町布川字宝直・大舘

調査対象面積　16,000㎡　**トレンチ数**　57本

保存面積　2,800㎡

調査期間　平成24年11月６日～11月30日

検出遺構　塚状遺構，土坑，焼土遺構

出土遺物　縄文土器，石器，土師器，鉄製品，古銭

［概　　要］　宝直館跡は，平成18年度の表面調査において確認された（『福島県内遺跡分布調査報告14』）。月舘町史において犬飼館跡と記載されている遺跡である。標高220～275ｍの独立丘陵に立地し，幅の狭い尾根とその尾根から下る急峻な斜面及び谷地からなる。現況は山林及び畑地である。

平成24年度の試掘調査では，工区内全域の16,000㎡を対象に，トレンチ57本を設定した。

堆積土を観察すると，尾根部では表土が20～

８　遺跡遠景（北から）

表14　宝直館跡トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構			出土遺物
	種類（時代）	確認面までの深さ	遺構内掘込み	
1 T	塚状遺構	20cm	○	
2 T	土坑	30cm	○	
5 T	焼土遺構	30cm		
8 T	土坑	30cm	○	
30 T				縄文土器
35 T				縄文土器，土師器，古銭
37 T				縄文土器，石器
38 T				縄文土器
40 T				縄文土器，土師器
43 T				縄文土器
45 T				縄文土器，土師器
46 T				縄文土器，石器，土師器，鉄製品

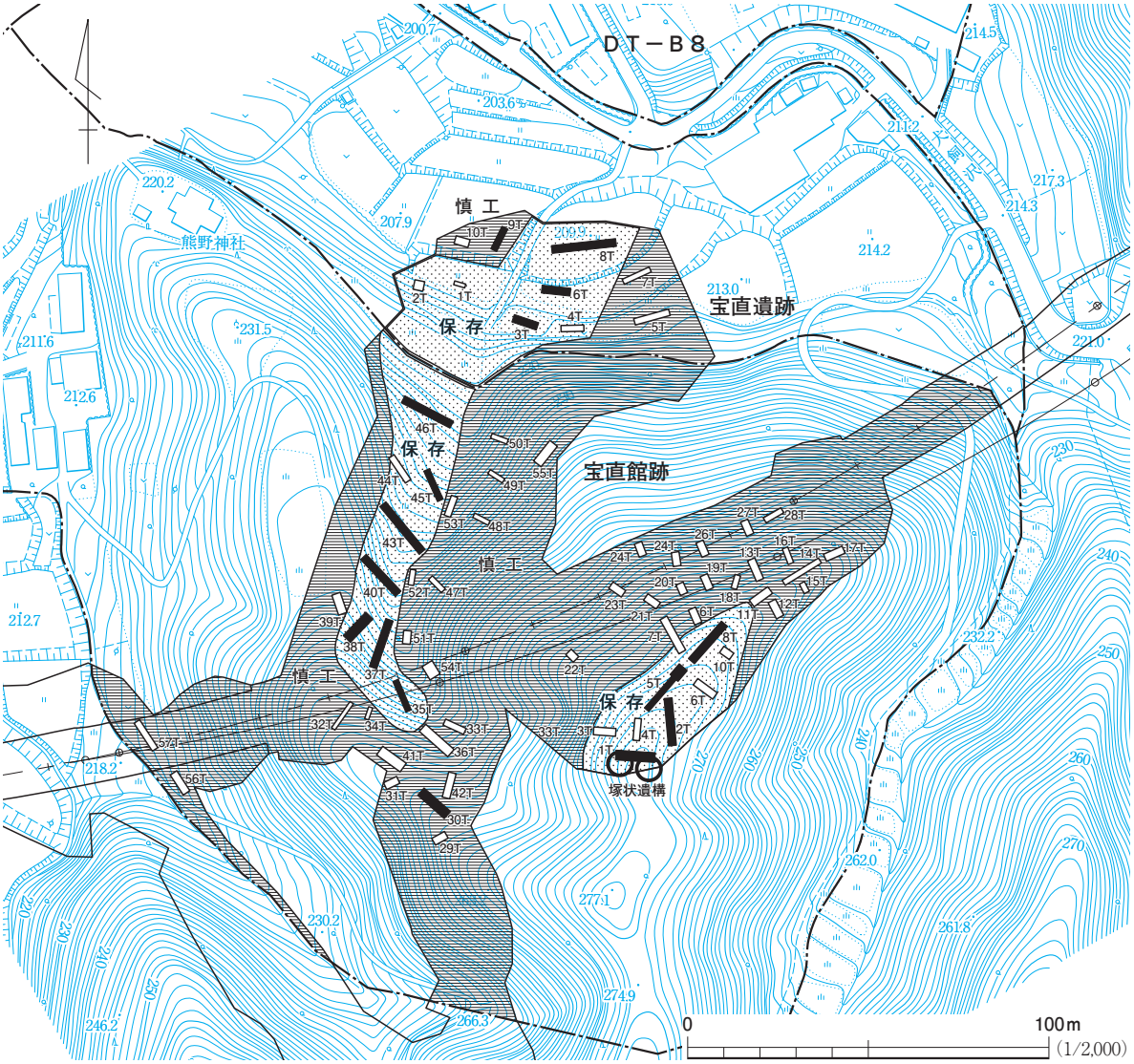


図15　宝直館跡・宝直遺跡トレンチ配置図

30cm と薄く，その直下に黄褐色土(Ⅲ層)が確認でき，Ⅲ層上面において遺構が検出された。

35～46Ｔを設定した谷の最深部では，黒褐色土(Ⅱａ層)や褐色土(Ⅱｂ層)，黒褐色土(Ⅱｃ層)が厚く堆積し，Ⅲ層上面までの深さは140～170cm である。

[遺構・遺物]　尾根頂部では，塚状の盛土遺構が２基，近接して確認された。２Ｔでは楕円形の大型土坑が検出され，掘り込みの結果，周壁が垂直に立ち上がることが確認された。５Ｔでは，小規模ながらⅢ層上面が赤く被熱している箇所が確認された。

谷部のⅡ層からは，縄文時代後期中葉～後葉とみられる土器片や，９世紀代の土師器などが出土している。なお，土塁や平場を造成した際の削平･盛土など，館跡に伴う遺構は今回の調査区内では確認できなかった。

[ま　と　め]　調査の結果，遺構が確認された１～８Ｔ周辺の尾根部1,100㎡と，遺物が多く出土した35～46Ｔ周辺の1,700㎡，併せて2,800㎡については保存の必要がある。これ以外の範囲については保存の必要はないが，工事などの実施にあたっては慎重に行う必要がある。

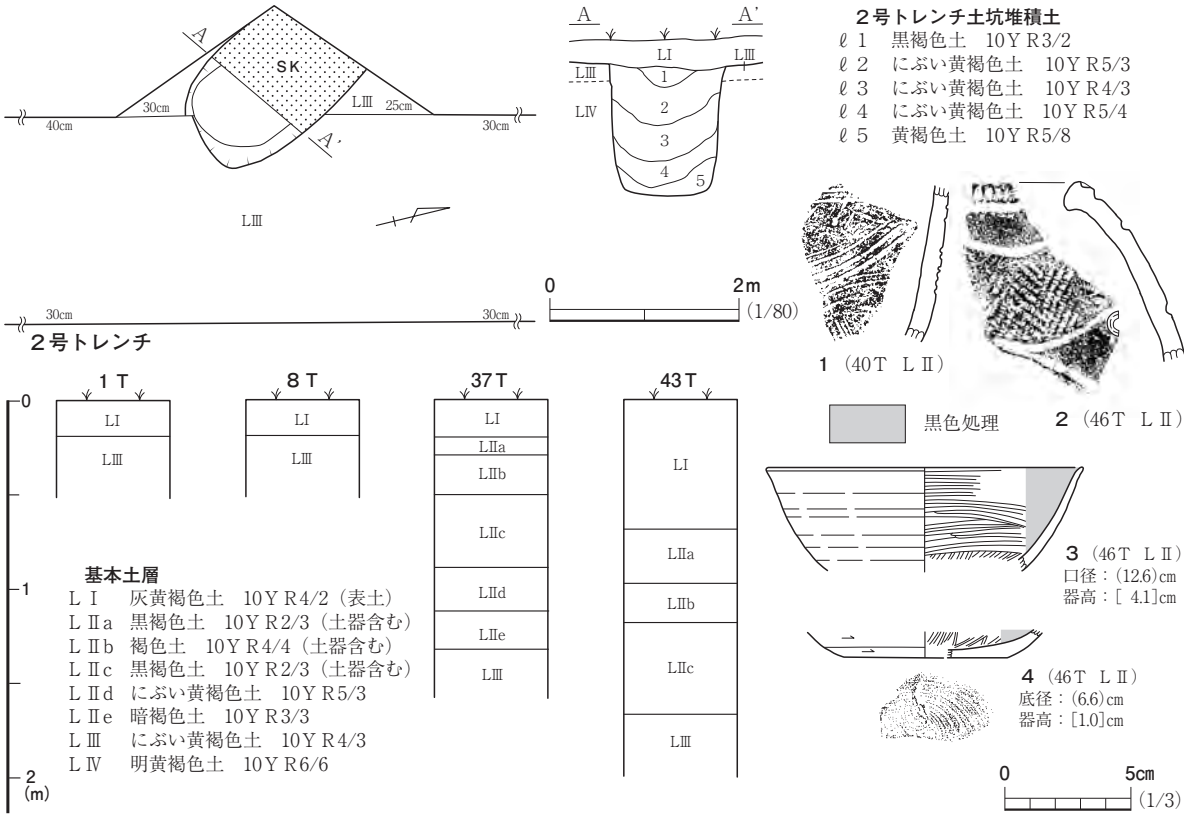


図16　宝直館跡検出遺構・土層柱状図・出土遺物

２．宝直（ほうじき）遺跡

所　在　地　伊達市月舘町布川字宝直・大舘

調査対象面積　3,000㎡　　**トレンチ数**　10本

保存面積　2,000㎡

調査期間　平成24年12月３日～12月14日

検出遺構　竪穴状遺構，集石遺構，小穴

出土遺物　縄文土器，石器，陶器，鉄製品，古銭

9　８号トレンチ遺構検出状況（北から）

表15　宝直遺跡トレンチ一覧

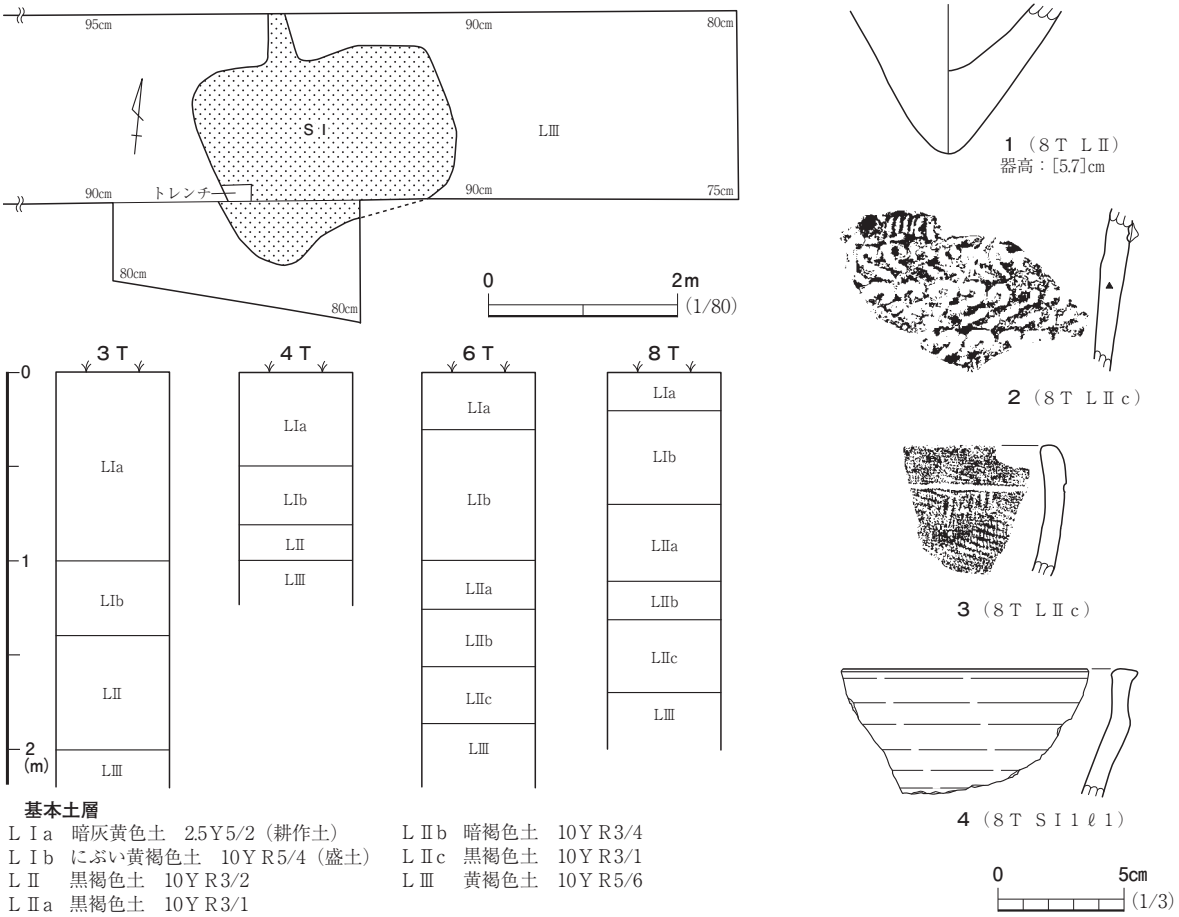
トレンチ番号	検出遺構			出土遺物
	種類（時代）	確認面までの深さ	遺構内掘込み	
3Ｔ				古銭
6Ｔ	小穴，集石遺構（縄文）	180cm		縄文土器，石器，鉄製品
8Ｔ	竪穴状遺構（中世）	90cm	○	縄文土器，石器，陶器
9Ｔ				縄文土器

[概　　要]　宝直遺跡は，平成18年度に実施された表面調査において，縄文土器・土師器・須恵器が採取されている。宝直館跡から続く北向きの緩斜面に立地し，現況は宅地・山林・畑地である。畑地は階段状に造成されている。

平成24年度の試掘調査では，工区内全域の3,000㎡を対象に，トレンチ10本を設定した。

堆積土を観察すると，畑地造成時の盛土が厚く堆積し，その下位に黒褐色土及び暗褐色土（Ⅱａ～ｃ層）がある。基盤層である黄褐色土（Ⅲ層）上面までの深さは70～200cmである。

[遺構・遺物]　８Ｔから小規模な竪穴状遺構が検出された。検出面からは，中世陶器が出土している。



基本土層

ＬＩａ　暗灰黄色土　2.5Ｙ5/2（耕作土）
ＬＩｂ　にぶい黄褐色土　10ＹＲ5/4（盛土）
ＬⅡ　黒褐色土　10ＹＲ3/2
ＬⅡａ　黒褐色土　10ＹＲ3/1
ＬⅡｂ　暗褐色土　10ＹＲ3/4
ＬⅡｃ　黒褐色土　10ＹＲ3/1
ＬⅢ　黄褐色土　10ＹＲ5/6

図17　宝直遺跡検出遺構・土層柱状図・出土遺物

また，３・６・８・９Ｔからは遺物が出土し，特に８ＴのⅡ層からは縄文時代早・前・後期の土器片がまとまって出土した。

［ま　と　め］　調査の結果，遺物を包含するⅡ層が削平されている９・10Ｔ周辺を除く2,000㎡については保存の必要がある。これ以外は保存対象外とするが，工事などの実施にあたっては慎重に行う必要がある。

３．熊屋敷（くまやしき）Ｂ遺跡

所　在　地　伊達市霊山町石田字熊屋敷
調査対象面積　1,600㎡　　**トレンチ数**　６本
保 存 面 積　1,100㎡
調 査 期 間　平成24年９月25日～10月３日
検 出 遺 構　なし
出 土 遺 物　縄文土器，石器

［概　　要］　熊屋敷Ｂ遺跡は，平成18年度の表面調査で確認され，縄文土器・石器・土師器が採集されている。遺跡は標高360～380ｍの丘陵裾部に立地し，東側は石田川の支流によって開析されている。現況は，山林及び畑地である。調査

10　調査風景（北西から）

表16　熊屋敷Ｂ遺跡トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構			出土遺物（時代）
	種類（時代）	確認面までの深さ	遺構内掘込み	
２Ｔ				縄文土器
３Ｔ				縄文土器
４Ｔ				縄文土器，石器

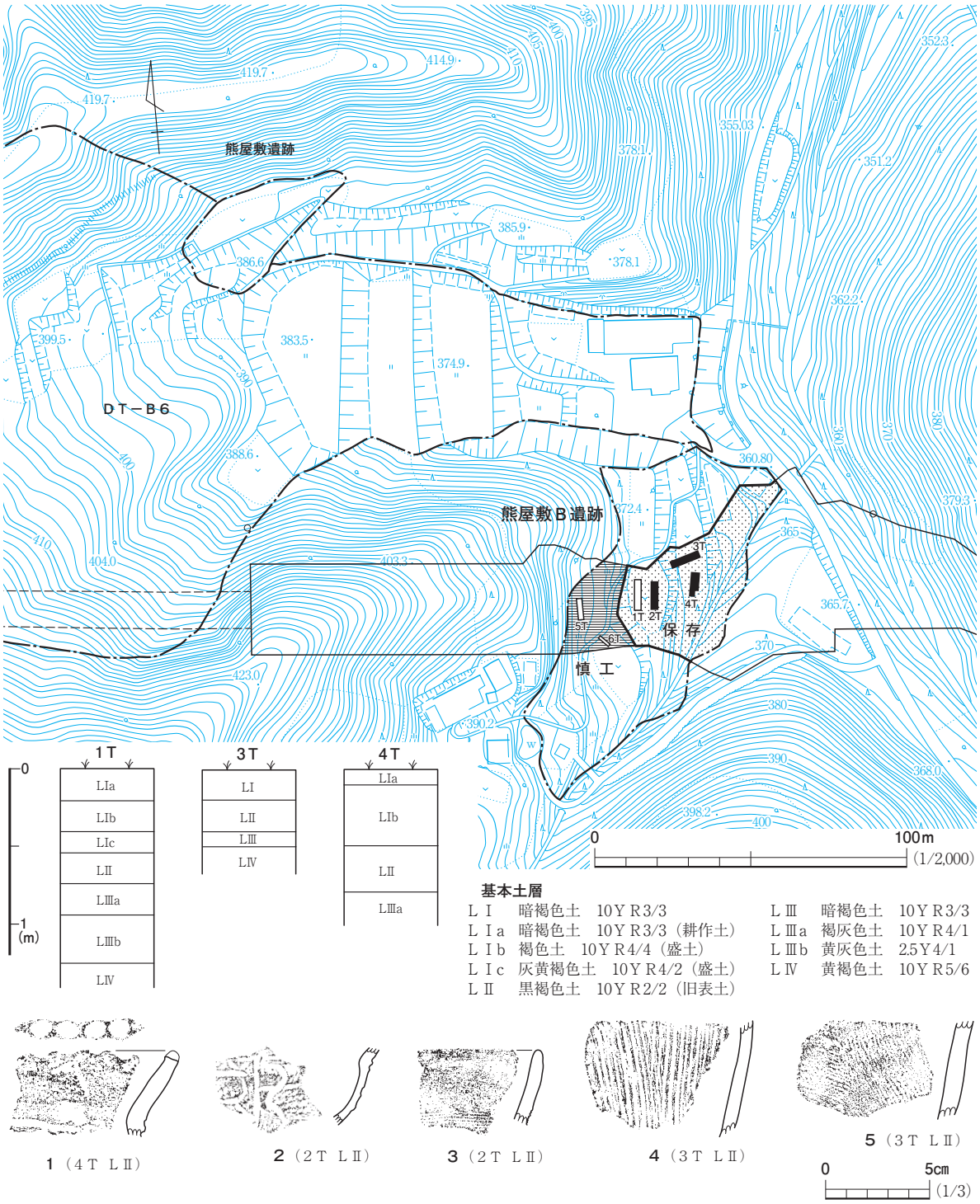


図18　熊屋敷Ｂ遺跡トレンチ配置図・土層柱状図・出土遺物

区は，畑地の造成により階段状に整地されている。平成24年度の試掘調査では，工区内の1,600㎡を対象に，トレンチ６本を設定した。畑の耕作土及び盛土が20～90cm の厚さで堆積し，その下位の黒褐色土（Ⅱ層），暗褐色土（Ⅲ層）には遺物が包含されている。基盤層である黄褐色土（Ⅳ層）までの深さは20～150cmである。

［遺構・遺物］　２～４ＴのⅡ・Ⅲ層からは，縄文時代後期の土器や石器が出土している。遺物の出土量は，斜面下位にあたる３・４Ｔで特に多くなる。また，斜面上位の５ＴでもⅡ・Ⅲ層を確認したが，遺物は出土しなかった。

［ま　と　め］　試掘調査の結果，遺物が多く出土した２～４Ｔ周辺の1,100㎡については，保存の必要がある。これ以外は保存対象外とするが，工事などの実施にあたっては慎重に行う必要がある。

４．ＤＴ－Ｂ９［行合道（ゆきあいどう）Ｂ遺跡］

所　在　地　伊達市霊山町石田字行合道・川向
調査対象面積　4,500㎡　　**トレンチ数**　25本
保 存 面 積　1,200㎡
調 査 期 間　平成24年７月10日～７月25日
検 出 遺 構　なし
出 土 遺 物　縄文土器，土師器

11　調査前遠景（南西から）

［概　　要］　ＤＴ－Ｂ９は，平成21年度に実施された表面調査において確認された遺跡推定地である。標高412～443ｍの丘陵裾部から中腹斜面にかけて広がり，石田川右岸に面した北向きの緩斜面に立地する。現況は山林である。

表17　ＤＴ－Ｂ９トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構			出土遺物（時代）
	種類（時代）	確認面までの深さ	遺構内掘込み	
２Ｔ				土師器
３Ｔ				土師器
５Ｔ				縄文土器

今回の試掘調査では，工区内の4,500㎡を対象に，25本のトレンチを設定した。斜面には黒褐色土（Ⅱａ層）や暗褐色土（Ⅱｂ層）が30～60㎝堆積している。基盤層とした褐色土（Ⅲ層）までの深さは30～90㎝である。

［遺構・遺物］　２・３ＴのⅡａ層からは，土師器が出土している。特に３Ｔからは，図示したような器形が復元可能な古墳時代の土師器甕が出土した。５ＴのⅡｂ層からは，縄文時代後期の土器が出土している。

［ま　と　め］　試掘調査の結果，遺物を確認した２・３・５Ｔ周辺の緩斜面1,200㎡については保存の必要がある。それ以外は保存の必要はないが，工事などの実施にあたっては慎重に行う必要がある。16・19・21Ｔなどからいわゆる大竹式木炭窯跡が検出されたが，保存の対象外とした。本遺跡推定地は，行合道Ｂ遺跡として登録する。

５．ＤＴ－Ｂ14［川向（かわむかい）遺跡］

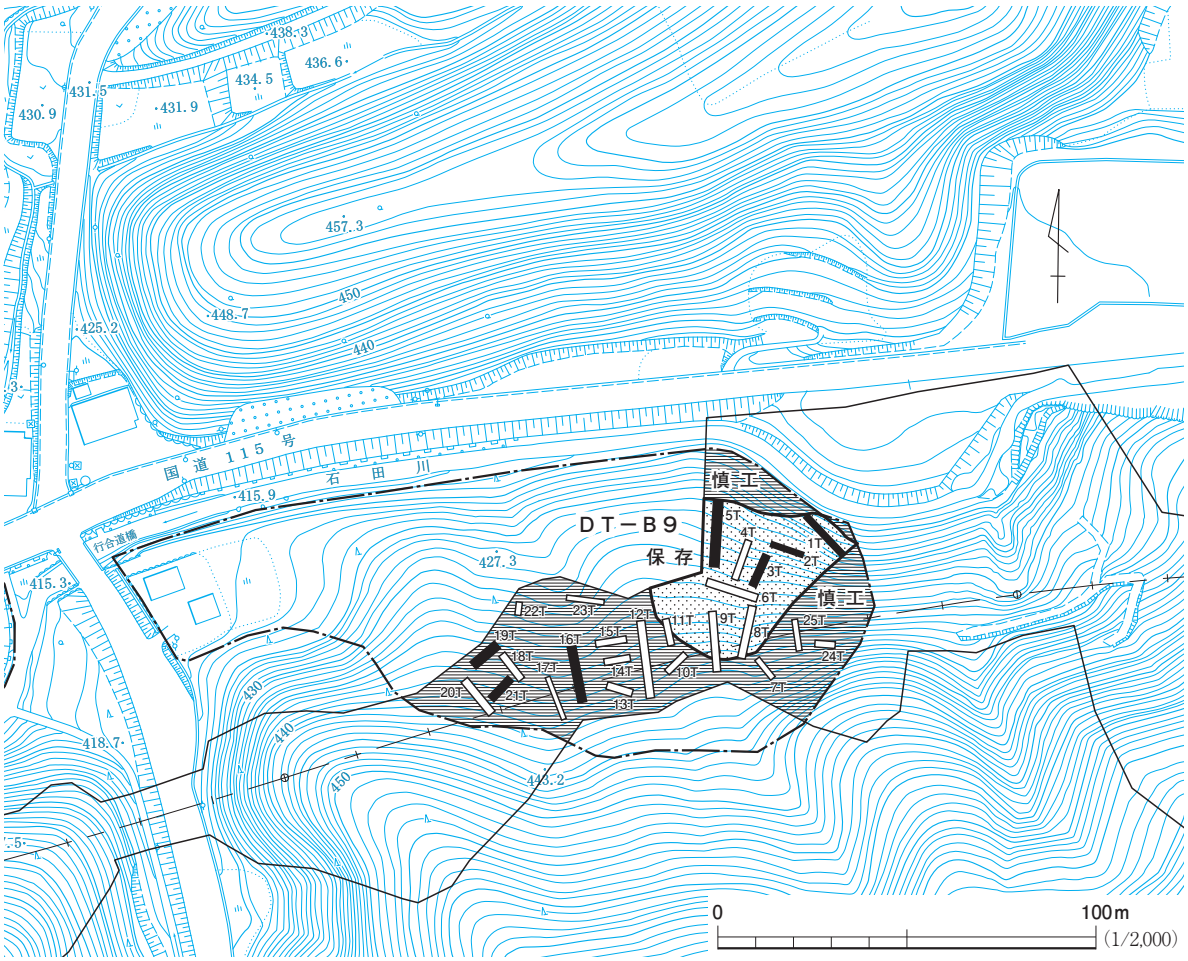
所　在　地　伊達市霊山町石田字川向・庚申向
調査対象面積　850㎡　　**トレンチ数**　６本
保 存 面 積　500㎡
調 査 期 間　平成24年12月13日～12月19日
検 出 遺 構　なし
出 土 遺 物　縄文土器

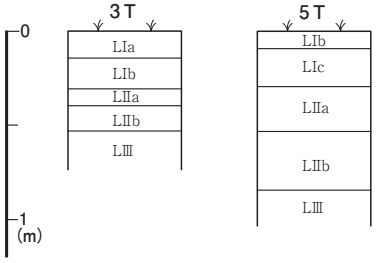
12　５号トレンチ全景（東から）

［概　　要］　ＤＴ－Ｂ14は，平成21年度の表面調査でＤＴ－Ｂ14・15として確認された遺跡推定地である。平成24年度の表面調査において再確認し，２つの遺跡推定地を統合してＤＴ－Ｂ14とした。標高445～455ｍの石田川右岸に面した段丘上に立地する。

表18　ＤＴ－Ｂ14トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構			出土遺物（時代）
	種類（時代）	確認面までの深さ	遺構内掘込み	
３Ｔ				縄文土器
５Ｔ				縄文土器
６Ｔ				縄文土器



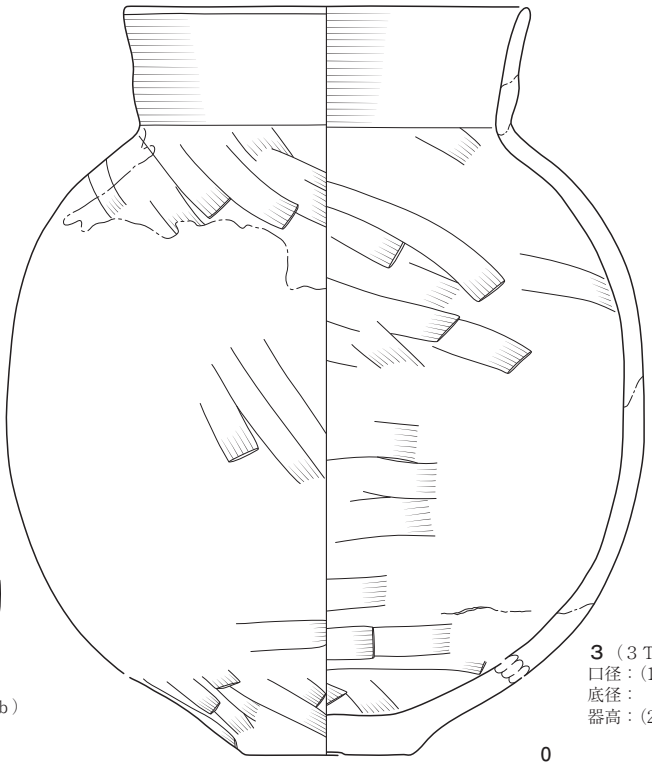


基本土層

ＬＩａ　黒褐色土　10ＹＲ3/2（表土）
ＬＩｂ　黒褐色土　10ＹＲ3/1（木炭多量含む）
ＬＩｃ　暗褐色土　10ＹＲ3/3（斜面崩落土）
ＬＩＩａ　黒褐色土　10ＹＲ3/1（土器含む）
ＬＩＩｂ　暗褐色土　10ＹＲ3/3（土器含む）
ＬＩＩＩ　褐色土　10ＹＲ4/4

1（５Ｔ ＬＩＩｂ）

2（５Ｔ ＬＩＩｂ）



3（３Ｔ ＬＩＩａ）
口径：(16.0)cm
底径：　6.6 cm
器高：(29.7)cm

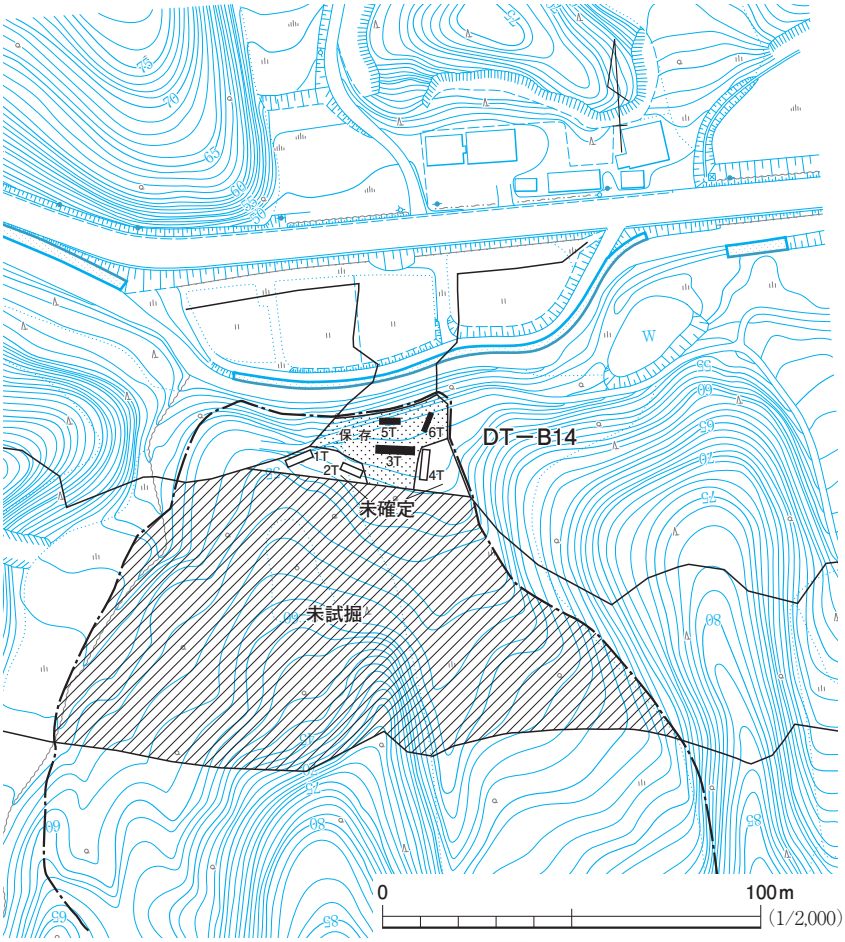
0　5cm
(1/3)

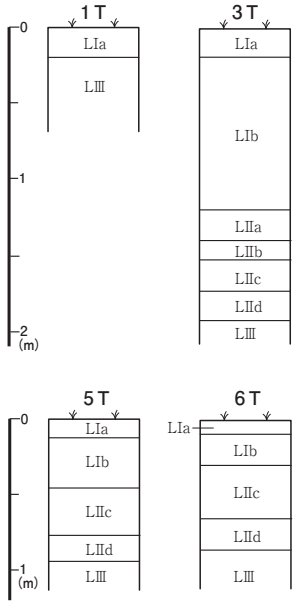
図19　ＤＴ－Ｂ９トレンチ配置図・土層柱状図・出土遺物

平成24年度の試掘調査は，工区内の一部850㎡を対象に，トレンチ６本を設定した。堆積土を観察すると，尾根部にあたる１・２Ｔは表土が15～35cmと浅く，その直下に基盤層となる灰黄褐色土（Ⅲ層）が確認されるため，削平を受けたものとみられる。谷部の３・５・６Ｔでは表土直下に黒褐色土や暗褐色土，にぶい黄褐色土（Ⅱａ～ｄ層）が50～75cmの厚さで堆積している。

［遺構・遺物］　各トレンチから遺構は確認されず，３・５・６ＴのⅡ層から縄文時代前期の土器が出土している。図20－１は波状口縁の深鉢とみられ，波頂部から隆帯が垂下する。隆帯上と口縁に沿って，連続刺突が施されている。２・３は肥厚した口縁直下に細かい刺突が並ぶ。４は斜め方向から施された刺突列が認められる。５は胴部片でＬＲ縄文が施されている。また２～４には，わずかながら繊維混和痕が確認できる。

［ま　と　め］　試掘調査の結果，遺物包含層が確認された３・５・６Ｔ周辺の500㎡については，保存の必要がある。それ以外の１・２・４Ｔ周辺については，北側の未試掘範囲の調査結果をもとに，今後検討する。本遺跡推定地は，川向遺跡として登録する。





基本土層

ＬＩａ　にぶい黄褐色土　10Ｙ R5/4
ＬＩｂ　黄褐色土　10Ｙ R5/6（盛土）
ＬＩＩａ　黒褐色土　10Ｙ R3/1
ＬＩＩｂ　暗褐色土　10Ｙ R3/4
ＬＩＩｃ　黒褐色土　10Ｙ R3/2
ＬＩＩｄ　にぶい黄褐色土　10Ｙ R5/3
（土器含む・木炭少量含む）
ＬⅢ　灰黄褐色土　10Ｙ R5/2

1（５Ｔ ＬＩＩｄ）　2（６Ｔ ＬＩＩｄ）　3（６Ｔ ＬＩＩｄ）　4（５Ｔ ＬＩＩｄ）

5（５Ｔ ＬＩＩｄ）

0　5cm
(1/3)

図20　ＤＴ－Ｂ14トレンチ配置図・土層柱状図・出土遺物

第３節　一般国道118号バイパス建設予定地

一般国道118号バイパスの予定路線は，鏡石町蒲之沢町・深内町から須賀川市稲・松塚地区までの総延長約４kmに及ぶ。現在，福島県県中建設事務所によって事業が進められている。福島県教育委員会は一般国道118号バイパスに関連する表面調査を平成20年度に実施し，鏡石町では２箇所の遺跡の遺跡範囲を拡大し，新発見の遺跡推定地を４箇所確認した(『福島県内遺跡分布調査報告15』)。平成24年度の試掘調査は，江泉館跡及びＫＩ－Ｂ１を対象とした。

１．江泉（こうせん）館跡（第２・３次調査）

所　在　地　鏡石町深内町

調査対象面積　7,200㎡　　**トレンチ数**　17本　　**保存面積**　０㎡

調査期間　平成24年６月19日～６月20日，10月22日～10月25日

検出遺構　溝跡，小穴　　**出土遺物**　土師器

［概　　要］　江泉館跡は，館跡及び深内板碑群として埋蔵文化財包蔵地台帳に登載された遺跡である。館跡は鏡石町の北西の丘陵頂部にあり，昭和50年代後半に行われた鏡石町史編纂の際に実測調査が行われ，その際に板碑群も確認されている。館跡の構築年代は，板碑群の紀年銘などから13世紀後半から14世紀初頭と推定されている。

表19　鏡石町所在遺跡試掘調査成果一覧

No.	遺跡名	遺跡工区内面積	平成24年度調査		未試掘面積	平成24年度検出遺構・出土遺物	
			調査対象面積	保存面積		検出遺構	出土遺物
1	江泉館跡	12,400㎡	7,200㎡	0㎡	700㎡	溝跡，小穴	土師器
2	ＫＩ－Ｂ１	1,500㎡	1,350㎡	0㎡	150㎡		
	鏡石町　計	13,900㎡	8,550㎡	0㎡	850㎡		

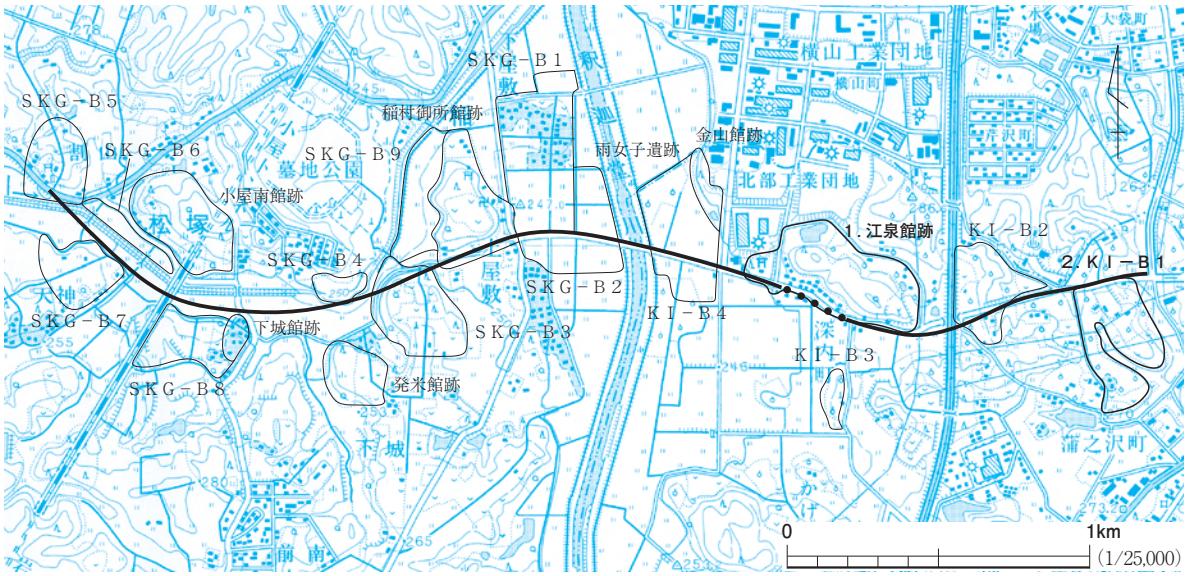


図21　鏡石町・須賀川市の遺跡

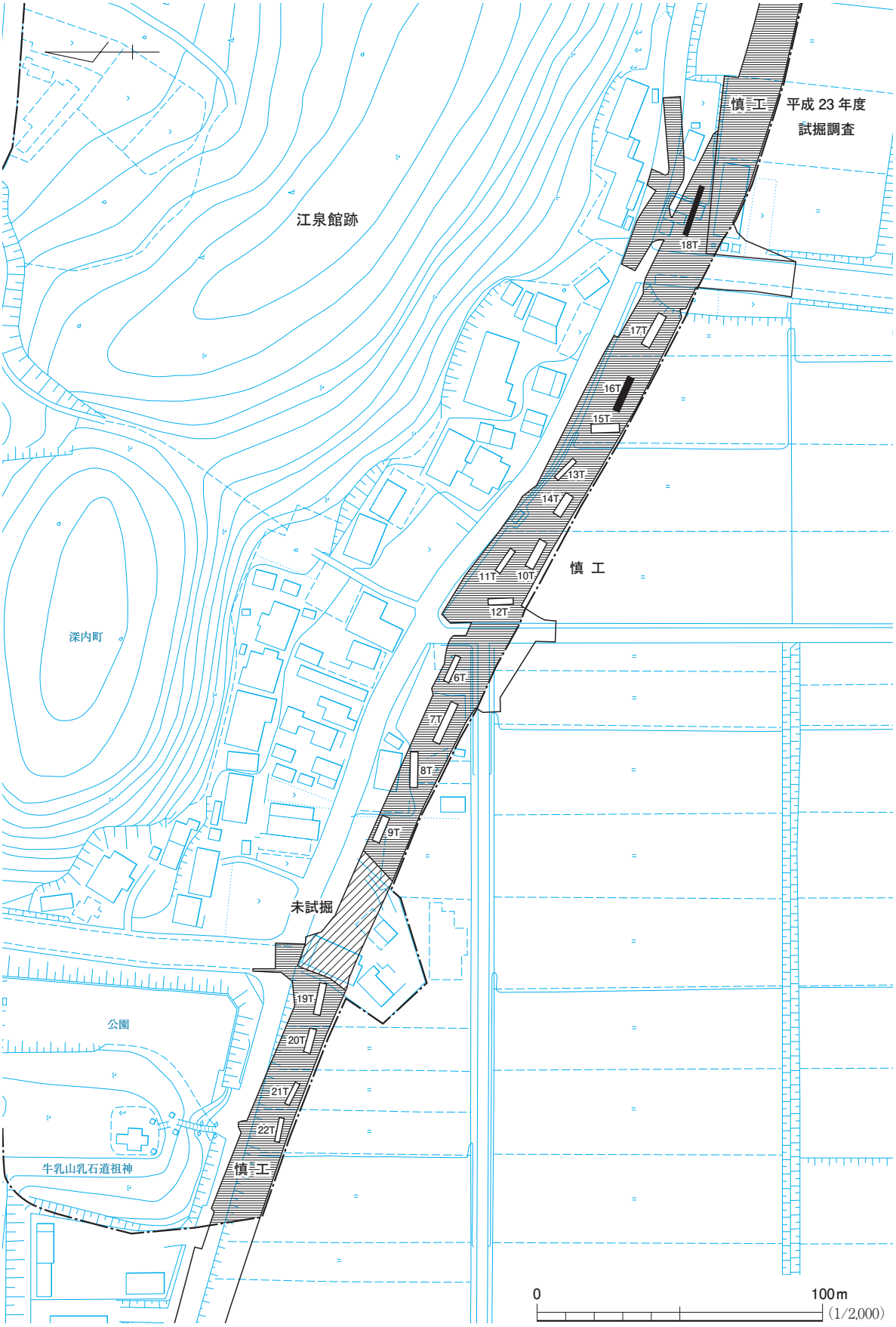


図22　江泉館跡トレンチ配置図

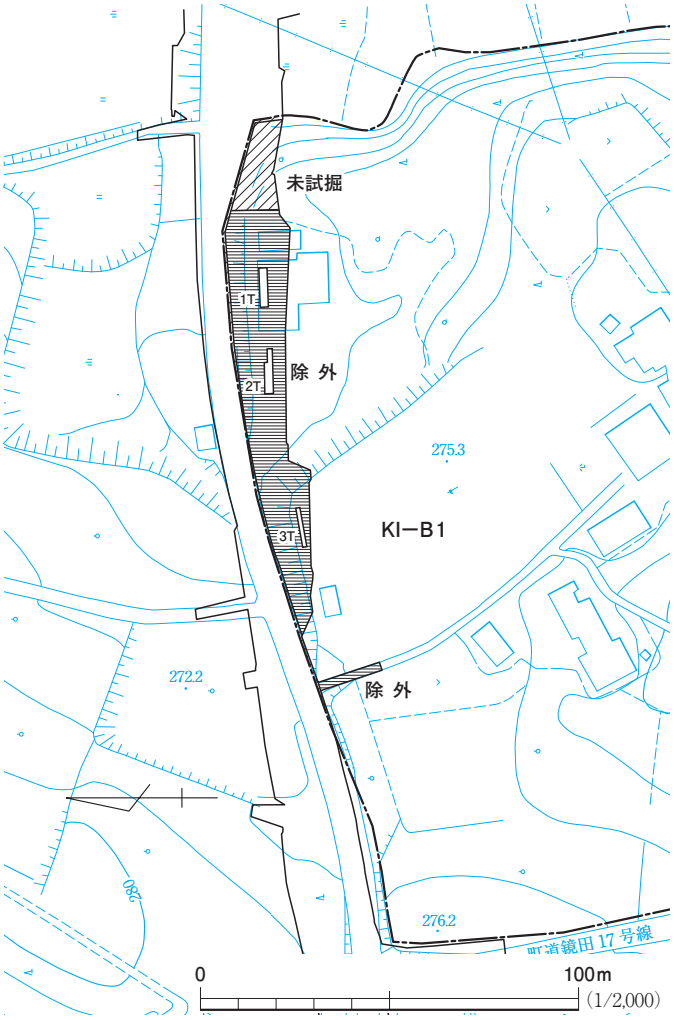


図23　ＫＩ－Ｂ１トレンチ配置図

平成20年度の表面調査の結果，館跡・板碑群の立地する丘陵のほかに，東側に隣接する丘陵頂部に複数の窪地や平坦面が存在することや，丘陵裾部にも旧地形が残存し，館跡の関連遺構が存在する可能性が考えられた。このことから，周知の遺跡範囲を拡大した(『福島県内遺跡分布調査報告15』)。現況は宅地，畑地及び水田である。

平成24年度の第２・３次試掘調査では，工事区内の7,200㎡を対象に，トレンチ17本を設定して行った。現水田の耕作土などの表土が20～40cm堆積し，宅地ではその直下に厚い盛土層がみられた。基盤層である灰黄褐色粘質土(Ｖ層)までの深さは30～140cmである。

[遺構・遺物]　16Ｔで小穴１基を検出した。小穴の覆土からは，摩滅したロクロ土師器の細片が1点出土している。18Ｔでは小規模な溝跡を検出した。

[ま　と　め]　調査の結果，館跡との関係を窺わせる遺構はなく，遺物の出土量もごく微量であった。このことから，今回の調査範囲については保存の必要はないが，工事などの実施にあたっては慎重に行う必要がある。江泉館跡の未試掘範囲は，宅地部分700㎡である。

２．ＫＩ－Ｂ１

所　在　地　鏡石町蒲之沢町

調査対象面積　1,350㎡　　**トレンチ数**　３本　　**保存面積**　０㎡

調査期間　平成24年10月26日　　**検出遺構**　な　し　　**出土遺物**　なし

[概　　要]　ＫＩ－Ｂ１は，平成20年度の表面調査において畑地から鉄滓が採取され，新たに追加された遺跡推定地である。現況は宅地・畑地・山林である。今回の試掘調査では，遺跡推定地の北端1,350㎡を対象にトレンチ３本を設定して行った。堆積土を観察すると，表土及び盛土を50～60cm下げると，基盤層となる明黄褐色粘質土(Ⅲ層)が確認できる。２Ｔの窪地には黒褐色土(Ⅱ層)が認められたが，１・３Ｔでは宅地造成の際に削平されたものとみられる。

[ま　と　め]　調査の結果，今回の工区内調査範囲では，遺構・遺物が確認できなかった。このことから，今回の調査範囲については，遺跡として扱わない。ＫＩ－Ｂ１の未試掘範囲は，工区東端の山林部分150㎡である。

第４節　地域高規格道路（会津縦貫北道路）建設予定地

会津縦貫北道路は，会津北部地域の高速交通体制を形成し，地域の産業・経済・観光資源などを有機的に結び付けることで，会津地域の活性化を図ることを目的とした事業である。平成８年度に都市計画道路に位置付けられ，平成９年度から建設省(現国土交通省)の直轄事業として進められている。喜多方市関柴町から河沼郡湯川村を経て，会津若松市高野に至る総延長13.1km の地域高規格道路で，北は東北中央自動車道の米沢ＩＣ(仮称)と，南は会津縦貫南道路を経て，栃木西部・会津南道路(南会津町～栃木県日光市)と将来的に結ばれる計画となっている。

会津縦貫北道路に関連する埋蔵文化財の調査は，平成９・19・24年度に表面調査を実施し，総計29箇所の遺跡及び遺跡推定地を確認した(『福島県内遺跡分布調査報告４・14・20』)。平成12年度から試掘調査，平成13年度からは本発掘調査を実施している。平成24年度の試掘調査は，会津若松市の６箇所の遺跡及び遺跡推定地を対象とした。

表20　会津若松市所在遺跡試掘調査成果一覧

No.	遺　跡　名	遺跡工区内面　　積	平成 24 年度調査		未試掘面積	平成 24 年度検出遺構・出土遺物	
			調査対象面積	保 存 面 積		検 出 遺 構	出 土 遺 物
1	ＡＷ－Ｂ１	8,400㎡	1,400㎡	1,400㎡	０㎡	溝跡	土師器，須恵器
2	西木流Ｄ遺跡	19,900㎡	9,300㎡	9,600㎡	300㎡	土坑，溝跡，小穴	土師器，須恵器，木製品
3	ＡＷ－Ｂ３	15,200㎡	4,900㎡	5,500㎡	600㎡	溝跡	土師器
4	ＡＷ－Ｂ２	13,700㎡	9,800㎡	9,800㎡	3,900㎡	土坑，柱列，溝跡，小穴	土師器，須恵器，木製品
5	ＡＷ－Ｂ４	9,600㎡	2,100㎡	0㎡	7,500㎡		
6	ＡＷ－Ｂ５	11,600㎡	5,800㎡	5,800㎡	5,800㎡	土坑，柱列，溝跡，小穴，特殊遺構	土師器，須恵器
	会津若松市計	78,400㎡	33,300㎡	32,100㎡	18,100㎡		

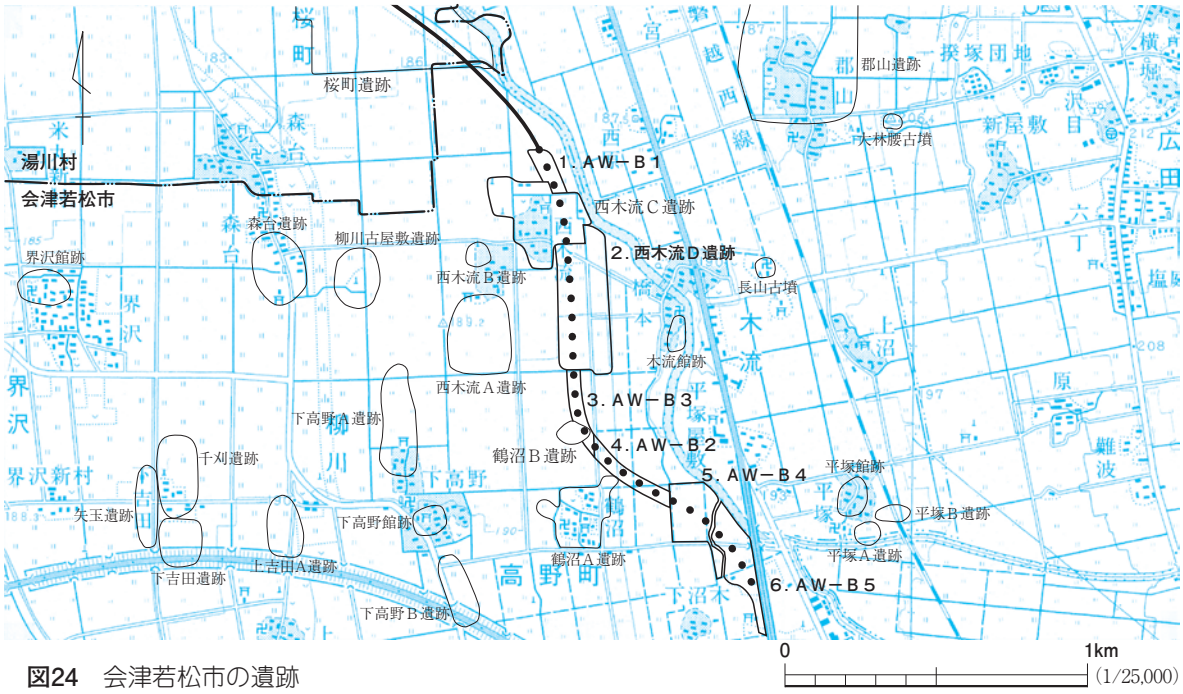


図24　会津若松市の遺跡

１．ＡＷ－Ｂ１（第２次調査）［西木流（にしきながし）Ｃ遺跡］

所　在　地　会津若松市高野町木流字木流

調査対象面積　1,400㎡　　**トレンチ数**　３本

保存面積　1,400㎡

調査期間　平成24年11月20日

検出遺構　溝跡

出土遺物　土師器，須恵器

［概　　要］　ＡＷ－Ｂ１は，溷川左岸に位置し，平成19年度に実施した表面調査の結果，西木流Ｃ遺跡が立地する微高地に隣接することから，遺跡推定地として追加した（『福島県内遺跡分布調査報告14』）。現況は水田である。平成24年度の２次試掘調査は工区内の1,400㎡を対象に，トレンチ３本を設定した。

堆積土を観察すると，30～35cmの厚さで堆積している水田の耕作土（Ⅰ層）の下には，黒色粘質土（Ⅲ層）が確認できる。Ⅲ層の上面では溝跡が確認され，遺物も出土する。

［遺構・遺物］　11Ｔから溝跡１条を検出した。遺物は，10Ｔの表土及びⅢ層上面から平安時代の土師器・須恵器が，11Ｔからも土師器の破片が出土している。図示した土師器は，ロクロ整形の杯片である。

［ま　と　め］　試掘調査の結果，10・11Ｔから遺構及び遺物が確認できたことから，調査区全域1,400㎡について保存の必要がある。本遺跡推定地は，西木流Ｃ遺跡に含めて登録する。

13　調査前風景（南から）

表21　ＡＷ－Ｂ１トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構			出土遺物
	種類（時代）	確認面までの深さ	遺構内掘込み	
10Ｔ				土師器，須恵器
11Ｔ	溝跡	30cm	○	土師器

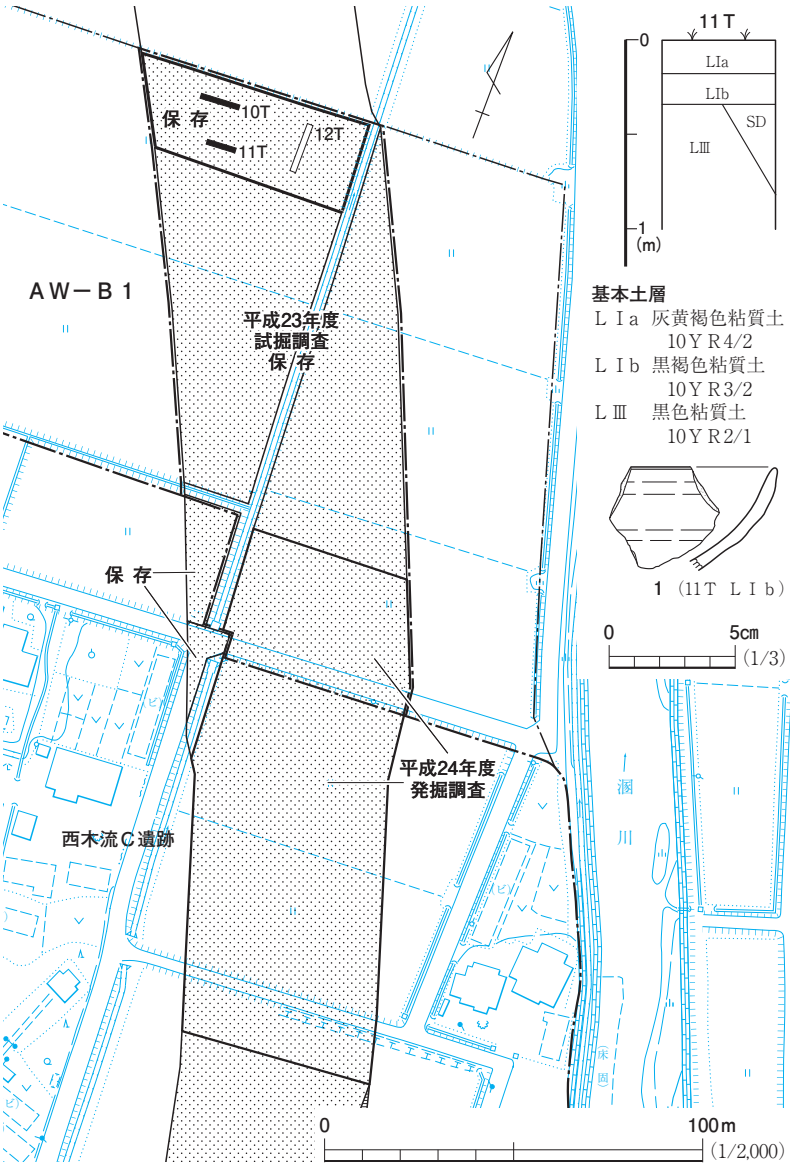


図25　ＡＷ－Ｂ１トレンチ配置図・土層柱状図・出土遺物

２．西木流（にしきながし）Ｄ遺跡（第２次調査）

所　在　地　会津若松市高野町木流字木流・橋本

調査対象面積　9,300㎡　　**トレンチ数**　18本

保存面積　9,600㎡

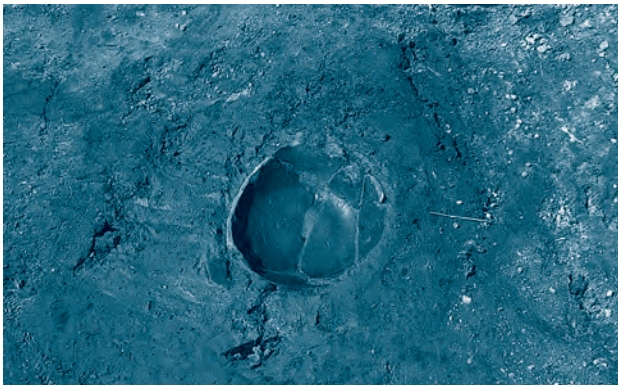
調査期間　平成24年７月31日～８月10日

検出遺構　土坑，溝跡，小穴

出土遺物　土師器，須恵器，木製品

［概　　要］　西木流Ｄ遺跡は，溷川左岸に位置し，北側に西木流Ｃ遺跡が隣接する。本遺跡は，平成５年度に会津若松市教育委員会が実施した表面調査の際に，土師器を採集し，奈良時代から平安時代にかけての散布地として埋蔵文化財包蔵地台帳に登載された遺跡である。

平成19年度に，地域高規格道路建設予定地周辺の表面調査を実施した結果，遺物の散布が広がることを確認し，本遺跡の範囲を拡張している（『福島県内遺跡分布調査報告14』）。現況は水田である。平成24年度の試掘調査では工区内の9,300㎡及び平成23年度の調査区2,300㎡を対象に，トレンチ18本を設定した（７～24Ｔ）。



14　８号トレンチ遺物出土状況（南から）

表22　西木流Ｄ遺跡トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構 種類（時代）	検出遺構 確認面までの深さ	検出遺構 遺構内掘込み	出土遺物
7Ｔ				土師器，須恵器
8Ｔ				土師器，須恵器
9Ｔ				土師器，須恵器
10Ｔ				土師器，須恵器
11Ｔ	小穴	20cm	○	土師器，須恵器
14Ｔ				土師器，須恵器
15Ｔ				土師器，須恵器
16Ｔ	溝跡（古代），小穴	30cm		土師器，須恵器，木製品
17Ｔ				土師器
18Ｔ	溝跡（古代），小穴	30cm	○	土師器，須恵器
19Ｔ	溝跡，小穴	30cm		土師器，須恵器
20Ｔ	溝跡	35cm		土師器，須恵器
21Ｔ	溝跡，小穴	40cm		土師器，須恵器
22Ｔ	土坑	35cm	○	
23Ｔ	溝跡，小穴	30cm		土師器
24Ｔ	溝跡	35cm		土師器，須恵器

［遺構・遺物］　調査区南半のⅣ層上面において，溝跡を検出した。22Ｔからは円形の土坑１基を確認している。遺物は，ほぼ全てのトレンチの表土及びⅡ層から古代の土師器・須恵器が出土している。調査区北側ほど出土量が多く，特に８Ｔからは完形に近い９世紀代の土師器杯が出土した。16Ｔからは長頸瓶や円面硯の破片も出土している。

［ま　と　め］　試掘調査の結果，調査区のほぼ全域から遺構ないし遺物が確認できたことから，再度試掘を行った2,300㎡（23・24Ｔ周辺）及び未試掘の市道部分300㎡を含む9,600㎡については保存の必要がある。

３．ＡＷ－Ｂ３（第２次調査）［鶴沼（つるぬま）Ｂ遺跡］

所　在　地　会津若松市高野町木流字橋本

調査対象面積　4,900㎡　　**トレンチ数**　10本

保存面積　5,500㎡

調査期間　平成24年８月29日～９月16日

検出遺構　溝跡

出土遺物　土師器

15　作業風景（東から）

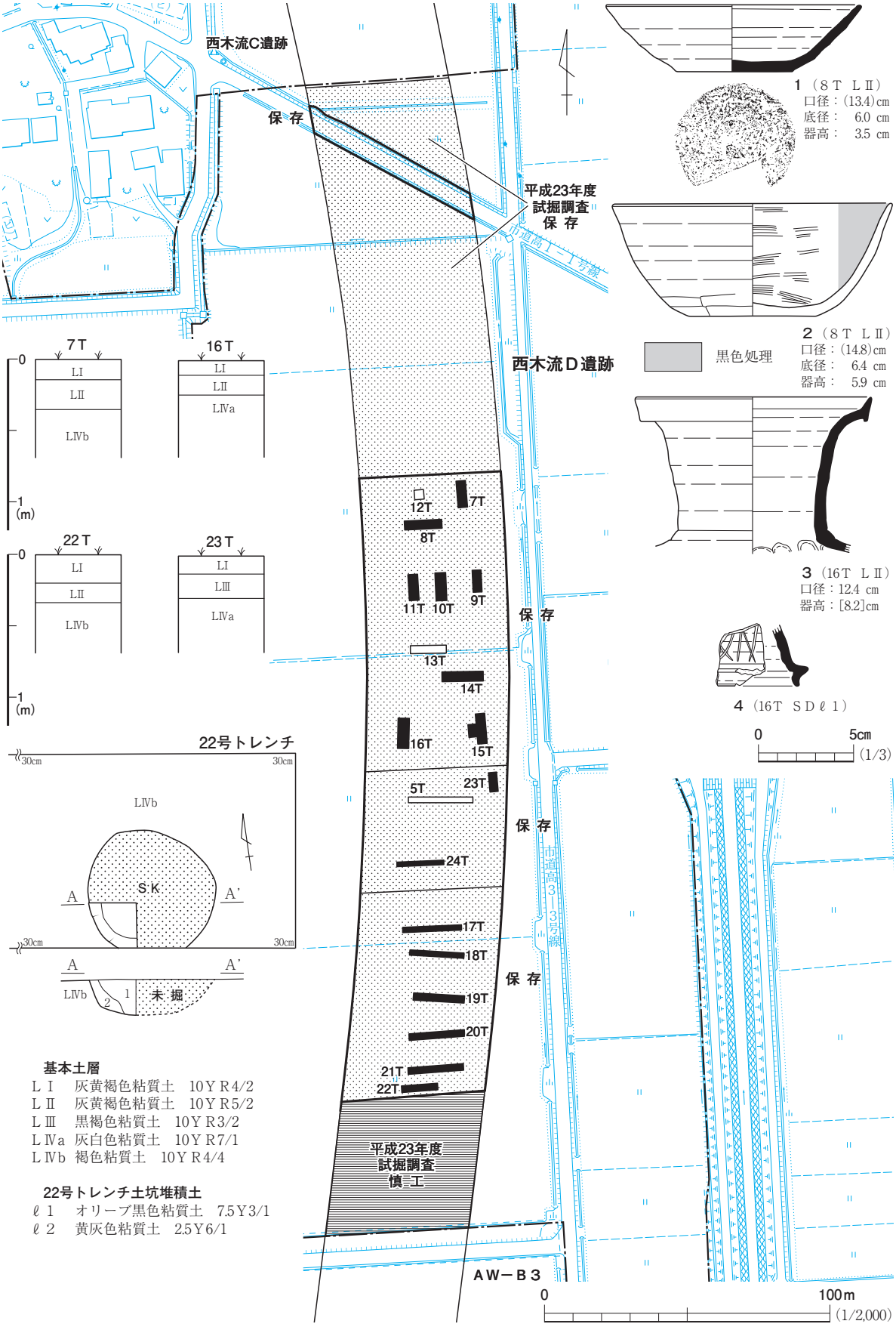


図26　西木流Ｄ遺跡トレンチ配置図・検出遺構・土層柱状図・出土遺物

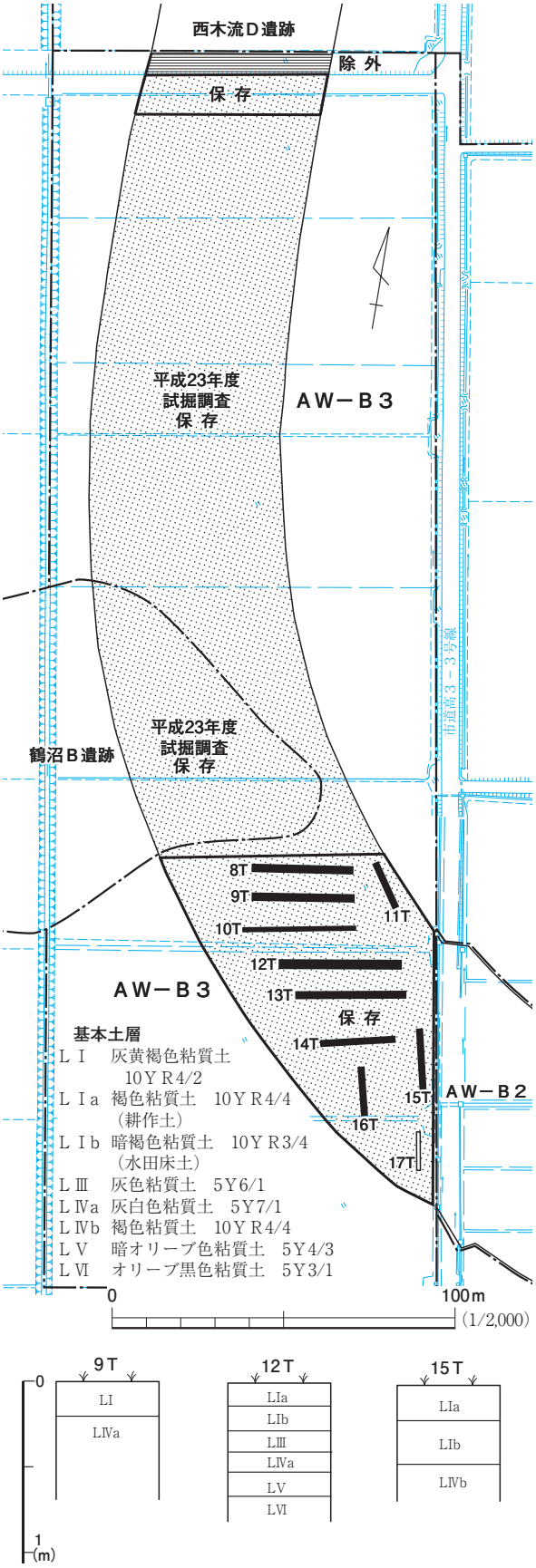


図27　ＡＷ－Ｂ３トレンチ配置図・検出遺構・土層柱状図

表23　ＡＷ－Ｂ３トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構 種類（時代）	確認面までの深さ	遺構内掘込み	出土遺物（時代）
11 T	溝跡	35cm	○	土師器
12 T	溝跡	40cm		
13 T	溝跡	30cm	○	土師器

［概　　要］　ＡＷ－Ｂ３は，土師器・須恵器片が散布することが確認されたことから，平成23年度に新たに追加した遺跡推定地である。溷川及び第２沼川の左岸に位置し，北に西木流Ｄ遺跡が，南に鶴沼Ｂ遺跡が隣接している。また，鶴沼Ｂ遺跡の西側には，会津若松市教育委員会が平成７年度に本発掘調査を実施した木流遺跡も位置している（『若松北部地区県営ほ場整備事業発掘調査概報Ⅳ』）。現況は水田である。

平成24年の第２次試掘調査では，工区内の4,900㎡を対象に，トレンチ10本（８～17Ｔ）を設定した。耕作土（Ⅰ層）は，地表面から20～25cmの厚さで堆積している。基盤層はⅣ層と考えられ，鶴沼Ｂ遺跡に近い調査区北西寄りでは微高地に認められる灰白色粘質土（Ⅳａ層）が堆積し，南東寄りでは褐色粘質土（Ⅳｂ層）が確認された。このことから，鶴沼Ｂ寄りに微高地が広がっているものと推察される。17Ｔでは表土直下にグライ化した粘土層（Ⅴ層）が確認されたことから，調査区南東端付近は低湿地であったことが窺える。

［遺構・遺物］　17Ｔを除く各トレンチから溝跡が確認された。そのうちの１条は，幅２～３ｍの粗砂が堆積した流路と考えられ，８Ｔから15Ｔにかけて直線的に延びるものと推察される。

遺物は，11・13Ｔの溝跡堆積土などから，土師器の破片がわずかに出土している。

［ま　と　め］　試掘調査の結果，遺構及び遺物が確認されたことから，今回の調査区全域4,900㎡については保存の必要がある。また，調査区北端の未試掘範囲600㎡についても，周辺の試掘調査結果から保存範囲に含めるものとする。本遺跡推定地は，鶴沼Ｂ遺跡に含めて登録する。

４．ＡＷ－Ｂ２［鶴沼（つるぬま）Ｂ・Ｃ遺跡］

所　在　地　会津若松市高野町中沼字鶴沼・高野町木流字橋本

調査対象面積　9,800㎡　**トレンチ数**　24本

保存面積　9,800㎡

調査期間　平成24年８月21日～８月31日

検出遺構　土坑，柱列跡，溝跡，小穴

出土遺物　土師器，須恵器，木製品

［概　　要］　ＡＷ－Ｂ２は平成８年前後に大規模なほ場整備が実施された区域であるが，周知の遺跡が多く所在する溷川左岸の微高地に位置し，遺構等が遺存している可能性が高いと判断されたことから，平成19年度の表面調査において新たに追加された遺跡推定地である（『福島県内遺跡分布調査報告14』）。南に鶴沼Ａ遺跡，北西に鶴沼Ｂ遺跡，東にＡＷ－Ｂ４が隣接する。現況は水田である。

平成24年の試掘調査では，工区内の9,800㎡を対象に，トレンチ24本を設定した。堆積土を観察すると，層厚20～45cmの現水田耕作土（Ⅰ層）の下には，湿地性のグライ化した粘質土や洪水砂（Ⅲ層）が堆積している。基盤層は，調査区東側では微高地に安定して堆積している灰白色粘質土（Ⅳａ層）である。12・13・17Ｔ周辺では，Ⅳａ層に代わって褐色粘質土（Ⅳｂ層）が確認された。この周辺は低湿地であった可能性が高い。

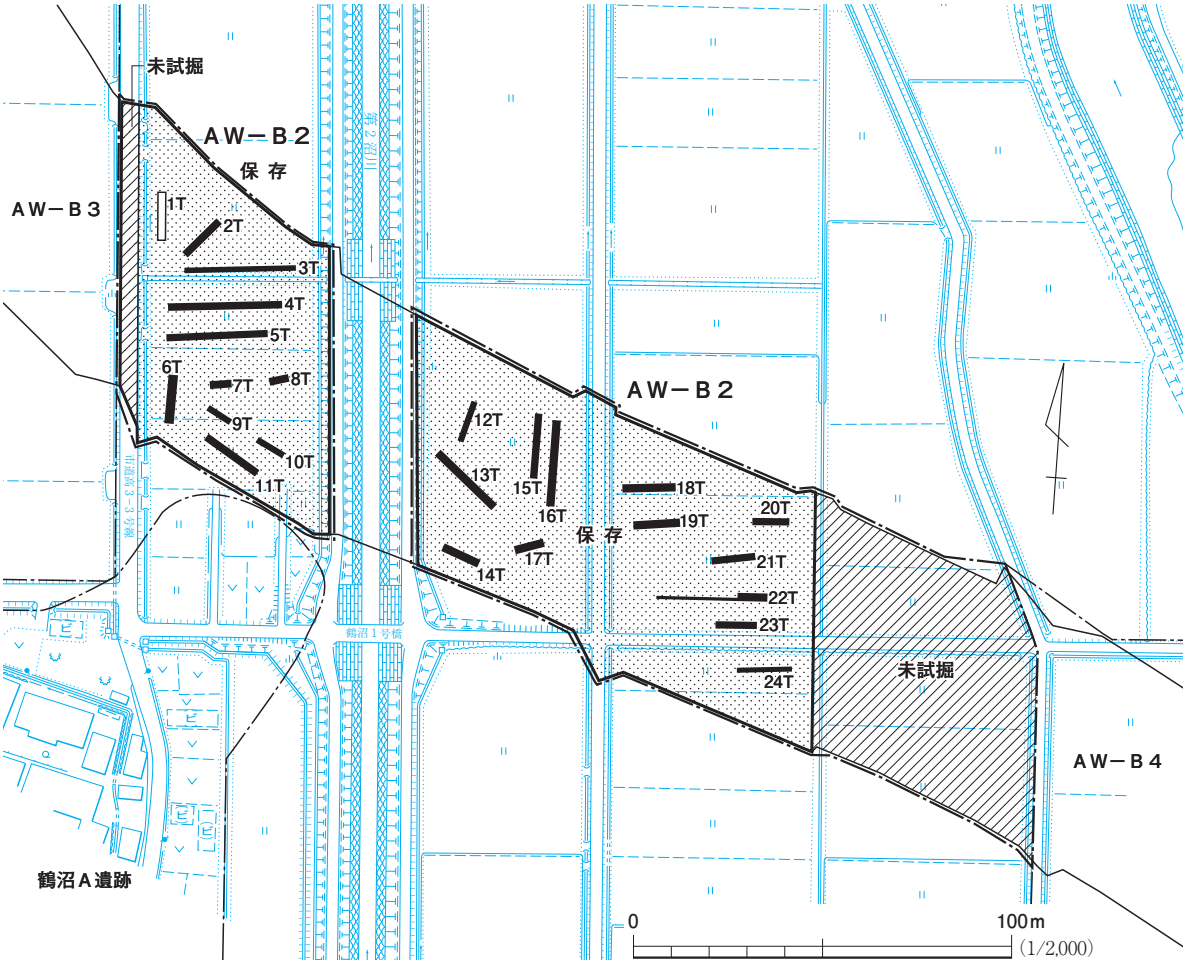
16　21号トレンチ遺構検出状況（西から）

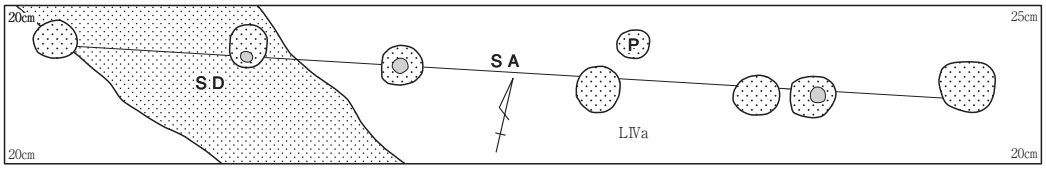
表24　ＡＷ－Ｂ２トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構			出土遺物
	種類（時代）	確認面までの深さ	遺構内掘込み	
2Ｔ	溝跡	40cm		
3Ｔ				土師器
5Ｔ	土坑，小穴	70cm	○	
6Ｔ	溝跡（古代）	40cm		
9Ｔ	溝跡（古代）	60cm	○	
10Ｔ				陶器，木製品
11Ｔ	小穴	60cm		土師器
12Ｔ	溝跡（古代）	50cm		土師器，須恵器，陶器
13Ｔ	溝跡（古代）	60cm		
14Ｔ				陶器
15Ｔ	溝跡（古代），小穴	50cm		土師器
16Ｔ	土坑，溝跡（古代），小穴	40cm		
17Ｔ				土師器
18Ｔ	溝跡	20cm		
19Ｔ	小穴	70cm		土師器，須恵器
20Ｔ	小穴	30cm		土師器
21Ｔ	柱列，溝跡	25cm		土師器
22Ｔ	土坑，溝跡（古代）	20cm		土師器
23Ｔ				土師器，須恵器
24Ｔ				土師器

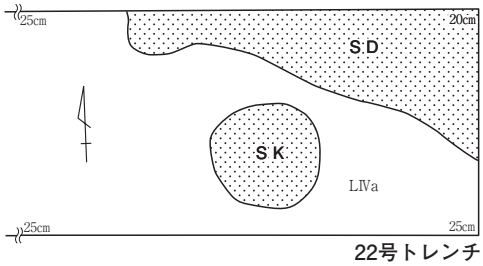
［遺構・遺物］　16Ｔでは円形の土坑が検出された。土坑の外縁には厚さ２cm程の黒色粘土が確認され，桶などが腐食した痕跡と考えられる。22Ｔでも，円形の土坑が確認された。土坑の外縁には鉄分が沈着し，井戸跡の可能性がある。21Ｔでは，Ⅳａ層上面で掘立柱建物跡の一部とみられる柱列が検出された。柱穴の直径は40～45cm，柱間は180～200cmである。この他，多くのトレンチで溝跡が確認されている。遺物は，表土やⅢ層から古代の土師器・須恵器が出土し，調査区東寄りの出土量が比較的多い。図28－１は須恵器の甕，同図２は長頸瓶の破片である。

［ま　と　め］　試掘調査の結果，今回の調査区全域9,800㎡については保存の必要がある。本遺跡推定地は，第２沼川を境に西側を鶴沼Ｂ遺跡に含め，東側を鶴沼Ｃ遺跡として登録する。なお，調査区東端の3,600㎡と西端の市道部分300㎡は未試掘である。



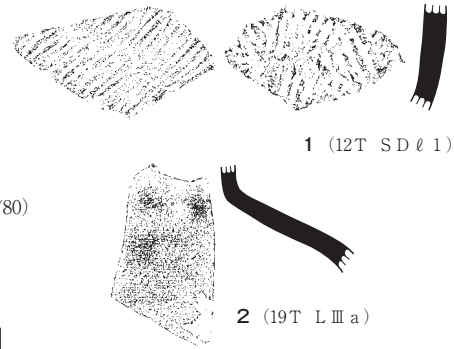


柱　痕　　21号トレンチ



22号トレンチ

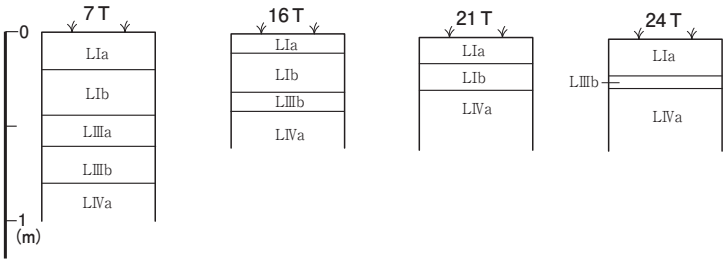
0　2m
(1/80)



1（12T　SDℓ1）

2（19T　LⅢa）

0　5cm
(1/3)



基本土層

LⅠa　褐色粘質土　10YR4/4（水田耕作土）
LⅠb　暗褐色粘質土　10YR3/4
LⅢa　褐灰色砂　10YR6/1
LⅢb　灰オリーブ色粘質土　5Y5/2
LⅣa　灰白色粘質土　5Y7/1

図28　AW－B2トレンチ配置図・検出遺構・土層柱状図・出土遺物

５．ＡＷ－Ｂ４

所　在　地　会津若松市高野町中沼字沼木

調査対象面積　2,100㎡　　**トレンチ数**　７本　　**保存面積**　０㎡

調査期間　平成24年12月３日～12月12日　　**検出遺構**　な　し

出土遺物　な　し

［概　　要］　ＡＷ－Ｂ４は，平成24年度の表面調査において，須恵器・土師器の破片が採取されたことから新たに追加された遺跡推定地である。工区内面積は9,600㎡である。溷川左岸に立地し，東端には溷川の支流がある。西にＡＷ－Ｂ２が，東にＡＷ－Ｂ５が隣接する。現況は水田・荒地である。平成24年の試掘調査では，工区内の2,100㎡を対象に，トレンチ７本を設定した。表土や現水田耕作土（Ⅰ層）が20～40cmの厚さで堆積し，その下には湿地性のグライ化した黒色粘質土（Ⅲ層）が厚く堆積している。微高地に堆積する灰白色粘質土（Ⅳａ層）は認められなかった。

［ま　と　め］　試掘調査の結果，遺構・遺物は確認できなかった。今回の試掘範囲については低湿地であったと判断され，遺跡として扱わない。本遺跡推定地の未試掘面積は，7,500㎡である。

６．ＡＷ－Ｂ５［西坂才（にしさかさい）遺跡］

所　在　地　会津若松市高野町中沼字西坂才

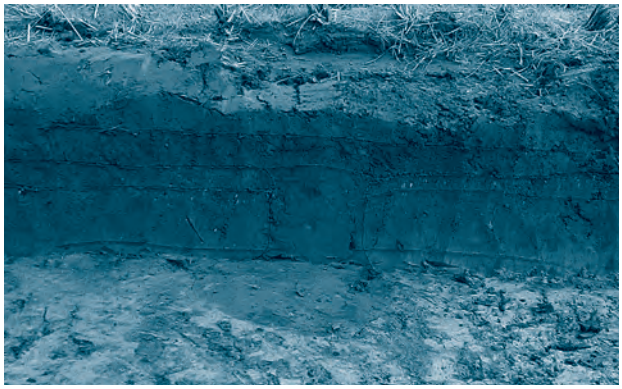
調査対象面積　5,800㎡　　**トレンチ数**　26本

保存面積　5,800㎡

調査期間　平成24年11月21日～11月30日

検出遺構　土坑，柱列跡，溝跡，小穴，特殊遺構

出土遺物　土師器，須恵器



17　17号トレンチ遺構検出状況（西から）

［概　　要］　ＡＷ－Ｂ５は平成24年度の表面調査において，須恵器・土師器の破片が採取されたことから，新たに追加された遺跡推定地である。工区内の面積は11,600㎡である。溷川とその支流に囲まれた微高

表25　ＡＷ－Ｂ５トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構 種類（時代）	検出遺構 確認面までの深さ	検出遺構 遺構内掘込み	出土遺物
１Ｔ				須恵器
２Ｔ				土師器，須恵器
３Ｔ	溝跡	10cm		
４Ｔ	溝跡	15cm		
５Ｔ	溝跡	15cm		
６Ｔ	溝跡	10cm		
７Ｔ	土坑，溝跡	15cm	○	土師器，須恵器
８Ｔ				土師器
10Ｔ	溝跡，小穴	15cm		土師器
11Ｔ	柱列，溝跡，小穴	20cm		土師器
12Ｔ	溝跡，小穴	20cm		
13Ｔ	溝跡	40cm		
14Ｔ	柱列，土坑，溝跡，小穴	30cm		
15Ｔ	小穴	30cm		
16Ｔ	溝跡	50cm		須恵器
17Ｔ	小穴（古代）	40cm		
18Ｔ	土坑（古代），溝跡	30cm		土師器，須恵器
19Ｔ	溝跡	20cm	○	
20Ｔ	溝跡	20cm		
21Ｔ	土坑，溝跡	20cm		土師器
22Ｔ	溝跡	25cm	○	土師器
23Ｔ	土坑（古代）	20cm		土師器
24Ｔ	溝跡，小穴	20cm		
25Ｔ	特殊遺構	20cm	○	土師器
26Ｔ				須恵器

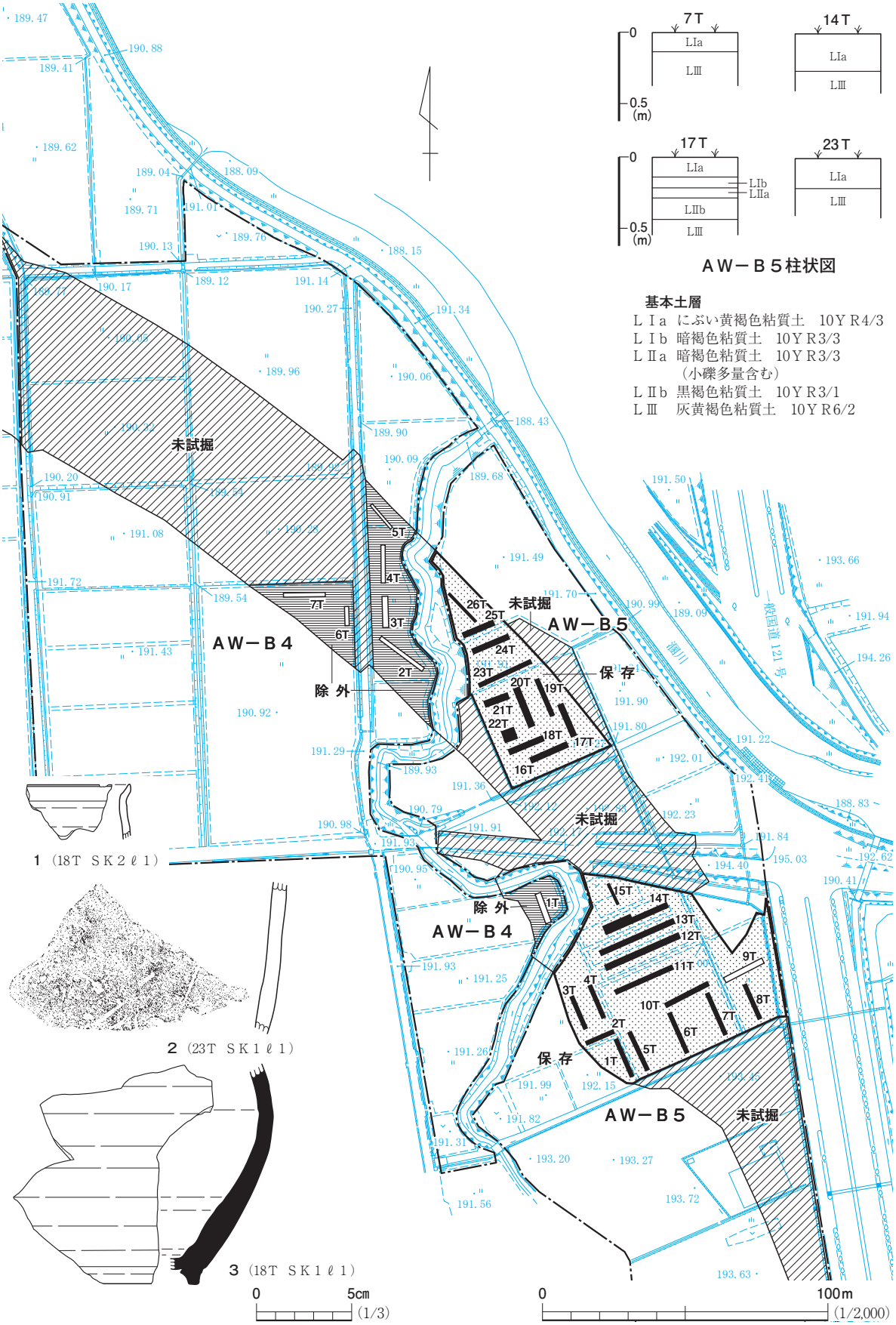
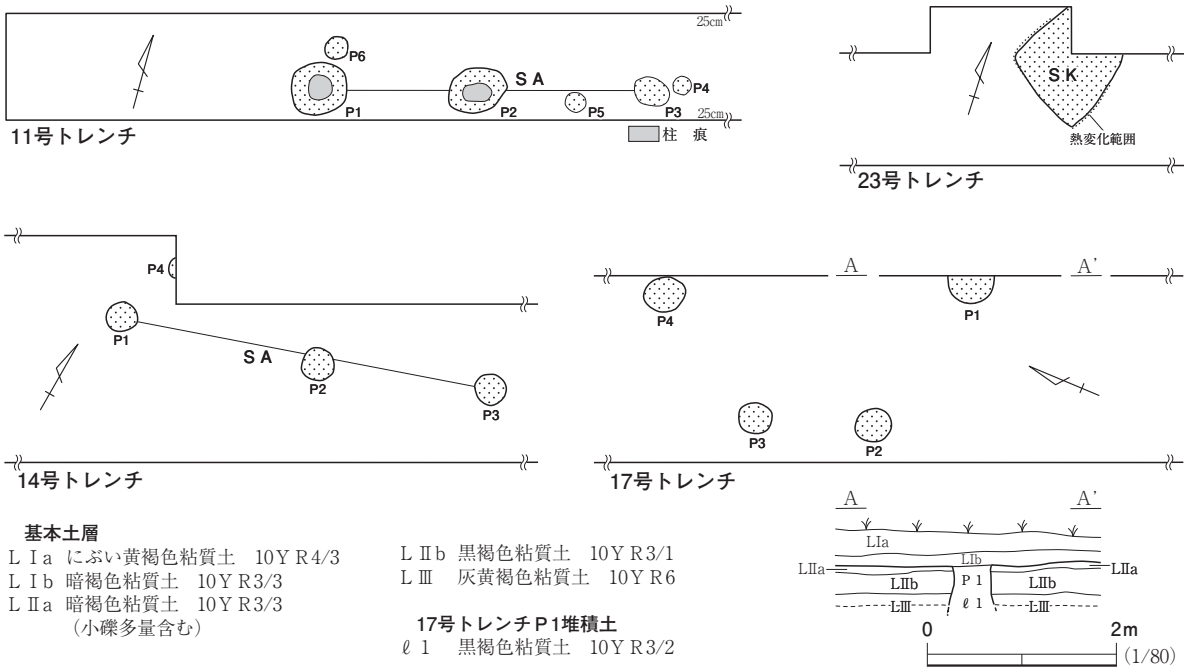


図29　ＡＷ－Ｂ５トレンチ配置図・土層柱状図・出土遺物



基本土層
ＬＩａ　にぶい黄褐色粘質土　10ＹＲ4/3
ＬＩｂ　暗褐色粘質土　10ＹＲ3/3
ＬⅡａ　暗褐色粘質土　10ＹＲ3/3
（小礫多量含む）
ＬⅡｂ　黒褐色粘質土　10ＹＲ3/1
ＬⅢ　灰黄褐色粘質土　10ＹＲ6

17号トレンチＰ1堆積土
ℓ１　黒褐色粘質土　10ＹＲ3/2

図30　ＡＷ－Ｂ５検出遺構

地に立地し，西にＡＷ－Ｂ４が隣接する。現況は水田・宅地・畑地・荒地である。

平成24年の試掘調査では，工区内の5,800㎡を対象に，トレンチ26本を設定した。表土（Ⅰ層）は10～25cmと薄く，その直下には，10～30cm の厚さで暗褐色や黒褐色の粘質土（Ⅱ層）が堆積し，遺物が出土する。遺構検出面は灰黄褐色粘質土（Ⅲ層）上面であるが，17Ｔの柱穴はⅡａ層上面で検出されている。なお，テフラ分析から，Ⅱ・Ⅲ層には沼沢パミスの再堆積物が含まれるとの結果を得ている。

［遺構・遺物］　11・14Ｔでは柱列跡が確認されたことから，本遺跡推定地には掘立柱建物跡が存在する可能性が高い。７・14・18・21・23Ｔでは，土坑が検出された。特に18・23Ｔで検出された土坑は，土師器が多量に出土し，周壁も被熱していた。このため，土師器焼成坑の可能性がある。25Ｔで確認された不整形の掘り込みは，粘土採掘坑と考えている。遺物は，表土やⅡ層，遺構内などから古代の土師器・須恵器が出土する。図29－１・２は土坑から出土した土師器甕，同図３は長頸瓶の胴部破片である。

［ま　と　め］　試掘調査の結果，今回の調査区5,800㎡については保存の必要がある。本遺跡推定地は，西坂才遺跡として新規に登録する。残る5,800㎡が未試掘である。

第５節　地域高規格道路（会津縦貫南道路）建設予定地

会津縦貫南道路は，会津地方の南北軸となる国道121号線の機能を強化することにより，地域の活性化を図ることを目的に計画が進められている自動車専用道路である。会津若松市から南会津郡下郷町を経て，南会津郡南会津町に至る総延長約50km の地域高規格道路で，将来的に北は山形県米沢市と，南は栃木県日光市と結ばれる計画となっている。平成10年，地域高規格道路の計画路線として指定を受けた。平成19年度には福島県が事業主体となり，湯野上バイパス8.3kmが国道改築事業として着手された。平成24年度からは国土交通省の直轄事業として進められている。

会津縦貫南道路に関連する埋蔵文化財の調査は，平成18・19年度に表面調査を実施し，12箇所の遺跡及

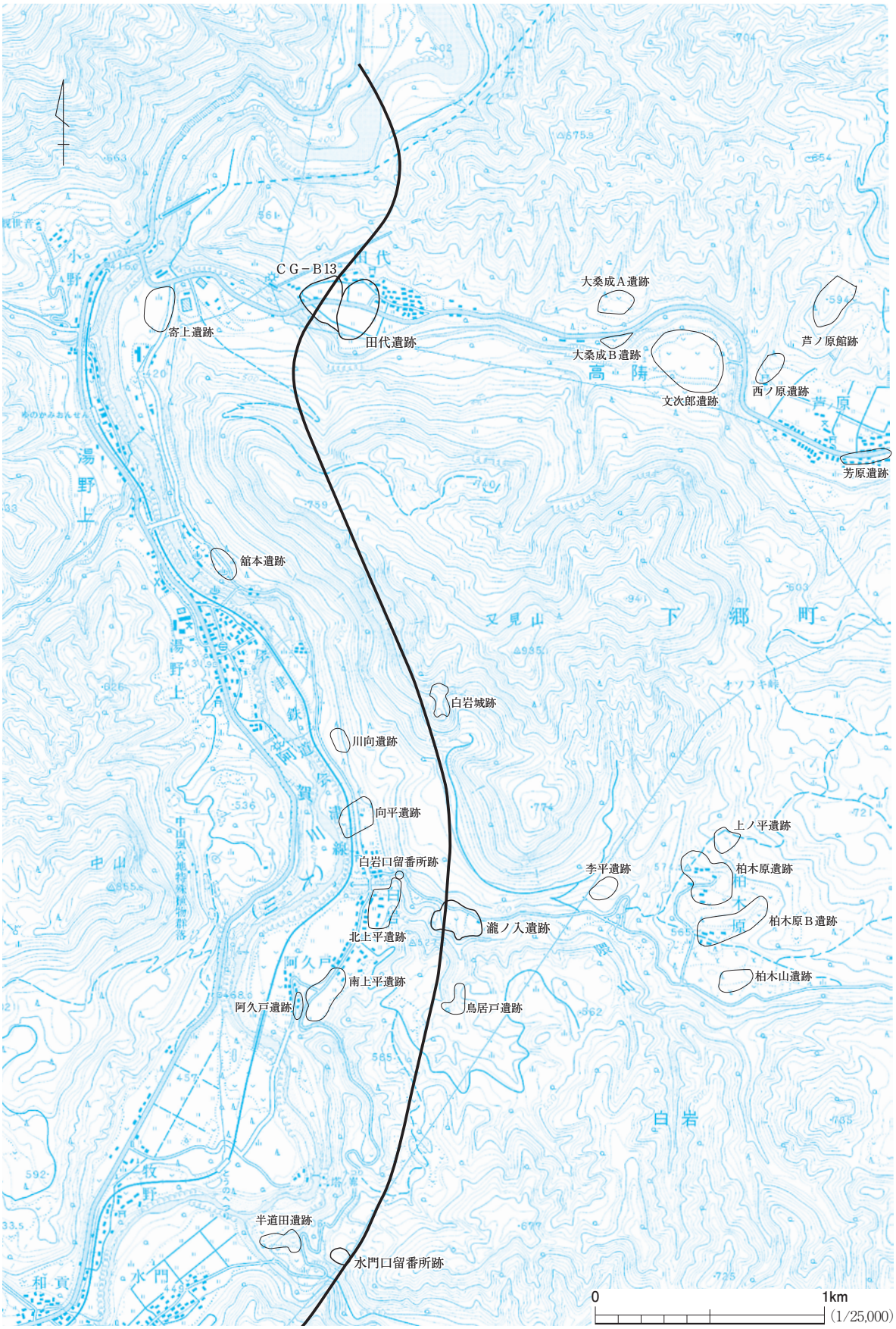

ＣＧ－Ｂ13
寄上遺跡
田代遺跡
大桑成Ａ遺跡
大桑成Ｂ遺跡
文次郎遺跡
芦ノ原館跡
西ノ原遺跡
芳原遺跡
高陣
芦ノ原
湯野上
舘本遺跡
又見山
下郷町
白岩城跡
川向遺跡
向平遺跡
白岩口留番所跡
北上平遺跡
南上平遺跡
阿久戸遺跡
瀧ノ入遺跡
李平遺跡
上ノ平遺跡
柏木原遺跡
柏木原Ｂ遺跡
柏木山遺跡
鳥居戸遺跡
白岩
半道田遺跡
水門口留番所跡
牧野
和貢
水門
0
1km
(1/25,000)

図31　下郷町の遺跡（１）

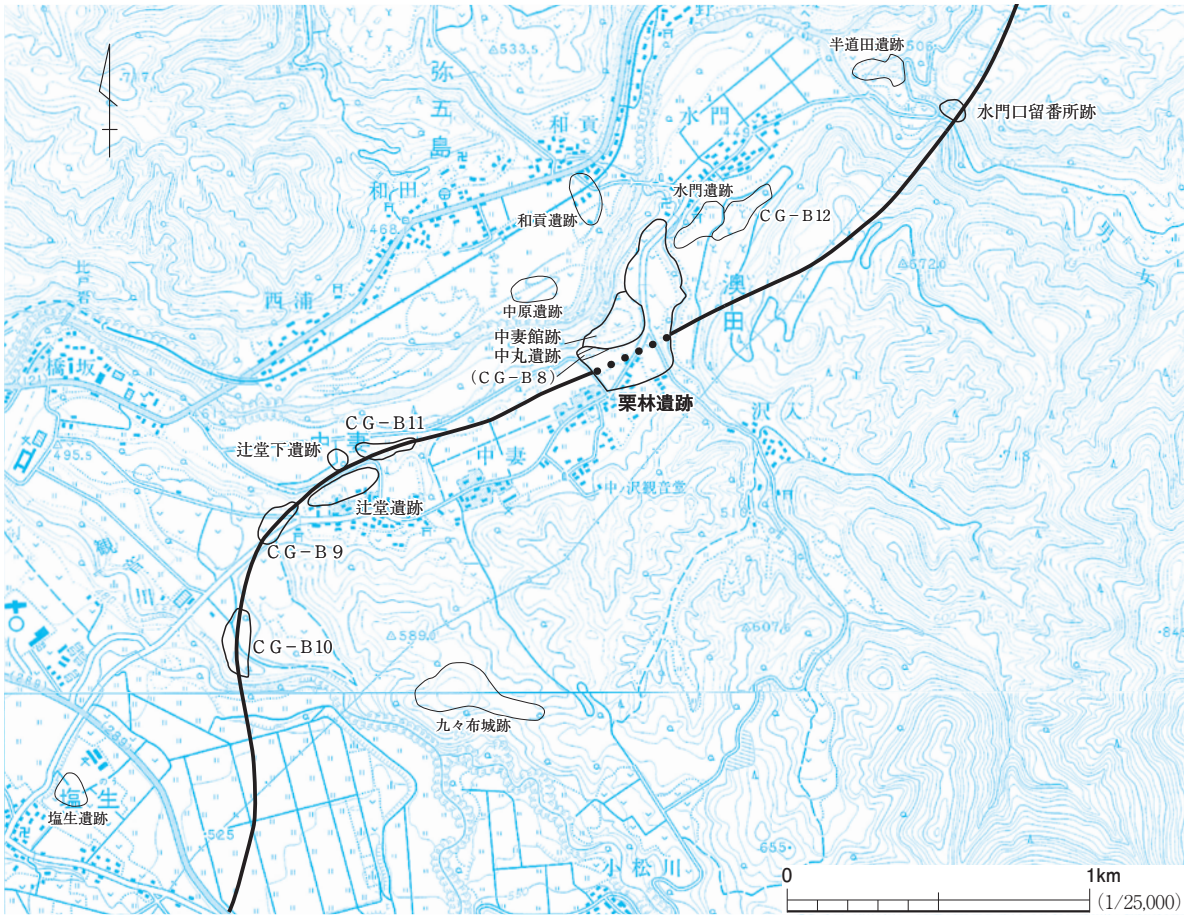


図32　下郷町の遺跡（２）

表26　下郷町の遺跡

No.	遺　跡　名	遺跡工区内面　　積	平成 24 年度調査		未試掘面積	平成 24 年度検出遺構・出土遺物	
			調査対象面積	保 存 面 積		検 出 遺 構	出 土 遺 物
1	栗林遺跡	10,200㎡	8,200㎡	5,000㎡	2,000㎡	住居跡，土坑，小穴	縄文土器，石器
	下郷町　計	10,200㎡	8,200㎡	5,000㎡	2,000㎡		

び遺跡推定地を確認した（『福島県内遺跡分布調査報告13・14』）。平成24年度の試掘調査は，下郷町内の栗林遺跡１箇所を対象に実施した。

１．栗林（くりばやし）遺跡

所　在　地　下郷町中妻字横向・栗林・和田前

調査対象面積　8,200㎡　**トレンチ数**　27本

保 存 面 積　5,000㎡

調 査 期 間　平成24年11月５日～11月16日

検 出 遺 構　竪穴住居跡，土坑，小穴

出 土 遺 物　縄文土器，石器

18　調査前風景（東から）

［概　　要］　栗林遺跡は文化年間に編纂された『新編会津風土記』にも記載のある古くから知られた遺跡である。平成12年には下郷町教育委員会が調査主体となり，町道改良工事の伴う試掘調査及び本発掘調査が行われている（『栗林遺跡発掘調査報告』）。

本遺跡は，阿賀川右岸の段丘崖とその支流に挟まれた標高470～480ｍのなだらかな段丘面上に立地する。現況は宅地・畑地・水田である。

平成24年度の調査は，工区内8,200㎡を対象に27本のトレンチを設定した。県道高陟・田島線を境に北側の調査区（１～11Ｔ）では，表土が10～30㎝と薄く，その下に縄文土器が出土する褐色土（Ⅱ層），黒褐色土（Ⅲ層），暗褐色土（Ⅳ層），黒褐色土（Ｖａ層）が堆積している。Ⅲ・Ｖａ・Ⅵ層の各層上面で遺構が検出され，にぶい黄褐色土のⅥ層が基盤層と考えられる。

県道南側の調査区北半（21～27Ｔ）は，表土下にⅢ層・Ⅳ層が層厚30～40㎝で堆積し，その直下はⅥ層である。調査区南端の水田部分（12～20Ｔ）は，表土直下に青灰色粘質土（Ⅷｂ層）が広がり，遺物包含層は認められなかった。

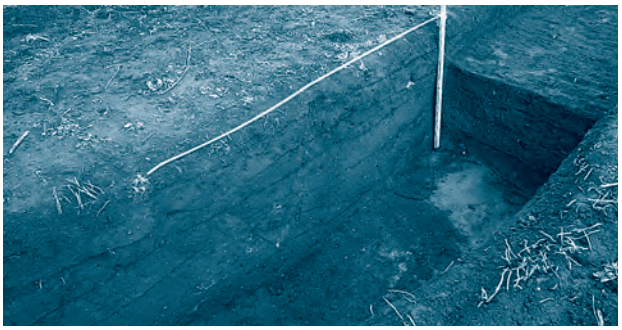
［遺構・遺物］　調査区北半（１～11Ｔ）では，１～５・９Ｔにおいて土坑及び小穴が多数確認された。遺構のおもな検出面は，Ⅲ層及びⅥ層上面である。８ＴのⅢ層上面では，縄文時代中期末葉とみられる埋設土器も確認されている。９ＴのⅥ層上面では竪穴住居跡が検出され，Ｖａ層上面から掘り込まれた小穴も確認されている。調査区南半の畑地（21～27Ｔ）では，21・23・26・27ＴのⅥ層上面から掘り込まれた土坑・小穴を確認した。調査区南端の水田部分12～20Ｔでは，遺構は確認されなかった。

遺物は，１～11ＴのⅠ・Ⅱ層から多量に出土し，Ⅲ～Ｖａ層では比較的少くなる。図35～40におもな出土遺物を示した。図35－１は縄文時代早期中葉，田戸下層式の深鉢とみられる。胎土に繊維混和痕が認められる同図２・３は前期前葉，４・５は前期後葉，６は前期末葉の縄文土器であろう。

図35－７～図36－１は縄圧痕文や交互刺突文，有節沈線による施文が特徴的な土器群で，大木７ｂ式に比定される。図35－22は人面あるい

表27　栗林遺跡トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構 種類（時代）	検出遺構 確認面までの深さ	検出遺構 遺構内掘込み	出土遺物
１Ｔ	土坑，小穴	40cm		縄文土器，石器
２Ｔ	土坑（縄文），小穴	40cm	○	縄文土器，石器
３Ｔ	土坑，小穴	30cm		縄文土器，石器
４Ｔ	土坑，小穴	40cm		縄文土器，石器
５Ｔ	土坑（縄文），小穴	20cm		縄文土器
６Ｔ				縄文土器，石器
７Ｔ				縄文土器，石器
８Ｔ				縄文土器，石器
９Ｔ	住居跡（縄文），土坑（縄文），小穴	80cm	○	縄文土器，石器
10Ｔ				縄文土器，石器
11Ｔ				縄文土器，石器
21Ｔ	土坑，小穴	50cm		縄文土器，須恵器
22Ｔ				縄文土器
23Ｔ	土坑	50cm		
24Ｔ				縄文土器，土師器
26Ｔ	土坑	35cm		縄文土器
27Ｔ	土坑	60cm		縄文土器



19　９号トレンチ土層断面（南から）

20　９号トレンチ遺構検出状況（南東から）

21　８号トレンチ埋設土器出土状況（北から）

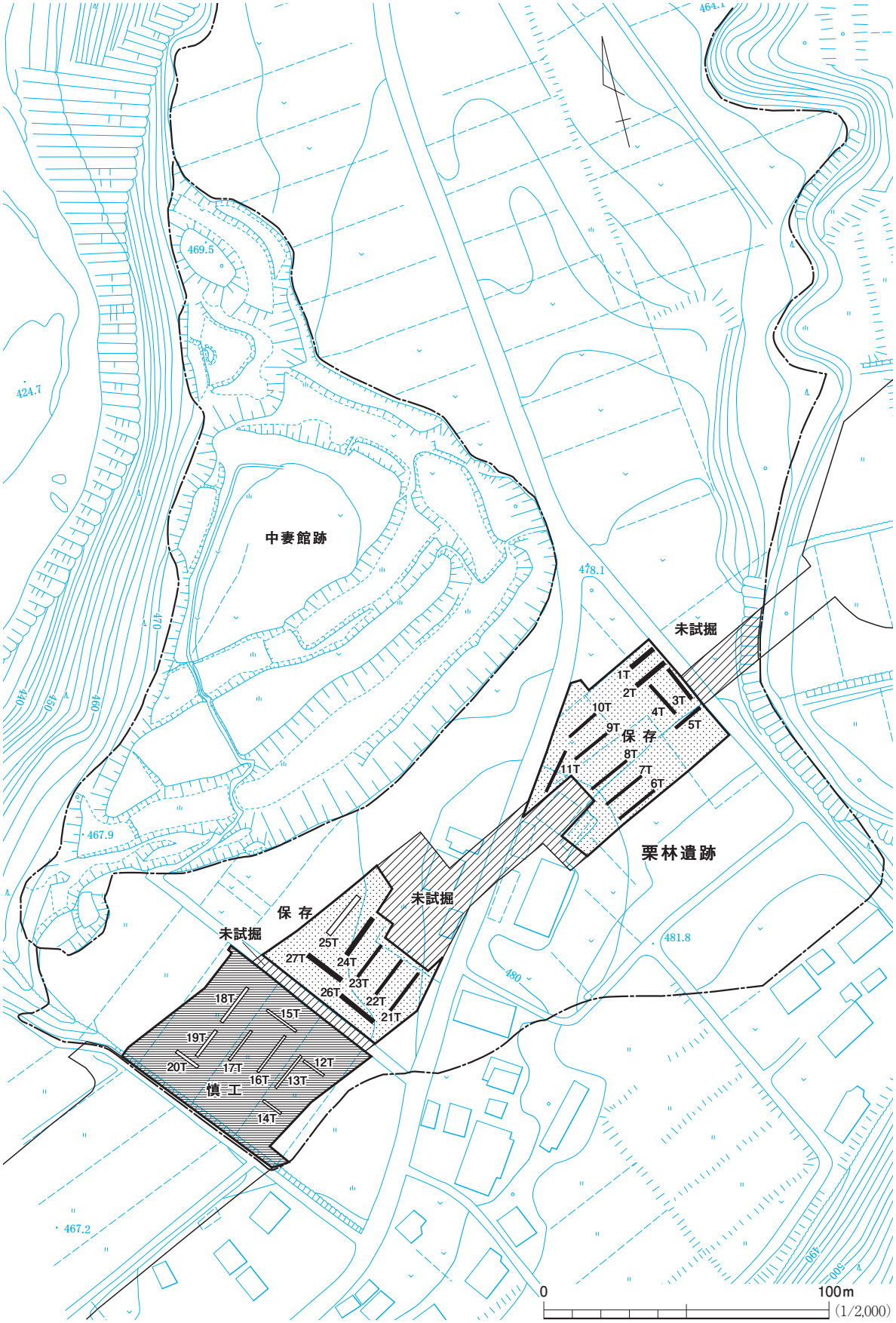
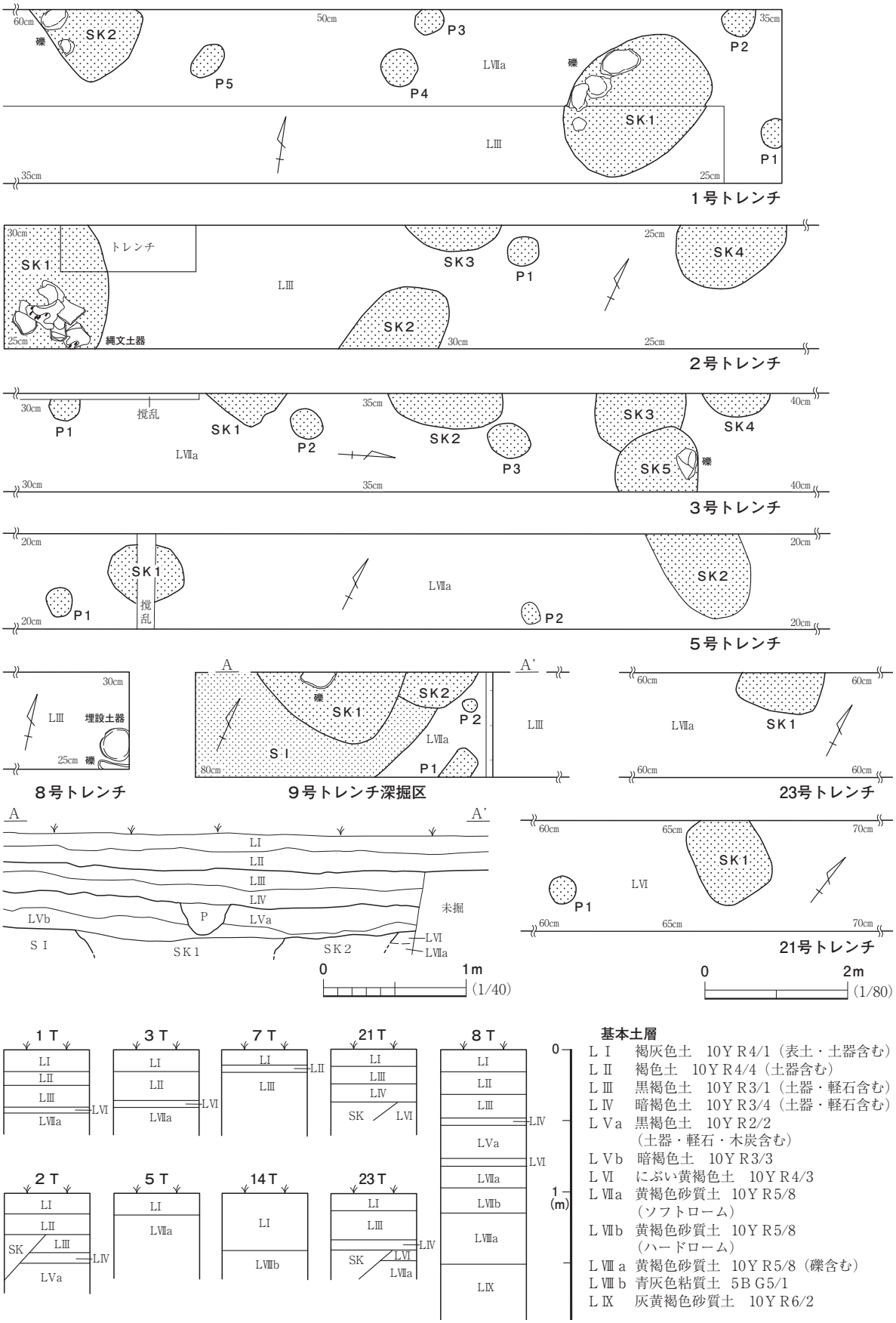


図33　栗林遺跡トレンチ配置図



基本土層

- ＬⅠ　褐灰色土　10ＹＲ4/1（表土・土器含む）
- ＬⅡ　褐色土　10ＹＲ4/4（土器含む）
- ＬⅢ　黒褐色土　10ＹＲ3/1（土器・軽石含む）
- ＬⅣ　暗褐色土　10ＹＲ3/4（土器・軽石含む）
- ＬＶａ　黒褐色土　10ＹＲ2/2（土器・軽石・木炭含む）
- ＬＶｂ　暗褐色土　10ＹＲ3/3
- ＬⅥ　にぶい黄褐色土　10ＹＲ4/3
- ＬⅦａ　黄褐色砂質土　10ＹＲ5/8（ソフトローム）
- ＬⅦｂ　黄褐色砂質土　10ＹＲ5/8（ハードローム）
- ＬⅧａ　黄褐色砂質土　10ＹＲ5/8（礫含む）
- ＬⅧｂ　青灰色粘質土　5Ｂ G5/1
- ＬⅨ　灰黄褐色砂質土　10ＹＲ6/2

図34　栗林遺跡検出遺構・土層柱状図

図35　栗林遺跡出土遺物（１）

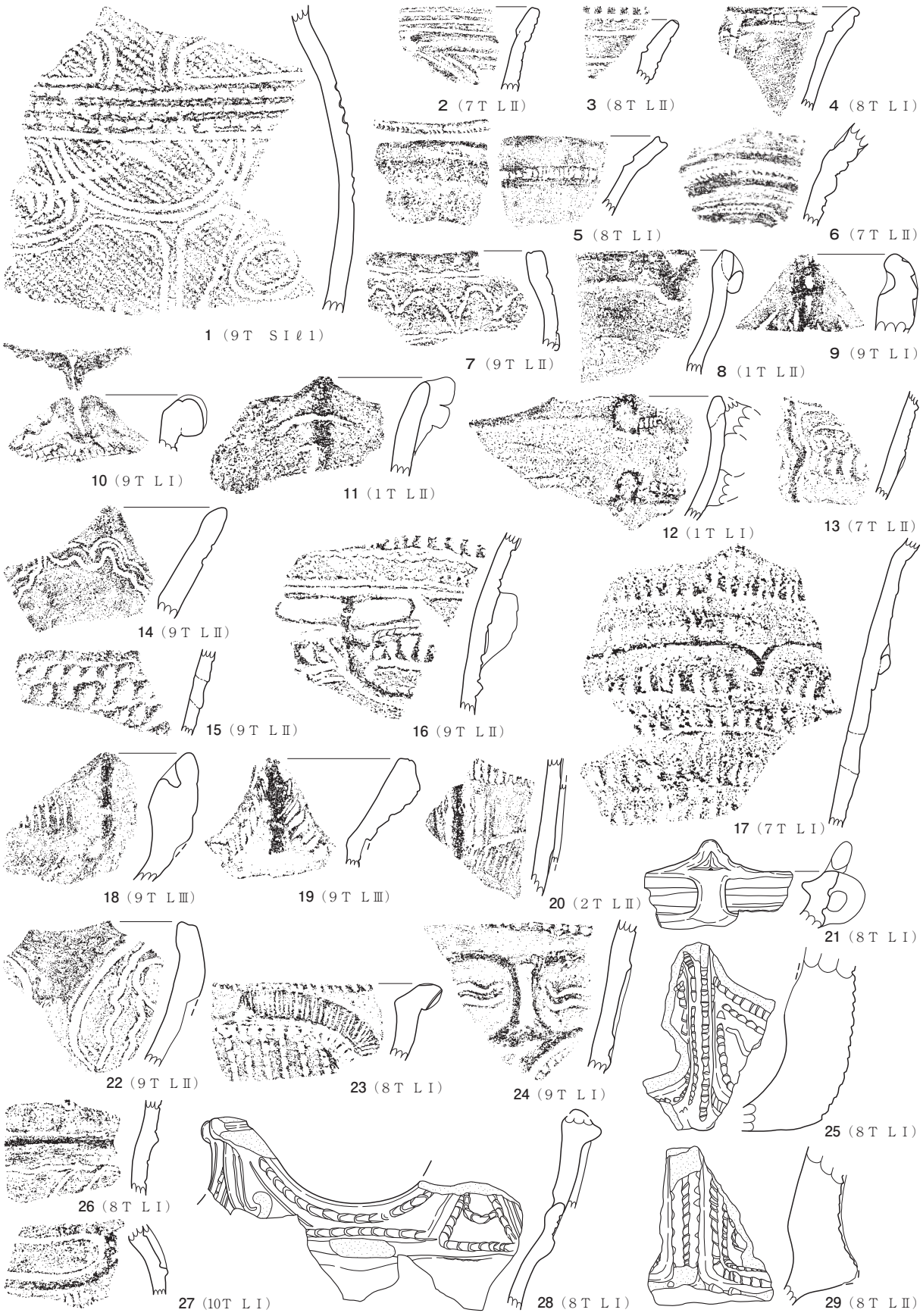


図36　栗林遺跡出土遺物（2）

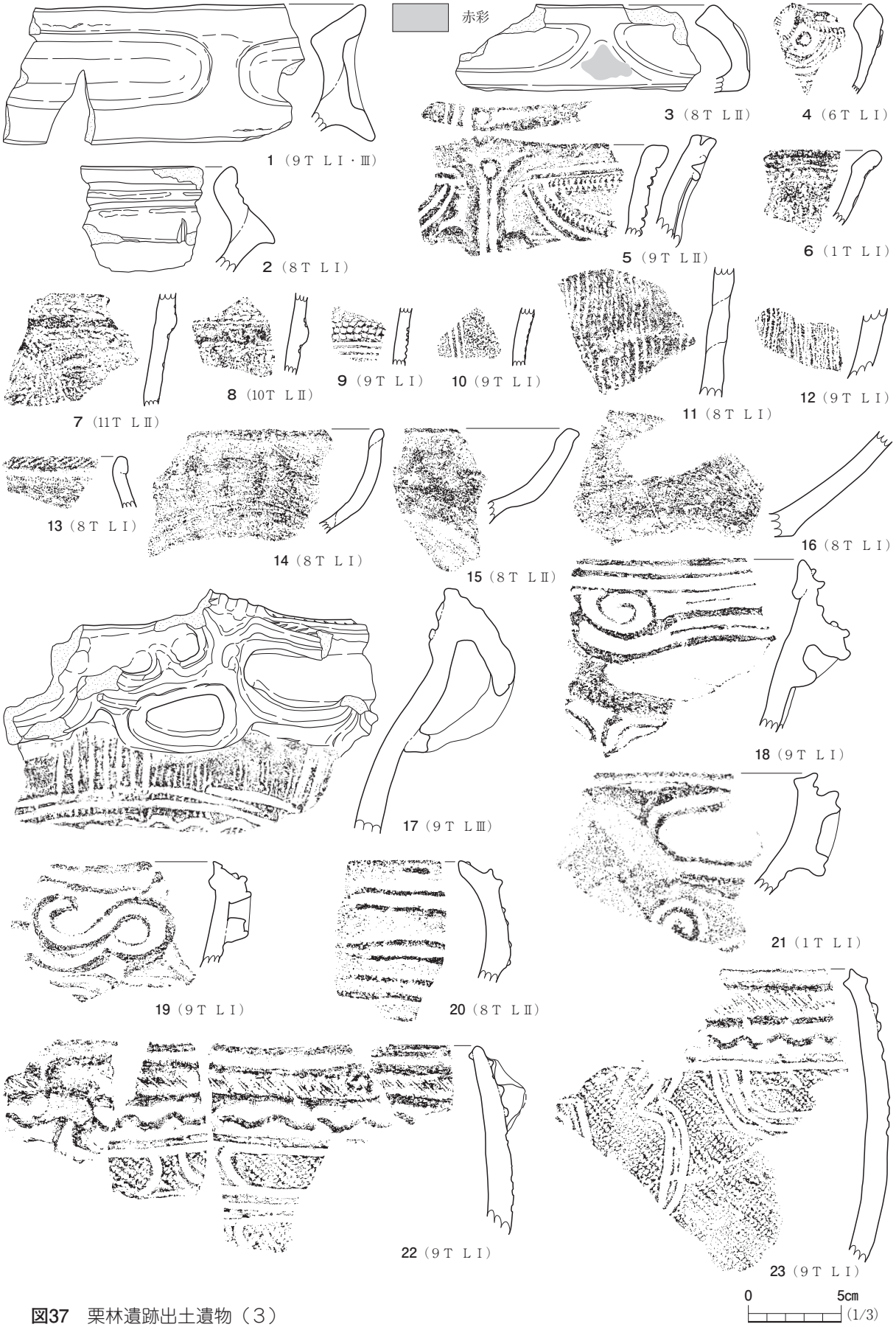


図37　栗林遺跡出土遺物（３）

図38　栗林遺跡出土遺物（4）

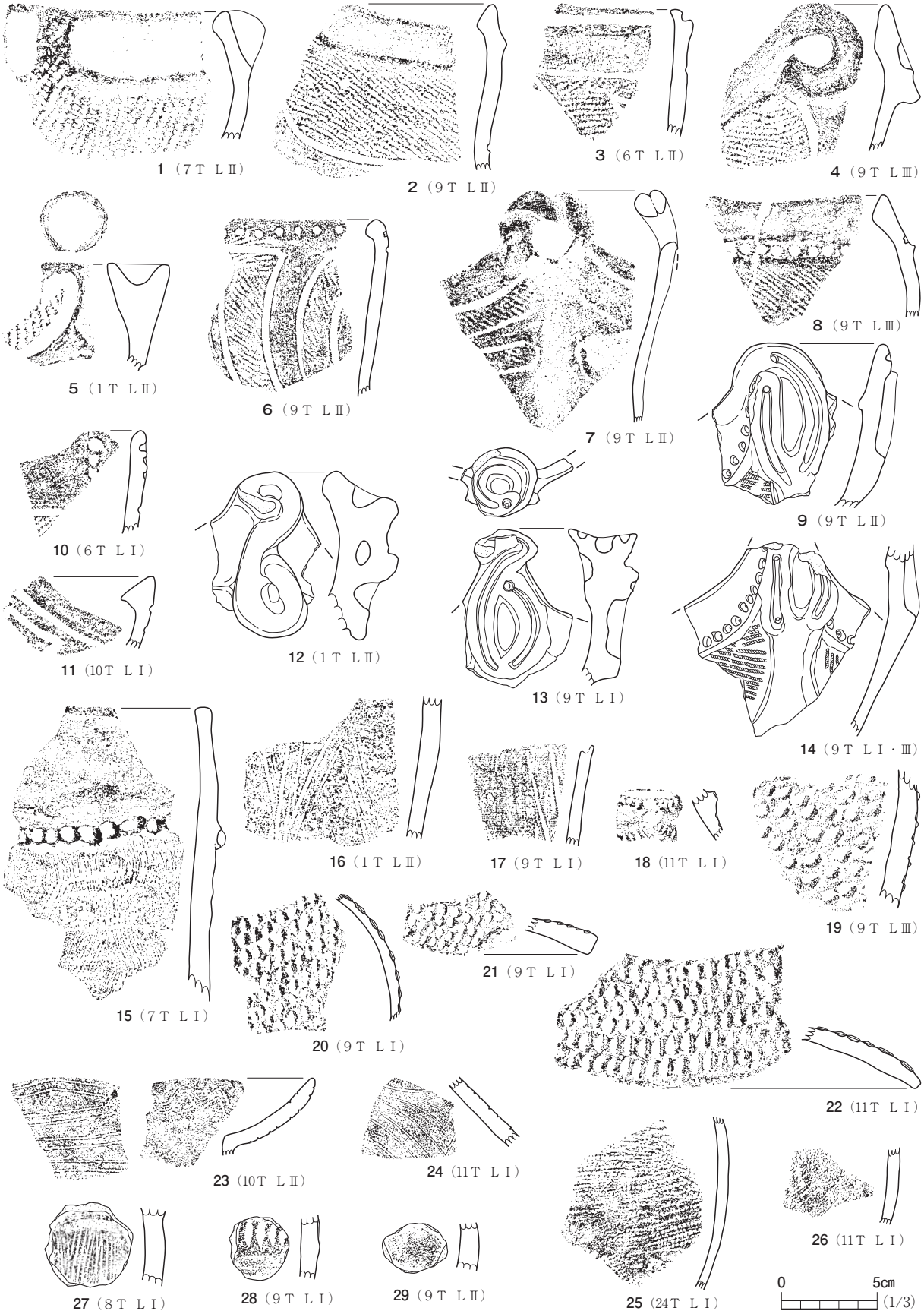


図39　栗林遺跡出土遺物（５）

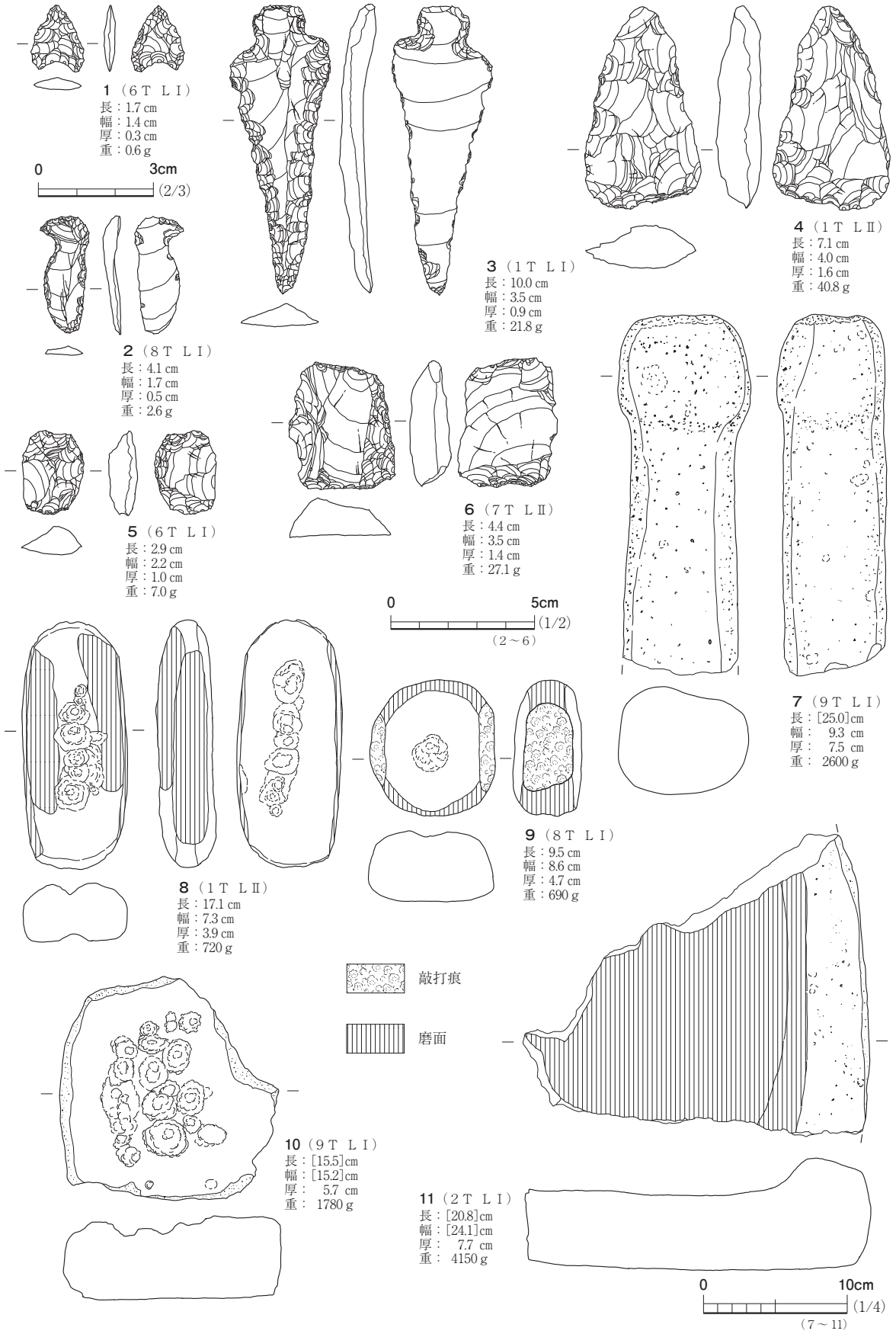


図40　栗林遺跡出土遺物（6）

は獣面を表現したとみられる突起である。同図23は，鶏頭冠突起が付く精緻な作りの土器である。図36－２～29は五領ヶ台～阿玉台式の深鉢形土器と考えられる。有節沈線や13・17～20にみられる縦長の刺突が特徴的である。15・17の体部破片は，輪積み痕を残して文様意匠としている。図37－１～３は，阿玉台式の浅鉢であろう。体部から口縁部にかけて「く」の字に内折する器形とみられる。３の外面にはベンガラが付着しているのが確認された。同図４～16は新崎式や円筒式系土器，粗製土器，無文の鉢形土器などである。図37－17～図38－７は大木８ａ式期の土器であろう。図38－５は馬高系の深鉢とみられる。

図38－８～図39－１は大木９・10式期から後期最初頭にかけての土器である。図39－２～図39－17は称名寺式・堀之内式の土器と当該期の粗製土器と考えている。同図18～22は三十稲場式の深鉢及び蓋とみられる。図39－23～26は弥生土器である。このうち細い平行沈線により文様が描かれる23・24は，川原町口式の壺形土器とみられる。同図27～29は縄文土器を加工した土製円盤である。

図40には石器を一括した。１は凹基の石鏃，同図２・３は石匙である。４は打製石斧，５・６は掻器とみられる。７は石棒の先端である。８の表裏面には敲打による窪みが並び，両側縁には磨面が確認できる。９は全側縁に敲打痕または擦痕が認められる。10は凹石で軟質な石を利用している。11は石皿の破片である。その他，図示できなかったが土師器，須恵器等が少量出土している。

まとめると，遺物はⅠ・Ⅱ層から多量に出土する。Ⅲ層上面が縄文時代中期後葉～後期前葉の遺構検出面，Ⅴａ・Ⅵ層上面が同中期前葉～中葉の遺構検出面と考えられる。調査区北半では遺構の密度が濃く，縄文時代中期前葉～後期前葉の大規模な集落跡とみられる。調査区南半の畑地（21～27Ｔ）は，北半に比べ遺構・遺物が希薄である。調査区南端の水田部分（12～20Ｔ）からは，遺構・遺物とも確認できなかった。

［ま　と　め］　試掘調査の結果，遺構・遺物が確認された県道高陟・田島線を挟んだ調査区北半を中心とした5,000㎡については，保存の必要がある。それ以外の調査区南端の水田部分3,200㎡については保存対象外とするが，工事などの実施にあたっては慎重に行う必要がある。県道高陟・田島線と周辺の道路及び宅地部分2,000㎡は未試掘である。

第６節　西坂才・栗林遺跡の火山灰分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

１.西坂才遺跡（ＡＷ－Ｂ５）

（１）はじめに

会津若松市に所在する西坂才遺跡は，会津盆地中部を流れる阿賀川支流の溷川左岸に広がる完新世に形成された低平な段丘上に位置する。この段丘は，山元ほか（2006）により最低位Ⅰ段丘とされている。最低位段丘は，約5,400年前に会津盆地に堆積した沼沢湖火砕物起源のラハール（火山砕屑物からなる泥流）堆積物を削り込んで形成されたと記載されていることから，その形成年代は，古くとも5,400年前以降ということになる。発掘調査では，表層の暗褐色土層から古代の掘立柱建物跡などが検出されている。

本報告では，調査区内で地山とされる灰黄褐色土の上位に堆積する黒褐色土層におけるテフラの産状を調べ，テフラが検出された場合にはその特性を調べることにより，既知のテフラとの対比を行う。これらの対比結果から黒褐色土層の形成年代に関わる資料を作成する。

表28　西坂才遺跡採取土壌のテフラ検出結果

試料№	トレンチ	採取層位	形状	スコリア	火山ガラス		軽石			備　考
				量	量	色調・形態	量	色調・発泡度	最大粒径	
3	17T	LⅠb	土壌	−	(+)	cl·pm	+	W·g,W·sg(ho)	2.5	Nm-N
4	17T	LⅡa	土壌	−	(+)	cl·pm	++	W·g,W·sg(ho)	3.0	Nm-N
5	17T	LⅡb	土壌	−	(+)	cl·pm	++	W·g,W·sg(ho)	2.0	Nm-N
6	17T	LⅢ	土壌	−	+	cl·pm>cl·bw,br·bw	+	W·g,W·sg(ho)	2.0	Nm-N

凡例　−：含まれない．(+): きわめて微量．＋：微量．＋＋：少量．＋＋＋：中量．＋＋＋＋：多量．
cl: 無色透明．br: 褐色．bw: バブル型．pm: 軽石型．Ho: 角閃石．
W: 白色．g: 良好．sg: やや良好．sb: やや不良．b: 不良．最大粒径は mm.

（2）試　　料

試料は，17T で作成された土層断面より採取された4点の土壌試料である。№3～6までの試料名が付されている。各試料は，順にＬⅠb，ＬⅡa，ＬⅡb，ＬⅢの各層よりそれぞれ採取されている。発掘調査所見により，ＬⅠbは水田の床土とされている暗褐色粘質土，ＬⅡaはその直下の軽石の混じる暗褐色粘質土，ＬⅡbはその下位の黒褐色粘質土とされており，その下位のＬⅢは地山とされている灰黄褐色粘質土である。

なお，ＬⅡaを掘り込んで古代(9世紀)とされる掘立柱建物跡の柱穴が検出されている。

表29　西坂才遺跡採取土壌の火山ガラス比分析結果

試料№	バブル型火山ガラス	中間型火山ガラス	軽石型火山ガラス	その他	合計
3	1	6	19	224	250
4	0	1	16	233	250
5	2	1	15	232	250
6	4	2	9	235	250

（3）分析方法

テフラの検出同定

試料約20ｇを蒸発皿に取り，水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し，上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後，実体顕微鏡下にて観察する。観察は，テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし，その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。

火山ガラスは，その形態によりバブル型・中間型・軽石型の3タイプに分類した。各型の形態は，バブル型は薄手平板状，中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破砕片状などの塊状ガラスであり，軽石型は小気泡を非常に多く持った塊状および気泡の長く伸びた繊維束状のものとする。

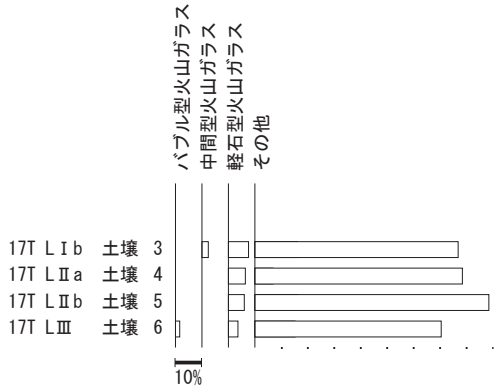
火山ガラス比・重軽鉱物分析，屈折率測定

試料約40g に水を加え(軽石は粉砕してから)，超音波洗浄装置により分散，250メッシュの分析篩を用いて水洗し，粒径1/16㎜以下の粒子を除去する。乾燥の後，篩別し，得られた粒径1/4㎜－1/8㎜の砂分をポリタングステン酸ナトリウム(比重約2.96)により重液分離する。得られた軽鉱物分について，火山ガラスとそれ以外の粒子を250粒に達するまで偏光顕微鏡下にて同定することにより，火山ガラス比を算出する。その際には，火山ガラスの形態別組成も求める。各型の形態は，上述したテフラの検出と同様である。重軽鉱物組成は，重液分離により得られた重鉱物と軽鉱物をそれぞれ250粒に達するまで偏光顕微鏡下にて同定する。重鉱物の同定の際，不透明な粒については，斜め上方からの落射光下で黒色金属光沢を呈するもののみを「不透明鉱物」とした。「不透明鉱物」以外の不透明粒および変質等で同定の不可能な粒子は，「その他」とした。「その他」は軽鉱物中においても同様である。また，火山ガラスは，便宜上軽鉱物組成に入れる。

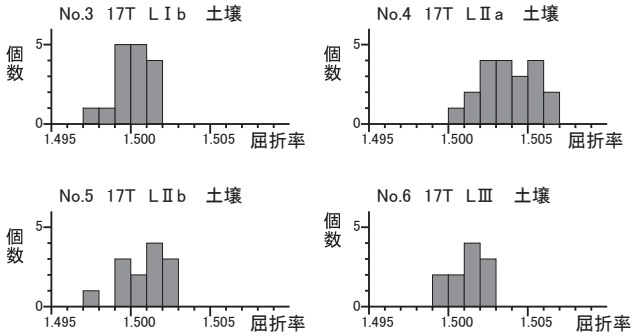
なお火山ガラスについては，その屈折率を測定することにより，テフラを特定するための指標とする。屈折率の測定は，古澤(1995)の MAIOT を使用した温度変化法を用いた。

表30　西坂才遺跡採取土壌の重軽鉱物分析結果

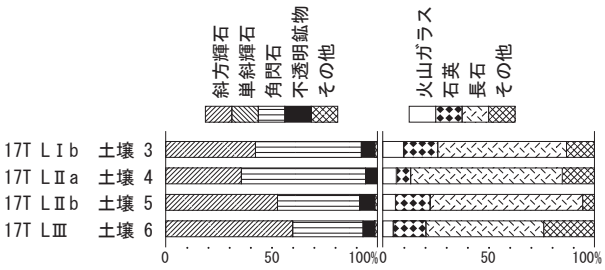
試料No.	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	緑レン石	不透明鉱物	その他	合計	火山ガラス	石英	長石	その他	合計
3	106	2	125	0	16	1	250	26	40	152	32	250
4	89	1	146	0	14	0	250	17	17	179	37	250
5	132	2	97	1	18	0	250	18	41	180	11	250
6	150	2	83	1	14	0	250	15	38	139	58	250



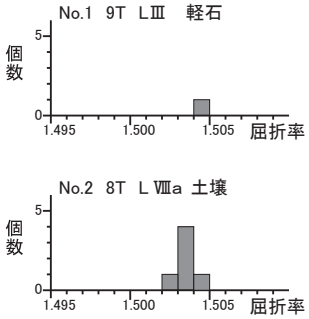
１．西坂才遺跡試料の火山ガラス比



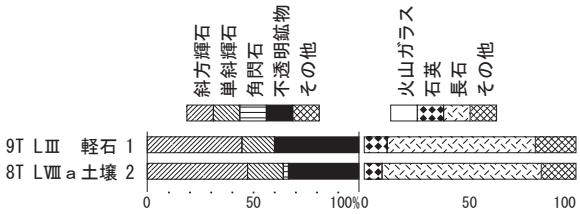
３．西坂才遺跡試料の火山ガラスの屈折率



２．西坂才遺跡試料の重軽鉱物組成

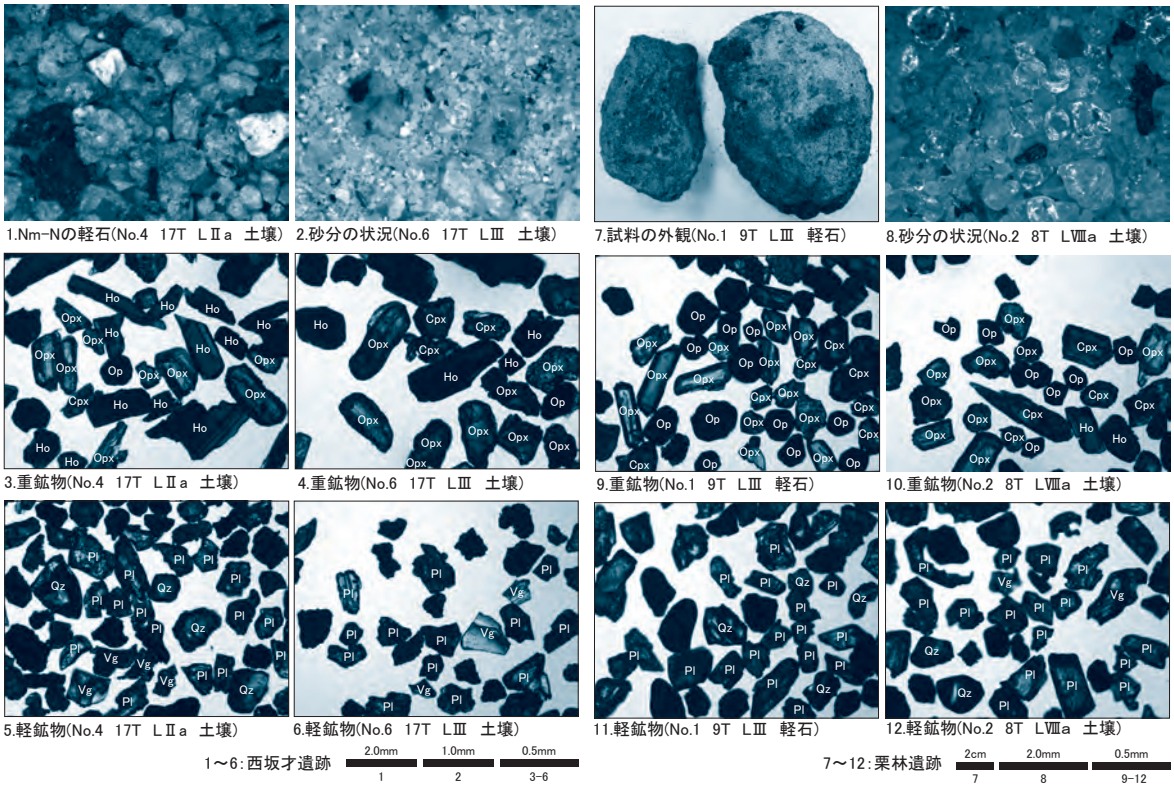


５．栗林遺跡試料の
火山ガラスの屈折率



４．栗林遺跡試料の重軽鉱物組成

図41　火山灰分析結果



22　試料写真

（4）結　　果

テフラの検出同定

結果を表28に示す。スコリアはいずれの試料からも検出されなかった。火山ガラスは，試料№3～5に極めて微量，試料№6には微量認められた。試料№3～5の火山ガラスは，無色透明の軽石型からなるが，試料№6の火山ガラスには，無色透明の軽石型のほかに，微量ではあるが，無色透明のバブル型や褐色を帯びたバブル型の火山ガラスが認められた。

軽石は，試料№4と5に少量，試料№3と6には微量認められた。各試料の軽石の最大径は2.0～3.0㎜程度で若干異なっているが，色調や発泡度などの特徴は，4点の試料ともに同様である。軽石の色調は白色であり，発泡の良好なものとやや良好なものとが混在する。軽石の中には，角閃石の斑晶を包有するものも認められている。

火山ガラス比・重軽鉱物分析，屈折率測定

火山ガラス比分析の結果を表29，図41－1に示す。4点の試料はいずれも少量の軽石型火山ガラスを含み，微量のバブル型と中間型を伴っている。詳細にみれば，試料№6では，上位の3点に比べて，バブル型の量比が若干高くなっていることも示唆される。

重軽鉱物分析の結果を表30，図41－2に示す。重鉱物組成は，4点の試料はともに斜方輝石と角閃石を主体とし，少量の不透明鉱物を含むという組成を示す。それらの中で，試料№3と試料№4では，角閃石の方が斜方輝石より若干多く，試料№5と試料№6とでは，斜方輝石の方が角閃石よりも多い組成を示す。軽鉱物組成も，4点の試料間では大きな違いはなく，いずれも長石が非常に多く，少量の石英と少量の火山ガラ

スを含む。

火山ガラスの屈折率を図41－３に示す。試料№3はn1.497－1.501，試料№4はn1.500－1.506，試料№5はn1.497－1.502，試料№6はn1.499－1.502というレンジをそれぞれ示す。レンジの上限と下限は試料によって異なるが，モードはいずれもn1.501前後にあるとみてよい。

（５）考　　察

4点の試料から検出された火山ガラスおよび軽石は，ほぼ共通した特性を示すことから，同一のテフラに由来すると考えられる。前述したように，西坂才遺跡の立地する最低位段丘は，沼沢湖火砕堆積物起源のラハールを削り込んで形成されたと考えられている。すなわち，段丘の地形面を構成する地質は沼沢湖火砕堆積物起源のラハールであるから，西坂才遺跡で地山とされたＬⅢは，ラハールに由来する砕屑物がさらに再堆積して形成された可能性がある。その上位に形成されたＬⅡｂ以上の土壌も，同堆積物に由来する砕屑物を多量に含んでいると考えられる。

沼沢湖火砕堆積物の記載は，山元ほか(2006)に詳しいが，本質物として単斜輝石含有斜方輝石普通角閃石デイサイト軽石と単斜輝石斜方輝石普通角閃石安山岩軽石を含むとされている。今回の分析により得られた各層の重鉱物組成は，この記載と一致している。また，町田・新井(2003)に記載された沼沢湖テフラの火山ガラスの屈折率であるn1.500－1.505と，各試料の火山ガラスの屈折率とはレンジの重複範囲が広い。これらのことから，各試料から検出された火山ガラスおよび軽石は，沼沢湖火砕堆積物に由来すると考えられる。

なお，会津盆地の完新世の堆積物中には，6世紀中葉に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP: 新井 ,1979; 早田 ,1989; 町田・新井 ,2003)が分布している。Hr-FPの軽石も白色を呈し，角閃石の斑晶を包有することが特徴とされているが，発泡度が不良であることで，今回検出された軽石とは区別される。

２.栗林遺跡

（１）はじめに

下郷町に所在する栗林遺跡は，西会津山地を流れる阿賀川上流域の右岸に形成された狭小な河岸段丘上に位置する。この河岸段丘は，山元(1999)により後期更新世に形成された低位Ⅱ段丘に区分されているが，その詳細な形成年代は不明である。

栗林遺跡の発掘調査では，段丘表層に形成された黒色土いわゆる黒ボク土層から，縄文時代中期から後期頃までの住居跡や土坑が検出され，それらに伴う土器などの遺物が多数出土している。本報告では，縄文時代の生活面が検出された層位から出土した径10cmを超える軽石について，その特性を調べることにより，由来を検証する。また，縄文時代の遺物包含層である黒ボク土層の下位に認められた黄褐色土いわゆるローム層を対象として，テフラの産状を調べ，その形成年代に関わる資料を得る。

（２）試　　料

試料は，№1とされた軽石と№2とされた土壌である。試料№1の軽石は，調査区の9Tの基本層序においてＬⅢとされた黒褐色土層より出土している。ＬⅢ上面は縄文時代中期後半頃から後期前半頃の生活面であると考えられている。軽石は，長径10cm程度であり，表面は風化して灰褐色を呈しているが，発泡している状況や斜長石や有色鉱物の斑晶が比較的多く包有されている状態などは観察できる。風化変質は比較的進

んでおり，手でも容易に割ることができる。

試料№2は，8TにおいてＬⅧａとされた黄褐色土いわゆるローム層から採取された土壌試料である。この層位では遺構・遺物は特に検出されていない。土壌試料の外観はにぶい黄褐色を呈する砂質シルトである。

表31　栗林遺跡採取土壌のテフラ検出結果

試料№	トレンチ	採取層位	形状	スコリア	火山ガラス		軽石	備　　考
				量	量	色調・形態	量	
2	8T	ＬⅧａ	土壌	－	(+)	cl･pm	－	高温型石英と斜長石の鉱物片を主体とする砂

凡例　－：含まれない．(+)：きわめて微量．＋：微量．＋＋：少量．＋＋＋：中量．＋＋＋＋：多量．
cl：無色透明．br：褐色．bw：バブル型．pm：軽石型．Ho：角閃石．

表32　栗林遺跡採取土壌の火山ガラス比分析結果

試料№	バブル型火山ガラス	中間型火山ガラス	軽石型火山ガラス	その他	合計
1	0	0	0	250	250
2	2	1	2	245	250

（３）分析方法

前項の（３）に準ずる。

（４）結　　果

テフラの検出同定

結果を表31に示す。対象とした試料№2からは，極めて微量の火山ガラスが検出されたのみであり，スコリアも軽石も認められなかった。火山ガラスは，無色透明の軽石型である。なお，処理後の砂分は，多量の高温型石英と斜長石の各鉱物片により構成され，他に斜方輝石や単斜輝石および角閃石などの有色鉱物片が少量混在する。

火山ガラス比・重軽鉱物分析，屈折率測定

火山ガラス比分析の結果を表32に示す。試料№1では，処理後の細砂分からは，火山ガラスを計数することはできなかった。試料№2では，極めて微量のバブル型，中間型，軽石型の各形態を示す火山ガラスが計数された。なお，試料№2の火山ガラス比は極めて低いためにグラフでは表示しない。

重軽鉱物分析の結果を表33，図41－４に示す。重鉱物組成は，試料№1，試料№2ともに斜方輝石が最も多く，次いで不透明鉱物を含み，少量の単斜輝石と微量の角閃石を含む。軽鉱物組成も，２点の試料はほぼ同様であり，長石が非常に多く，少量の石英を伴うという組成である。ただし，試料№2には極めて微量の火山ガラスも含まれている。火山ガラスの屈折率を図41－５に示す。試料№1は，上述した各分析において火山ガラスは計数されなかったが，処理後の残渣の精査により1片の火山ガラス片を抽出し，測定にかけた。n1.504という値が測定された。試料№2についても，抽出された火山ガラス片は極めて微量であり，レンジを特定するのに充分とは言えない。測定数は10片に満たないが，n1.502－n1.504の値が得られている。

（５）考　　察

試料№1の軽石の特性を得るために火山ガラス比分析と重軽鉱物分析を実施したが，火山ガラス比分析では有効なデータを得ることはできなかった。分析方法の項で述べたように，処理は軽石を粉砕したもので行ったが，軽石の主体を構成しているガラスはほとんどが粘土化していたために，処理後の砂分には火山ガラスとして残存しなかったと考えられる。このことは，試料が手でも容易に割れることとも整合する。一方，重軽鉱物組成のうち，特に重鉱物組成については，軽石の特性を示していると考えられる。その組成から，斜方輝石単斜輝石安山岩あるいは斜方輝石単斜輝石デイサイトなどの岩質が推定される。

表33　栗林遺跡採取土壌の重軽鉱物分析結果

試料№	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	緑レン石	不透明鉱物	その他	合計	火山ガラス	石英	長石	その他	合計
1	111	38	2	0	99	0	250	0	27	175	48	250
2	118	42	6	0	83	1	250	5	21	188	36	250

河岸段丘上という栗林遺跡の立地を考慮すれば，すでに離水して乾陸となり黒ボク土層が形成されているＬⅢの堆積時期に，試料№1のような大礫径の岩片が流されて段丘上に乗り上げるという状況は考え難いことから人為による持ち込みが考えられる。山元(1999)の地質記載からは，栗林遺跡の位置する段丘周辺の崖下には，前期更新世の火砕流堆積物や軽石火山礫凝灰岩の岩塊を含む後期更新世の岩屑なだれ堆積物などが広く分布している。試料№1の軽石は，おそらくこれら周辺の崖に露出する軽石に由来する可能性が高いと考えられる。現時点では，試料№1の軽石が由来する地質を特定することができないが，今後，栗林遺跡周辺の露頭調査等により，類似の軽石を調べるなどの検討が必要と考えられる。

試料№2からは，テフラに由来する砕屑物として極めて微量の火山ガラスが検出されたが，この産状は，特にテフラの降灰があったことを示すものではない。試料№2の採取されたＬⅧａは，段丘離水後に乾陸上に形成された風成塵を母材とする土壌いわゆるロームであり，検出された火山ガラスも風成塵を構成する砕屑物として混在していたと考えられる。

なお，ＬⅧａは，段丘が後期更新世とされていることとその層相から後期更新世に形成されたと考えられるが，町田・新井(2003)などを参照すると，栗林遺跡の位置する阿賀川上流域では，後期更新世における火山ガラス質テフラの降下堆積はそれほど多くはない。可能性のあるものとしては約5万年前より古いとされている沼沢金山テフラ(Nm-Kn: 鈴木・早田 ,1994)かあるいは姶良 Tn 火山灰(AT: 町田・新井 ,1976)が考えられる。後者は，無色透明のバブル型を主体とし，その屈折率も n1.499 − 1.500 に集中するという明瞭な特性があることから，試料№2で検出された火山ガラスの由来するテフラである可能性は低い。前者のテフラは，火山ガラスの形態は軽石型であり，屈折率は n1.499 − 1.502 を示す。試料№2の火山ガラスは，Nm-Kn とは若干屈折率のレンジがずれるが，この程度の違いであれば，Nm-Kn に由来する可能性はあると考えられる。ただし，その場合でも上述したように，試料№2の火山ガラスは降灰層準を示すものではないから，その層位の年代観は現時点では確かめることはできない。栗林遺跡の位置する段丘上のローム層の層序対比を検証するためには，上述した2枚の火山ガラス質テフラの降灰層準を，層位的に連続採取した試料の火山ガラス比分析を行うなどにより検出することが必要であると考えられる。

引用文献

新井房夫 1979 「関東地方北西部の縄文時代以降の指標テフラ層」『考古学ジャーナル』157

鈴木毅彦・早田　勉 1994 「奥会津沼沢火山から約５万年前に噴出した沼沢 - 金山テフラ」『第四紀研究』33

古澤　明 1995 「火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的な解析に基づくテフラの識別」『地質学雑誌』101

町田　洋・新井房夫 1976 「広域に分布する火山灰 − 姶良 Tn 火山灰の発見とその意義 − 」『科学』46

町田　洋・新井房夫 2003 『新編　火山灰アトラス』東京大学出版会 ,336p.

早田　勉 1989「六世紀における榛名火山の二回の噴火とその災害」『第四紀研究』27

山元孝広 1999『田島地域の地質 . 地域地質研究報告（５万分の１図幅)』地質調査所 ,85p.

山元孝広・吉岡敏和・牧野雅彦・住田達哉 2006『喜多方地域の地質 . 地域地質研究報告（５万分の１図幅)』産総研地質調査総合センター ,63p.

第３章　表　面　調　査

第１節　一般国道115号相馬福島道路建設予定地

一般国道115号相馬福島道路は，福島県相馬市を起点とし，伊達市を経由して伊達郡桑折町で東北自動車道へとアクセスする。将来的な計画では山形県米沢市・山形市を経由して秋田県横手市に至る東北中央自動車道の一部を成す高規格道路としての位置づけがなされている。

今回表面調査を実施したのは，一般国道115号相馬福島道路のうち，阿武隈東インターチェンジ（以下，ＩＣ）と阿武隈ＩＣに挟まれた区間の，相馬市玉野地区及び伊達市霊山町石田地区の約５km，270ha である。平成24年４月24～27日に実施した表面調査の結果，９箇所の遺跡推定地を確認した。なお，ＤＴ－Ｂ14については平成24年12月に一部試掘調査を行い，その結果川向遺跡として登録する。

表34　相馬福島道路（阿武隈東～阿武隈間）関連遺跡一覧

No.	遺跡名	遺跡番号	所在地	現況	時代	採取遺物	工区内面積	備考
1	ＳＭ－Ｂ⑮		相馬市東玉野字須場	山林			10,100㎡	新発見の遺跡推定地
2	ＳＭ－Ｂ⑯		相馬市東玉野字姥ヶ岩	山林			11,100㎡	『県内分９』ＳＭ－Ｂ④を包括する。
3	ＳＭ－Ｂ⑰		相馬市東玉野字須場	山林	平安	土師器	6,500㎡	新発見の遺跡推定地
4	ＳＭ－Ｂ⑱		相馬市東玉野字須場	山林			11,300㎡	新発見の遺跡推定地
5	ＳＭ－Ｂ⑲		相馬市東玉野字町裏	山林		鉄滓	22,800㎡	新発見の遺跡推定地
6	ＤＴ－Ｂ 14（川向遺跡）		伊達市霊山町石田字川向	荒地	縄文	縄文土器	9,200㎡	『県内分 17』ＤＴ－Ｂ 15 を包括する。Ｈ 24（850㎡）試掘実施。
7	ＤＴ－Ｂ 16		伊達市霊山町石田字川向	荒地			2,200㎡	新発見の遺跡推定地
8	ＤＴ－Ｂ 17		伊達市霊山町石田字川向	荒地	平安	土師器	2,400㎡	新発見の遺跡推定地
9	ＤＴ－Ｂ 18		伊達市霊山町石田字川向	荒地			7,900㎡	新発見の遺跡推定地
						工区内　計	83,500㎡	

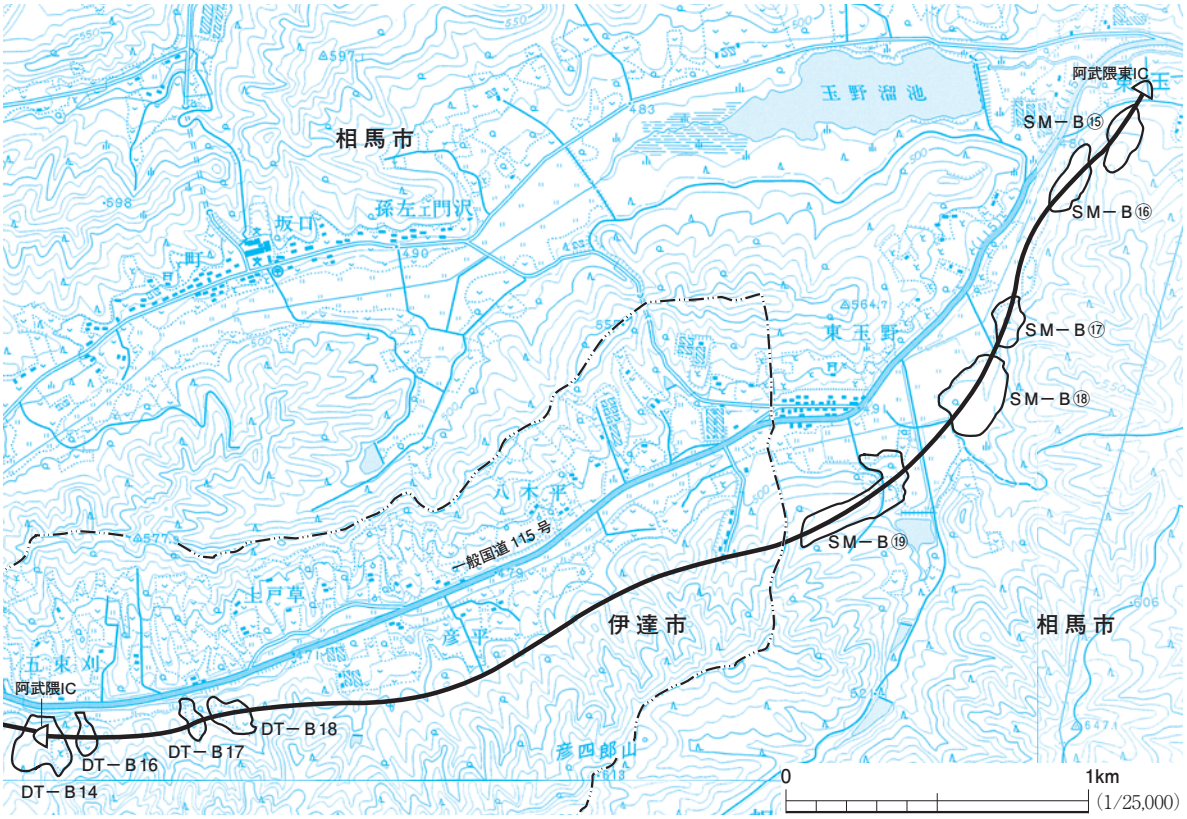


図42　相馬福島道路（阿武隈東ＩＣ～阿武隈ＩＣ間）予定路線と遺跡推定地

第２節　地域高規格道路（会津縦貫北道路）建設予定地

地域高規格道路(会津縦貫北道路)建設予定地内の表面調査を実施した。会津縦貫北道路は，喜多方市から河沼郡湯川村を経て，会津若松市に至る総延長13.1kmの地域高規格道路で，北は東北中央自動車道の米沢インターチェンジ(以下，ＩＣ)と，南は栃木西部・会津南道路(南会津町～栃木県日光市)と将来的に結ばれる計画となっている。

今回，表面調査を実施したのは，会津若松ＩＣ付近の約２km，２haである。平成24年10月10日の表面調査の結果，２箇所の遺跡推定地を確認した。なお，平成24年11・12月に，ＡＷ－Ｂ４の2,100㎡・ＡＷ－Ｂ５の5,800㎡について試掘調査を行い，ＡＷ－Ｂ５は西坂才遺跡として登録する。

表35　会津縦貫北道路関連遺跡一覧

No.	遺跡名	遺跡番号	所在地	現況	時代	採取遺物	工区内面積	備考
1	ＡＷ－Ｂ４		会津若松市高野町中沼字沼木	水田	平安	土師器・須恵器	9,600 ㎡	Ｈ24（2,100㎡）試掘実施。
2	ＡＷ－Ｂ５（西坂才遺跡）		高野町中沼字西坂才	水田ほか	平安	土師器・須恵器	11,600 ㎡	Ｈ24（5,800㎡）試掘実施。
						工区内　計	21,200㎡	

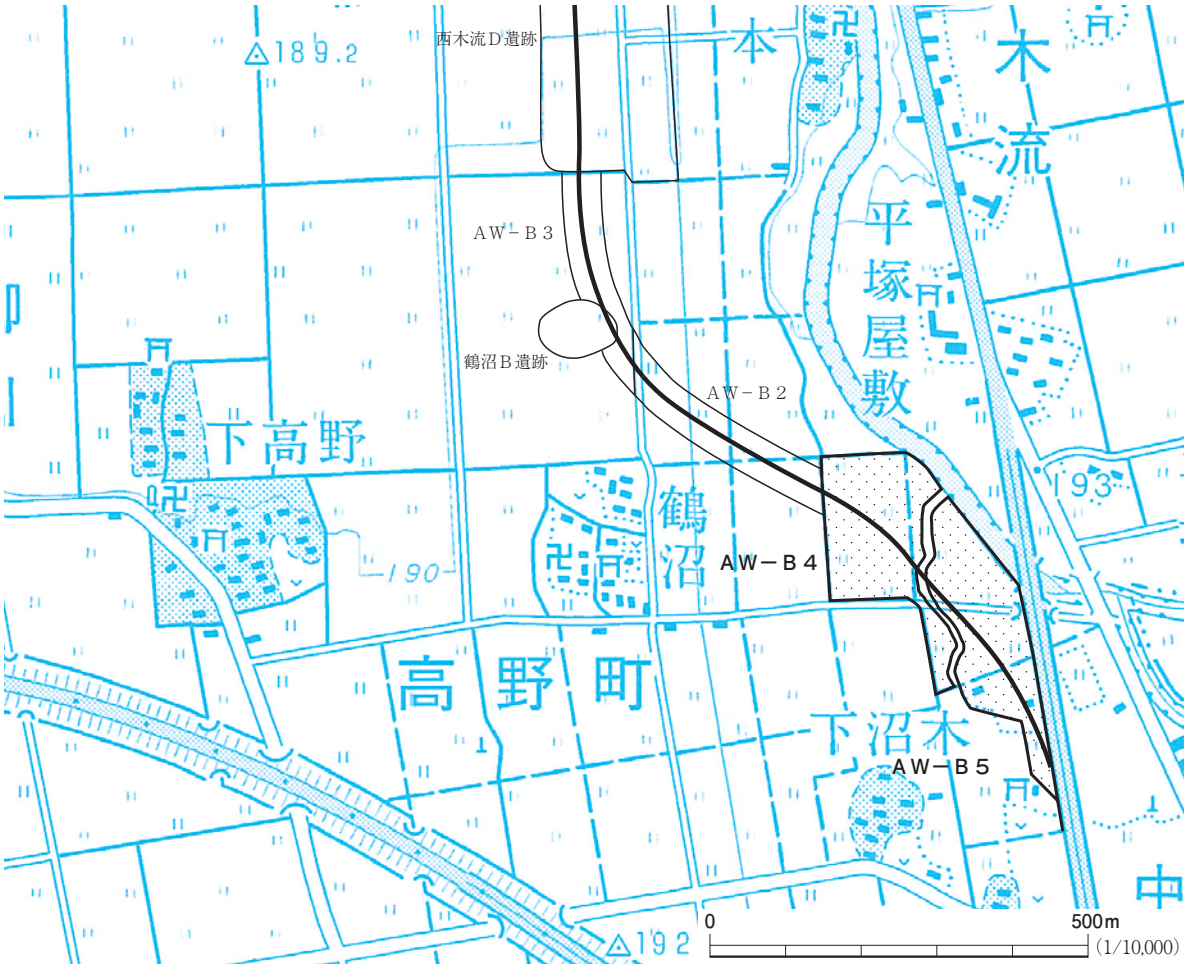


図43　会津縦貫北道路予定路線と遺跡推定地

第４章　総　　括

平成24年度の福島県内遺跡分布調査は，試掘調査５事業（７市町：11遺跡，11遺跡推定地の計22箇所：111,200㎡），及び表面調査２事業（３市：272ha）を平成24年４月中旬から平成25年２月中旬までの期間で実施した。調査の結果，試掘調査では，17箇所（57,800㎡：52.0％）が要保存対象として確定し，表面調査では11箇所の遺跡推定地を確認した。

なお，平成24年度の試掘調査で保存範囲が確定した常磐自動車道関連の南狼沢Ａ遺跡の一部，赤柴遺跡，赤柴前遺跡（ＳＴ－Ｂ⑮を含む）については試掘調査終了後，発掘調査を実施している。

以下，各事業の平成24年度までの試掘調査成果を本章表36～42にまとめたが，各表・本文中で掲示している調査対象面積，保存面積，未試掘面積などは，今後の工事計画変更などにより，変動する可能性がある。

１．常磐自動車道建設予定地

常磐自動車道関連の試掘調査は，平成21年度までにいわき工区（浪江町・双葉町・大熊町）と，相馬工区の南相馬市･相馬市分がほぼ終了している。平成24年度の試掘調査は，相馬工区の相馬市内の遺跡１箇所と，新地町の遺跡及び遺跡推定地７箇所の計８箇所を対象に実施した。

［相　馬　市］　相馬市の試掘調査は平成14年度から実施し，平成21年度までに24箇所の遺跡及び遺跡推定地で試掘調査が終了している（『福島県内遺跡分布調査報告17』）。平成24年度の試掘調査は，払川遺跡１箇所について実施した。払川遺跡の試掘調査は，平成20年度に12,700㎡を対象に実施され，そのうち800㎡が保存対象となり，平成22年度に本発掘調査が実施されている。平成24年度は，工事計画の変更により新たに工区となった300㎡を対象に試掘調査を実施した。調査の結果，新たに追加された保存面積はない。

［新　地　町］　新地町では，平成23年度までに20箇所の遺跡及び遺跡推定地で試掘調査が終了している。平成24年度の試掘調査は，７箇所の遺跡及び遺跡推定地について実施した。試掘対象面積は34,900㎡である。このうち，保存範囲が確定した遺跡及び遺跡推定地は，北から順に鈴山遺跡（6,200㎡：ＳＴ－Ｂ⑨を含む），赤柴遺跡（20,100㎡），赤柴前遺跡（12,600㎡），ＳＴ－Ｂ⑮（5,800㎡：赤柴前遺跡に含める）の４箇所，保存面積の合計は44,700㎡となる。ＳＴ－Ｂ⑮は，地形の連続性及び確認した遺構の内容から赤柴前遺跡と一連のものと判断でき，赤柴前遺跡に含めた。平成24年度で試掘調査が終了した遺跡及び遺跡推定地は，北から順にＳＴ－Ｂ⑯，鈴山遺跡，赤柴遺跡，赤柴前遺跡，ＳＴ－Ｂ⑮である。南狼沢Ａ遺跡，ＳＴ－Ｂ⑪の２箇所については，試掘調査を継続することとなる。

２．一般国道115号相馬福島道路建設予定地

一般国道115号相馬福島道路の阿武隈東IC～阿武隈IC間の埋蔵文化財にかかわる表面調査は，平成24年度に相馬市玉野地区から伊達市霊山町石田地区まで実施し，９箇所の遺跡推定地を確認している。同区間の試掘調査は今年度より開始し，ＤＴ－Ｂ14の850㎡を対象に実施した。

また，阿武隈IC～霊山IC間（霊山道路）の表面調査は，平成19・21年度に伊達市霊山町石田地区から下小国地区まで実施し，10箇所の周知の遺跡と６箇所の新発見の遺跡，15箇所の遺跡推定地を確認している。

表36　常磐自動車道関連試掘調査対象遺跡成果一覧（相馬市・新地町）

No.	遺跡名	試掘調査			試掘対象面積	年度別試掘対象面積			未試掘面積	保存面積	備考
		終	継	未		年度	面積	報告書			
	［相馬市］										
1	払川	○			13,000㎡	H20	12,700㎡	『県内分15』	0㎡	800㎡	H22（800㎡）発掘実施。『常磐 67』
						H24	300㎡	（3頁）		0㎡	
	相馬市　計	1	0	0	13,000㎡	終了	13,000㎡		0㎡	800㎡	
						H24	300㎡			0㎡	
	［新地町］										
2	ＳＴ－Ｂ⑯	○			1,300㎡	H24	1,300㎡	（4頁）	0㎡	0㎡	
3	新　田(ST−A19)	○			12,900㎡	H23	12,900㎡	『県内分19』	0㎡	9,000㎡	H24(9,000㎡)発掘実施。
4	朴木原(ST−A18)	○			6,900㎡	H22	6,900㎡	『県内分18』	0㎡	1,700㎡	H24(2,800㎡)発掘実施。
5	朴木原(ST−B⑧)	○			1,100㎡	H22	1,100㎡	『県内分18』	0㎡	1,100㎡	
6	ＳＴ－Ｂ⑥	○			1,600㎡	H21	1,400㎡	『県内分17』	200㎡	0㎡	未試掘200㎡含め終了。
7	沢入B(ST−B⑬)	○			9,500㎡	H23	9,500㎡	『県内分19』	0㎡	2,700㎡	H23(800㎡)発掘実施。H24(3,900㎡)発掘実施。
8	沢入B(ST−B⑫)	○			3,100㎡	H23	3,100㎡	『県内分19』	0㎡	2,000㎡	
9	ＳＴ－Ｂ⑦	○			9,700㎡	H22	2,400㎡	『県内分18』	0㎡	0㎡	
						H23	7,300㎡	『県内分19』		0㎡	
10	大清水B(ST−B⑭)	○			3,500㎡	H23	3,500㎡	『県内分19』	0㎡	600㎡	H23(4,000㎡)発掘実施。H24(8,100㎡)発掘実施。
11	大清水B(ST−B⑤)	○			8,000㎡	H23	8,000㎡	『県内分19』	0㎡	6,400㎡	
12	大清水B(ST−B④)	○			8,200㎡	H23	8,200㎡	『県内分19』	0㎡	5,100㎡	
13	北狼沢Ａ	○			16,200㎡	H21	5,000㎡	『県内分17』	1,000㎡	3,500㎡	H22(2,800㎡)発掘実施。H23(1,400㎡)発掘実施。未試掘1,000㎡含め終了。
						H22	7,400㎡	『県内分18』		0㎡	
						H23	2,800㎡	『県内分19』		700㎡	
14	南狼沢Ａ		○		6,700㎡	H24	5,100㎡	（6頁）	1,600㎡	4,400㎡	H24(3,200㎡)発掘実施。
15	ＳＴ－Ｂ⑪（南狼沢Ａ）		○		2,300㎡	H24	1,400㎡	（8頁）	900㎡	1,400㎡	南狼沢Ａ遺跡に含める。
16	南狼沢B(ST−B⑩)	○			7,700㎡	H23	7,700㎡	『県内分19』	0㎡	4,000㎡	ＳＴ－Ｂ⑩の500㎡は南狼沢Ａ遺跡に含める。H24(9,400㎡)発掘実施。
17	南狼沢B(ST−B③)	○			8,100㎡	H23	8,100㎡	『県内分19』	0㎡	5,900㎡	
18	南狼沢(ST−B②)	○			3,500㎡	H23	3,500㎡	『県内分19』	0㎡	2,300㎡	H24(2,300㎡)発掘実施。
19	南狼沢(ST−A10)	○			8,000㎡	H22	5,000㎡	『県内分18』	0㎡	0㎡	
						H23	3,000㎡	『県内分19』		0㎡	
20	鈴　山(ST−B⑨)	○			8,200㎡	H23	7,600㎡	『県内分19』	0㎡	2,400㎡	H24(6,200㎡)発掘実施。
						H24	600㎡	（9頁）		0㎡	
21	鈴　山(ST−A9)	○			8,000㎡	H23	8,000㎡	『県内分19』	0㎡	3,800㎡	
22	大　槻(ST−A8)	○			32,100㎡	H21	7,600㎡	『県内分17』	6,200㎡	0㎡	H22(1,000㎡)発掘実施。『常磐67』未試掘6,200㎡含め終了。
						H22	17,000㎡	『県内分18』		1,000㎡	
						H23	1,300㎡	『県内分19』		0㎡	
23	赤　柴(ST−A7)	○			32,900㎡	H21	3,000㎡	『県内分17』	2,000㎡	－	H21の保存面積はH22に再検討。H23(8,700㎡)発掘実施。H24(4,100㎡)発掘実施。未試掘2,000㎡含め終了。
						H22	22,600㎡	『県内分18』		16,300㎡	
						H23	4,400㎡	『県内分19』		3,100㎡	
						H24	900㎡	（10頁）		700㎡	
24	赤　柴　前（ST−A6・B①）	○			65,800㎡	H19	10,600㎡	『県内分14』	0㎡	1,000㎡	H21・22の保存面積はH23に再検討。H21(1,000㎡),H22(2,500㎡),H23(5,800㎡)発掘実施。H24(3,300㎡)発掘実施。『常磐66』『常磐67』
						H20	19,300㎡	『県内分15』		2,500㎡	
						H21	9,000㎡	『県内分17』		－	
						H22	4,400㎡	『県内分18』		－	
						H23	6,700㎡	『県内分19』		8,300㎡	
						H24	15,800㎡	（11頁）		800㎡	
25	ＳＴ－Ｂ⑮（赤柴前）	○			9,800㎡	H24	9,800㎡	（13頁）	0㎡	5,800㎡	赤柴前遺跡に含める。H24(5,800㎡)発掘実施。
26	鴻　ノ　巣	○			4,000㎡	H19	4,000㎡	『県内分14』	0㎡	3,000㎡	H21(3,000㎡)発掘実施。『常磐66』
27	駒ヶ嶺山神	○			4,000㎡	H19	4,000㎡	『県内分14』	0㎡	0㎡	
28	白子下Ｃ	○			7,100㎡	H18	7,100㎡	『県内分13』	0㎡	4,100㎡	H21(4,100㎡)発掘実施。『常磐66』
	新地町　計	25	2	0	290,200㎡	終了	278,300㎡		11,900㎡	103,600㎡	保存103,600㎡のうち，2,600㎡未発掘。
						H24	34,900㎡			13,100㎡	

[用 例]　『県内分＊』→『福島県内遺跡分布調査報告＊』，『常磐＊』→『常磐自動車道遺跡調査報告＊』，（＊ 頁）→本報告書掲載ページ，終→終了，継→調査継続中，未→未着手　以下，共通。

※遺跡・遺跡推定地は，北から順に掲載した。

表37　相馬福島道路（阿武隈東IC ～阿武隈IC間）試掘調査対象遺跡成果一覧（相馬市・伊達市）

No.	遺　跡　名	試掘調査			試掘対象	年度別試掘対象面積			未試掘面積	保存	備　　考
		終	継	未	面　積	年度	面　積	報 告 書		面積	
1	ＳＭ－Ｂ⑮			○	10,100㎡	－	－	－	10,100㎡	－	
2	ＳＭ－Ｂ⑯			○	11,100㎡	－	－	－	11,100㎡	－	
3	ＳＭ－Ｂ⑰			○	6,500㎡	－	－	－	6,500㎡	－	
4	ＳＭ－Ｂ⑱			○	11,300㎡	－	－	－	11,300㎡	－	
5	ＳＭ－Ｂ⑲			○	22,800㎡	－	－	－	22,800㎡	－	
	相馬市　計	0	0	5	61,800㎡	終了	－		61,800㎡	－	
6	ＤＴ－Ｂ 14 （川向遺跡）		○		9,200㎡	H24	850㎡	（22 頁）	8,350㎡	500㎡	川向遺跡に名称変更。
7	ＤＴ－Ｂ 16			○	2,200㎡	－	－	－	2,200㎡	－	
8	ＤＴ－Ｂ 17			○	2,400㎡	－	－	－	2,400㎡	－	
9	ＤＴ－Ｂ 18			○	7,900㎡	－	－	－	7,900㎡	－	
	伊達市　計	0	1	3	21,700㎡		850㎡	－	20,850㎡	500㎡	
	合　　計	0	1	8	83,500㎡				82,650㎡	500㎡	保存500㎡は，**H24未発掘。**
						H24	850㎡			500㎡	

表38　相馬福島道路（霊山道路）試掘調査対象遺跡成果一覧（伊達市）

No.	遺　跡　名	試掘調査			試掘対象	年度別試掘対象面積			未試掘面積	保存	備　　考
		終	継	未	面　積	年度	面　積	報 告 書		面積	
1	ＤＴ－Ｂ５			○	3,800㎡	－	－	－	3,800㎡	－	
2	山岸			○	3,600㎡	－	－	－	3,600㎡	－	
3	前柳館跡			○	2,100㎡	－	－	－	2,100㎡	－	
4	渋谷館跡			○	5,200㎡	－	－	－	5,200㎡	－	
5	宝直館跡	○			16,000㎡	H24	16,000㎡	（17 頁）	0㎡	2,800㎡	
6	宝直	○			3,000㎡	H24	3,000㎡	（19 頁）	0㎡	2,000㎡	
7	熊屋敷Ｂ	○			1,600㎡	H24	1,600㎡	（20 頁）	0㎡	1,100㎡	
8	ＤＴ－Ｂ９ （行合道Ｂ遺跡）	○			4,500㎡	H24	4,500㎡	（22 頁）	0㎡	1,200㎡	行合道B遺跡に名称変更。
	合　　計	4	0	4	39,800㎡	終了	25,100㎡		14,700㎡	7,100㎡	保存7,100㎡は，**H24未発掘。**
						H24	25,100㎡			7,100㎡	

※　試掘対象面積･未試掘面積などは，工事計画などにより変更される場合がある。

同区間の試掘調査も今年度より開始し，３箇所の遺跡及び１箇所の遺跡推定地を対象に実施した。

［伊　達　市］　阿武隈東 IC ～阿武隈 IC 間のＤＴ－Ｂ 14(850㎡)を対象に試掘調査を実施した結果，遺物が出土した500㎡を保存とし，川向遺跡として登録することとなった。それ以外の350㎡については，今後の試掘結果を受けて判断することとした。

阿武隈 IC ～霊山 IC 間の試掘調査は，宝直館跡(16,000㎡)，宝直遺跡(3,000㎡)，熊屋敷Ｂ遺跡(1,600㎡)，ＤＴ－Ｂ９(4,500㎡)の合計25,100㎡を対象に行った。その結果，平成24年度対象遺跡の全てで保存範囲が確定し，４箇所の保存面積は合計7,100㎡となった。なお，ＤＴ－Ｂ９については，遺物が出土した範囲を中心に行合道Ｂ遺跡として登録する。

一般国道115号相馬福島道路の平成25年度以降の試掘調査は，相馬 IC ～相馬西 IC 間の10箇所の遺跡推定地，阿武隈東道路のＳＭ－Ｂ⑳(『福島県内遺跡分布調査報告15』のＳＭ－Ｂ③から改称)１箇所，阿武隈東 IC ～阿武隈 IC 間の９箇所の遺跡推定地，阿武隈 IC ～霊山 IC 間では山岸遺跡，前柳館跡，渋谷館跡，１箇所の遺跡推定地，４区間の合計24箇所143,450㎡を対象に実施する。また，霊山 IC 付近は工区の変更が計画されており，再度の表面調査が必要となる。さらに霊山 IC ～福島北 JCT 間についても，詳細な表面調査を実施する必要がある。

３．一般国道118号バイパス建設予定地（鏡石町）

平成20年度に須賀川市(稲・松塚地区)，岩瀬郡鏡石町(蒲之沢町・深内町地区)を対象に工区内の表面調査を行い，６箇所の周知の遺跡，１箇所の新発見の遺跡の他，13箇所の遺跡推定地を確認した。試掘調査を平成22年度から始め，ＫＩ－Ｂ２(3,500㎡)，江泉館跡の一部(4,500㎡)を対象に実施した結果，保存対象外となった。平成24年度の試掘調査は，江泉館跡及びＫＩ－Ｂ１を対象に実施した。須賀川市に所在する遺跡及び遺跡推定地の試掘調査は，須賀川市教育委員会が実施する。

[鏡　石　町]　江泉館跡(7,200㎡)を対象に実施した試掘調査の結果，遺構・遺物とも非常に希薄なことから，対象範囲を慎重工事とした。江泉館跡の試掘調査は，宅地部分の700㎡が未試掘範囲である。ＫＩ－Ｂ１(1,350㎡)は，遺構・遺物とも確認できなかったことから対象範囲を除外とした。未試掘面積は工区東端の150㎡である。ＫＩ－Ｂ４(1,900㎡)の試掘調査は未着手であるが，今後の工事計画の変更により試掘対象箇所が変更される可能性がある。

表39　一般国道118号バイパス関連試掘調査対象遺跡成果一覧（鏡石町）

No.	遺跡名	試掘調査			試掘対象面積	年度別試掘対象面積			未試掘面積	保存面積	備考
		終	継	未		年度	面積	報告書			
1	江泉館跡（深内板碑群）		○		12,400㎡	H23	4,500㎡	『県内分19』	700㎡	0㎡	
						H24	7,200㎡	(25頁)		0㎡	
2	ＫＩ－Ｂ１		○		1,500㎡	H24	1,350㎡	(27頁)	150㎡	0㎡	
3	ＫＩ－Ｂ２	○			3,500㎡	H22	3,500㎡	『県内分18』	0㎡	0㎡	
4	ＫＩ－Ｂ４			○	1,900㎡	－	－㎡	－	－㎡	－㎡	
	合計	1	2	1	19,300㎡	終了	16,550㎡		850㎡	0㎡	
						H24	8,550㎡			0㎡	

※　試掘対象面積･未試掘面積などは，工事計画などにより変更される場合がある。

４．地域高規格道路（会津縦貫北道路）建設予定地

平成12年度より，喜多方市から河沼郡湯川村にかけての遺跡及び遺跡推定地12箇所を対象に，会津縦貫北道路関連の試掘調査を行っている。平成18年度には喜多方市(旧塩川町含む)の遺跡及び遺跡推定地７箇所すべての試掘調査を終了し，平成22年には湯川村の５箇所について試掘調査をすべて終了した。

会津若松市での試掘調査は平成23年度から始まり，８箇所の遺跡及び遺跡推定地が対象となっている。平成24年度は，１箇所の遺跡と５箇所の遺跡推定地の計６箇所について実施した。

表40　会津縦貫北道路関連試掘調査対象遺跡成果一覧（湯川村）

No.	遺跡名	試掘調査			試掘対象面積	年度別試掘対象面積			未試掘面積	保存面積	備考
		終	継	未		年度	面積	報告書			
1	浜崎館跡	○			3,000㎡	H14	3,000㎡	『県内分９』	0㎡	0㎡	
2	沼ノ上	○			21,400㎡	H14	11,600㎡	『県内分９』	0㎡	0㎡	H19に3,000㎡発掘実施（100㎡範囲拡張）。『縦貫北８』
						H19	9,800㎡	『県内分14』		2,900㎡	
3	ＵＫ－Ｂ１	○			－		－		－	－	全範囲を沼ノ上遺跡に含めた。
4	ＵＫ－Ｂ３	○			8,700㎡	H20	8,700㎡	『県内分15』	0㎡	0㎡	
5	桜町	○			77,900㎡	H15	46,500㎡	『県内分10』	1,000㎡	8,200㎡	H16（4,300㎡），H21（11,200㎡），H22（11,000㎡）H23（5,900㎡）発掘実施。未試掘1,000㎡含め終了。『縦貫北５・10・11・12』
						H16	26,500㎡	『県内分11』		25,800㎡	
						H20	2,500㎡	『県内分15』		2,500㎡	
						H22	1,400㎡	『県内分18』		150㎡	
	合計	5	0	0	111,000㎡		110,000㎡		1,000㎡	39,550㎡	保存39,550㎡のうち，**2,000㎡未発掘。**

［用　例］『縦貫北＊』→『会津縦貫北道路遺跡調査報告＊』

表41　会津縦貫北道路関連試掘調査対象遺跡成果一覧（会津若松市）

No.	遺跡名	試掘調査			試掘対象面積	年度別試掘対象面積			未試掘面積	保存面積	備考
		終	継	未		年度	面積	報告書			
1	ＡＷ－Ｂ１	○			8,400㎡	H23	7,000㎡	『県内分 19』	0㎡	7,000㎡	西木流Ｃ遺跡に名称変更。
						H24	1,400㎡	（29 頁）		1,400㎡	H24（1,100㎡）発掘実施。
2	西木流Ｃ	○			9,600㎡	H23	8,800㎡	『県内分 19』	800㎡	8,800㎡	H24（4,900㎡）発掘実施。未試掘 800㎡含め終了。
3	西木流Ｄ	○			19,900㎡	H23	10,300㎡	『県内分 19』	300㎡	8,000㎡	未試掘 300㎡含め終了。
						H24	9,300㎡	（30 頁）		9,600㎡	
4	ＡＷ－Ｂ３	○			15,200㎡	H23	9,700㎡	『県内分 19』	600㎡	9,050㎡	未試掘 600㎡含め終了。
						H24	4,900㎡	（30 頁）		5,500㎡	鶴沼Ｂ遺跡に名称変更。
5	鶴沼Ｂ	○			2,900㎡	H23	2,900㎡	『県内分 19』	0㎡	2,950㎡	
6	ＡＷ－Ｂ２		○		13,700㎡	H24	9,800 ㎡	（33 頁）	3,900㎡	9,800㎡	鶴沼Ｃ遺跡に名称変更。第２沼川左岸は鶴沼Ｂ遺跡に含める。
7	ＡＷ－Ｂ４		○		9,600㎡	H24	2,100㎡	（35 頁）	7,500㎡	0㎡	
8	ＡＷ－Ｂ５		○		11,600㎡	H24	5,800㎡	（35 頁）	5,800㎡	5,800㎡	西坂才遺跡に名称変更。
	合　計	5	3	0	90,900㎡	終了	72,000㎡		18,900㎡	67,900㎡	保存 67,900㎡のうち，**61,900㎡未発掘。**
						H24	33,300㎡			32,100㎡	

［会津若松市］　平成24年度の試掘調査は，北から遺跡推定地ＡＷ－Ｂ１（1,400㎡），西木流Ｄ遺跡（9,300㎡），ＡＷ－Ｂ３（4,900㎡），ＡＷ－Ｂ２（9,800㎡），ＡＷ－Ｂ４（2,100㎡），ＡＷ－Ｂ５（5,800㎡）の合計33,300㎡を対象に行った。その結果，平成24年度の保存面積は合計32,100㎡となった。５箇所の遺跡は，すべて溷川の左岸に広がる氾濫原及び微高地上に営まれ，平安時代の遺構及び遺物が主に確認されている。ＡＷ－Ｂ１は西木流Ｃ遺跡に，ＡＷ－Ｂ３は鶴沼Ｂ遺跡に含めた。ＡＷ－Ｂ２は第２沼川を境に西側を鶴沼Ｂ遺跡とし，東側を鶴沼Ｃ遺跡とした。ＡＷ－Ｂ５は西坂才遺跡として登録する。

平成25年度以降の試掘調査は，鶴沼Ｂ遺跡（ＡＷ－Ｂ２），ＡＷ－Ｂ４，西坂才遺跡（ＡＷ－Ｂ５）を対象に実施する予定である。

５．地域高規格道路（会津縦貫南道路）建設予定地

会津縦貫南道路は平成18・19年度に表面調査を実施し，12箇所の遺跡及び遺跡推定地を確認した。平成24年度の試掘調査は，下郷町内の栗林遺跡１箇所を対象に実施した。

［下　郷　町］　栗林遺跡（8,200㎡）を対象に試掘調査を実施した結果，遺構・遺物が確認された調査区北半5,000㎡を保存範囲とした。宅地部分2,000㎡は未試掘である。その他の，周知の遺跡５箇所と遺跡推定地６箇所の試掘調査については，未着手である。試掘対象箇所と面積については，今後の工事計画などにより変更される場合がある。

表42　会津縦貫南道路関連試掘調査対象遺跡成果一覧（下郷町）

No.	遺跡名	試掘調査			試掘対象面積	年度別試掘対象面積			未試掘面積	保存面積	備考
		終	継	未		年度	面積	報告書			
1	瀧ノ入			○	－						
2	水門			○	－						
3	栗林		○		10,200㎡	H24	8,200㎡	（39 頁）	2,000㎡	5,000㎡	
4	中丸			○	－						
5	中妻館跡			○	－						
6	辻堂下			○	－						
7	ＣＧ－Ｂ８			○	－						
8	ＣＧ－Ｂ９			○	－						
9	ＣＧ－Ｂ 10			○	－						
10	ＣＧ－Ｂ 11			○	－						
11	ＣＧ－Ｂ 12			○	－						
12	ＣＧ－Ｂ 13			○	－						
	合　計	0	1	11	10,200㎡	終了	8,200㎡		2,000㎡	5,000㎡	保存5,000㎡は，**H24未発掘。**

※　調査対象遺跡・試掘対象面積･未試掘面積などは，工事計画などにより変更される場合がある。

福島県文化財調査報告書第494集

福島県内遺跡分布調査報告20

平成25年11月１日発行

編　集　財団法人福島県文化振興財団
〒960－8116　福島市春日町５－54
発　行　福島県教育委員会
〒960－8688　福島市杉妻町２－16
印　刷　八幡印刷株式会社
〒970－8026　いわき市平字田町82－13

２０１３